

INTERNATIONAL ICE HOCKEY FEDERATION

IIHF SITUATION HANDBOOK 2026/27

公益財団法人日本アイスホッケー連盟監修
アイスホッケー国際競技規則2026/27 日本語版

IIHF SITUATION HANDBOOK 2026/27 – Version 1.0, June 2026

序文

IIHF シチュエーションハンドブックは、ゲームオフィシャルやその他の人々が、対応する IIHF ルールブックに、ルールの解釈や実施に関する追加情報やガイダンスを提供するためのツールである。
これは対応するルールの適用を説明するケーススタディーを集めたもので、ルールの適用をより明確にするものである。IIHF シチュエーションハンドブックは NHL シチュエーションハンドブックをベースにしており、この文書に協力した NHL の支援と協力に感謝の意を表したい。

IIHF シチュエーションハンドブックの読者として、またユーザーとして重要なことは、矛盾がある場合には、常に有効な IIHF ルールブックが基本であるということである。

シチュエーションハンドブックの利用者は、ルールに関する質問を IIHF に提出することが求められる。ルールの適用をより標準化し、部分的に複雑なルールをより理解しやすくすることが目的である。ご意見・ご要望は rulebook@iihfoffice.com までお寄せください。

IIHF シチュエーションハンドブックは、現在 IIHF のウェブページで公開されている最新版を常に使用するようお願いします。IIHF シチュエーションハンドブックは、IIHF 公式ルールブックと同じ年次で更新することが IIHF の目標です。

ご関心をお寄せいただきありがとうございます。

© Zurich, June 2026

一般情報

著作権

無断複写・複製・転載を禁ず。国際アイスホッケー連盟の書面による事前承諾なく、本出版物の一部を複製し、電子的、機械的、写真複写、録音録画、その他の形式や手段で送信し、または検索システムに保存して、それを使用することは、著作権法の侵害となる。この出版物をスキャンすること、アップロードすること、インターネットやその他の方法で配布することは違法である。

公用語

IIHF ではルールブックを英語で発行している。異なる言語への翻訳は、通常は加盟国協会が作成する。表現に相違がある場合は、英語のテキストが優先される。

その他の言語

加盟国協会（MNA）がこのフォーマットを使ってアイスホッケー国際競技規則（IIHF ルールブック）の翻訳版を作成した場合には、IIHF に 1 部を送付し（表紙にその MNA の公式翻訳であることを明記）、IIHF のウェブサイトにそれを掲載し、他者が使用できるようにする。

ご意見・ご感想

このシチュエーション・ハンドブックに関するご質問、ご提案、ご指摘がございましたら、rulebook@iihfoffice.com までお問い合わせください。

アイスホッケー国際競技規則 2026/27 ＜日本語版＞

翻訳・監修　日本アイスホッケー連盟レフェリー委員会
発　　行　公益財団法人日本アイスホッケー連盟
〒160-0013
東京都新宿区霞ケ丘町 4 番 2 号 Japan Sport Olympic Square 602 号室
TEL：03-3481-2404　FAX：03-3481-2407
E-mail：jihf@jihf.or.jp
http://www.jihf.or.jp/

目次

序文 2

一般情報 3

プレーエリア 7

RULE 1 リンク . . . 8
RULE 2 ゴールポストとネット . . . 8
RULE 3 ベンチ . . . 8
RULE 4 シグナルと時間装置 . . . 8

チーム 9

RULE 5 チーム . . . 10
RULE 6 キャプテンとオルタネイトキャプテン . . . 12
RULE 7 スターティングラインナップ . . . 12
RULE 8 負傷したプレーヤー . . . 13

用具 17

RULE 9 ユニフォーム . . . 18
RULE 10 スティック . . . 21
RULE 11 ゴールキーパーの用具 . . . 27
RULE 12 不正な用具 . . . 27
RULE 13 パック . . . 28
RULE 14 衣類や用具の調整 . . . 29

ペナルティの種類 30

RULE 15 ペナルティのコール . . . 31
RULE 16 マイナー・ペナルティ . . . 32
RULE 17 ベンチ・マイナー・ペナルティ . . . 34
RULE 18 ダブル・マイナー・ペナルティ . . . 35
RULE 19 同時のペナルティ . . . 35
RULE 20 メジャー・ペナルティ . . . 40
RULE 21 危険な行為 . . . 41
RULE 22 ミスコンダクト・ペナルティ . . . 42
RULE 23 ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティ . . . 42
RULE 24 ペナルティ・ショット . . . 43
RULE 25 ゴールの授与 . . . 51
RULE 26 ディレイド・ペナルティ . . . 52
RULE 27 ゴールキーパーのペナルティ . . . 54

RULE 28 補足的規律 59
RULE 29 オフィシャルのシグナル 59

オフィシャル 61
RULE 30 オフィシャルの任命 61
RULE 31 レフェリー 61
RULE 32 ラインズパーソン 62
RULE 33 オフィシャル・スコアキーパー 63
RULE 34 タイム・キーパー 63
RULE 35 ペナルティ・タイムキーパー 64
RULE 36 統計スタッフ 66
RULE 37 ビデオレビュー 66
RULE 38 コーチ・チャレンジ 67
RULE 39 アビューズ・オブ・オフィシャル 73
RULE 40 身体的なアビューズ・オブ・オフィシャル 75

身体的妨害 76
RULE 41 ボーディング 77
RULE 42 チャージング 77
RULE 43 チェッキング・フロム・ビハインド 77
RULE 44 クリッピング 77
RULE 45 エルボーイング 78
RULE 46 ファイティング 78
RULE 47 ヘッドバッティング 82
RULE 48 イリーガル・チェック・トゥ・ザ・ヘッド・オア・ネック 83
RULE 49 キッキング 83
RULE 50 ニーイング 84
RULE 51 ラフィング 84
RULE 52 スルーフィッティング 84
RULE 53 スローイング・イクイップメント 84

拘束する妨害 89
RULE 54 ホールディング 90
RULE 55 フッキング 90
RULE 56 インターフェアランス 90
RULE 57 トリッピング 92

スティックでの妨害 96
RULE 58 バット・エンディング 96
RULE 59 クロスチェッキング 96

RULE 60 ハイスティッキング 96
RULE 61 スラッシング 99
RULE 62 スピアリング 100

その他の妨害 101
RULE 63 ディレイング・ザ・ゲーム 102
RULE 64 ダイビング／エンベリッシュメント 110
RULE 65 用具 111
RULE 66 没収試合 111
RULE 67 ハンドリング・ザ・パック 111
RULE 68 不正な交代 114
RULE 69 ゴールキーパーへのインターフェアランス 116
RULE 70 リービング・プレーヤーズ・ベンチ・オア・ペナルティボックス 117
RULE 71 早すぎる交代 119
RULE 72 パックプレーの拒否 120
RULE 73 プレー開始の拒否 122
RULE 74 トゥー・メニープレーヤーズ・オン・ジ・アイス 123
RULE 75 アンスポーツマンライク・コンダクト 125

ゲームの流れ 128
RULE 76 フェイスオフ 129
RULE 77 ゲームとインターミッションの時計 141
RULE 78 ゴール 141
RULE 79 ハンドパス 147
RULE 80 パックに対するハイスティッキング 149
RULE 81 アイシング 152
RULE 82 ラインチェンジ 157
RULE 83 オフサイド 159
RULE 84 延長のオペレーション 169
RULE 85 アウト・オブ・バウンズ 172
RULE 86 試合とピリオドの開始 179
RULE 87 タイムアウト 180

ジュニア・アイスホッケー 183
RULE 88 男子ジュニア・アイスホッケー - 年齢カテゴリ 184
RULE 89 特定競技規則 184
RULE 90 男子ジュニア・アイスホッケー - 特定用具規則 184

その他 185
RULE 91 その他 186

SECTION 01

Playing Area



プレーエリア

RULE 1　　リンク

状況 1.1

延長戦の最中、A チームはマイナー・ペナルティを科されている。ピリオド残り 1 分 58 秒で時計が止まる。突然ザンボニーのゲートが開き、アイスクルーが余分な雪をかき出すために氷上に入ってきた。これは許可されているのか？

答え

これは Rule 87.2 により許されないことであり、しかるべき当局に報告されるべきである。

RULE 2　　ゴールポストとネット

該当なし

RULE 3　　ベンチ

該当なし

RULE 4　　シグナルと時間装置

状況 4.1

ゲームクロックは時間切れを示しているが、ピリオドの終了を告げるホーンが鳴っていない。ピリオドは終了しているか？

答え

はい。オフィシャルの 1 人が時間切れに気づいたら、すぐに笛を吹いてプレーを止めなければならない。時間切れ後（ただし、オフィシャルが気づく前）にゴールが決まった場合、レフェリーはビデオレビュー・コンサルタントと協議し、そのゴールは認められないことがある。Rule 4

状況 4.2

オフィシャルの 1 人が、プレーは始まっているが時計が動いていないことに気づく。どのような手順が必要か？

答え

オフィシャルがプレーを止める機会および/または必要があるまで、プレーは続けてよい（止める場合、パックがニュートラル・ゾーンにあり、すぐに得点の機会が迫っていないときに行うべきである-ブレイクアウェイ、エンプティネットなど）。通常のプレー停止までプレーを続けることができる。この場合、レフェリーは、ゲームタイムキーパーおよび/またはビデオレビュー・コンサルタントと協議し、適切な時間に時計をリセットしなければならない。Rule 4；Rule 34.7；Rule 37.6

SECTION 02

Teams



チーム

RULE 5　　チーム

状況 5.1

試合開始前、オフィシャルスコアラーからラインナップを受け取った後、レフェリーはビジターチームのラインナップの選手の 1 人の名前が 2 つの異なる番号で 2 回書かれており、合計 20 人のスケーターと 2 人のゴールキーパーがいることに気づいた。この状況を修正するために、オフィシャルはどのような手順に従うか？

答え

レフェリーは、違反したチームと公式スコアキーパーにこのことを知らせ、適切な訂正ができるようにする。ペナルティは科されない。Rule 5.1

状況 5.2

第 1 ピリオド 14:00、A チームがゴールを決める。レフェリーがセンターアイスにパックをドロップする直前、B チームのコーチがレフェリーをプレーヤーズ・ベンチに呼び寄せた。コーチはレフェリーに、ゴール時に氷上にいたプレーヤー A48 の名前が名簿に間違って書かれていることを告げる。オフィシャルはどうすればよいか？

答え

レフェリーはゴールを認めず、チーム A48 は不適格なプレーヤーとみなされるため、リンクの外へ退場するものとする。Rule 5.2；Rule 78.5（IV）

注：この判断を下す際には、常識が優先されなければならない。例えば、問題の氏名が MacDonald であるにもかかわらず、ロースターシート上では McDonald と誤記されていた場合、ルールの精神は変更されておらず、このゴールは認められるべきである。しかし、問題の名前が Girard で、Giroux と誤記されていた場合、これはルールの精神に反するので、ゴールは認められない。

状況 5.3

第 2 ピリオド 12:00、A チームがゴールを決めた。停止時、B チームは A12 が 20 人のスケーターリストに記載されておらず、ゴール時に氷上にいたと主張する。また、A12 が第 1 ピリオドのゴールでアシストをしていたと主張した。レフェリーの判断はどうなるか？

答え

無資格のプレーヤーが氷上にいるときにゴールが決まった場合（そのプレーヤーが得点に関与したか否かを問わない）、そのゴールは認められない。これは、そのプレーヤーが不適格とみなされたプレーの停止時に得点されたゴールにのみ適用される。不適格プレーヤーのチームが以前に得点したその他のゴールはすべて（そのプレーヤーが氷上にいてもいなくても）認められる。不適格プレーヤーは試合から退場させられ、追加の罰則は科されない。Rule 5.2

状況 5.4

第 2 ピリオド開始早々、A チームの A12 がマイナー・ペナルティとメジャー・ペナルティを科された。ペナルティを終えて氷上に戻った後、A12 が次のシフトで得点を挙げた。そのプレーヤーがペナルティ・ボックスにいる間に、レフェリー団は、そのメジャー・ペナルティが当該試合で 2 回目のメジャーであったため、A12 にはゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科されるべきであったとの報告を受けた。レフェリー団はどのような処置をとるべきか？

チーム

答え
レフェリーは、出場資格のないプレーヤーによるゴールを取り消し（Rule 5.2）、A12 にゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科さなければならない。(Rule 20.4）

状況 5.5

第 1 ピリオドの途中、A チームの先発ゴールキーパーが負傷退場する。バックアップのゴールキーパーが試合に出場し、A チームには第 3 のゴールキーパーがいること、先発ゴールキーパーが再出場できないほどの負傷をしていることから、第 3 のゴールキーパーは交代してベンチに座る。第 2 ゴールキーパーは 3 失点を許すが、第 1 ピリオドを終える。第 2 ピリオド開始時、第 3 ゴールキーパーが試合に入る。最初の 2 人のゴールキーパーはベンチにいない。レフェリーはどうすべきか?

答え
第 3 のゴールキーパーが出場できるのは、「両ゴールキーパーが故障している場合」のみであるため、レフェリーはコーチに、第 2 のゴールキーパーが負傷または病気であるかどうかを尋ねなければならない。もし「はい」と答えれば、第 3 ゴールキーパーはプレーすることができるが、「いいえ」と答えれば、第 2 ゴールキーパーは戻らなければならない。Rule 5.3

状況 5.6

選手番号 12 が名簿に記載されているが、名前が間違っている（名簿に記載されている他の選手と重複している)。このことは試合中にレフェリーに知らされた。名簿に正しく記載されなければならないのは名前か背番号か (あるいはその両方か)？ 例: #2 Nicole Smith, #4 Julia Baker, #8 Taryn Daneman, #10 Maria Leggo, #12 Nicole Smith

答え
名前は正しくなければならない。#12 は Lisa Carson と記載されるべきであったが、記載されていなかった。従って、このプレーヤーは試合から外されなければならない。 Rule 5.1 および Rule 5.2

状況 5.7

A チームが 4-0 でリードしている。第 1 ピリオド 8:59、B チームは A13 がロースターシートに登録されていないことをレフェリーに伝える。A13 は 3 ゴールしてる。レフェリーはどうするか？

答え
A13 はゲームから除外される。B チームは通常のプレー停止時にレフェリーに報告したため、得点はすべて認められる。Rule 5.2

状況 5.8

第 1 ピリオド開始早々、A1 のゴールキーパーにゲーム・ミスコンダクトによるペナルティが科された。代わりのゴールキーパーが試合に入り、第 2 ピリオドで負傷し、プレーを続けることができない。A チームには第 3 のゴールキーパーがいない。第 1 ピリオドで退場させられた第 1 ゴールキーパー (A1) は再び試合に出場できるか？

答え
A1 のゴールキーパーは、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティのため出場できない。A チームは、試合開始時に 20 名登録されていたプレーヤー 1 名をゴールキーパーとして起用できる。Rule 5.3

チーム

状況 5.9

ウォームアップでは何人の選手が着替えられるのか？

答え

上限はない。ただし、試合前のウォームアップに参加するためには、その選手がその IIHF 選手権に登録されている必要がある。Rule 5.6

状況 5.10

A チームの両 GK が試合中に立て続けに負傷した。A チームには第 3 のゴールキーパーがいる。第 3 のゴールキーパーに着替えをさせ、プレーの準備を整えるのに、どれくらいの時間が許されるのか？

答え

この規則では、ゴールキーパーは「2 分間のウォームアップに加え、着替えのための適切な時間を与えられなければならない」。Rule 5.3

RULE 6　キャプテンとオルタネイトキャプテン

状況 6.1

チームは 2 人の共同キャプテンを指名したい。レフェリーは、チームが複数のプレーヤーにキャプテンを務めさせることを認めるべきか？

答え

各試合のキャプテンは 1 人でなければならない。キャプテン 1 名およびオルタネイトキャプテン 2 名以内、またはキャプテンを指名せずオルタネイトキャプテン 3 名以内とすることが認められる。このような指名はすべて、身分証明に関する競技規則に従わなければならない。Rule 6

状況 6.2

公式スコアラーが試合開始前に、A チームのコーチがキャプテンとオルタネイトキャプテンの指名を拒否したことをレフェリーに通知した。レフェリーは何をすべきか？

答え

レフェリーは、A チームのコーチに対し、キャプテンおよびオルタネイトキャプテンの指名を拒否した場合、試合中にレフェリーと問題を話し合うチームの代弁者を立てる権利を失うことを伝えるべきである。Rule 6 および Rule 33.1

RULE 7　スターティングラインナップ

該当なし

チーム

RULE 8　　負傷したプレーヤー

状況 8.1

第 1 ピリオド残り 10 秒、両チームの選手にラフティングのマイナーが科される。プレーヤーの 1 人が負傷のためドレッシングルームに入らなければならない。このペナルティを受けるために、選手をペナルティ・ボックスに入れなければならないか？「はい」の場合、氷上にいた選手でなければならないか？どのような場合に氷上にいた選手でなければならないのか？

答え

同時の反則はクロックに表示されないので、ペナルティ・ボックス内のプレーヤーを交代させる必要はない。

状況 8.2

プレーヤーが、時計に表示されない同時のペナルティを受ける。ペナルティを受けたプレーヤーは負傷し 、ドレッシングルームに戻る 。ペナルティタイムが終了し 、その後にプレーが停止する前に 、そのプレーヤーはベンチに戻る 。そのプレーヤーはプレーに参加できるのか（その場で交代できるのか）、それともそのプレーヤーは不適格なプレーヤーとみなされるのか。

答え

このプレーヤーはペナルティー・ボックスから正当に出場していないため、不適格なプレーヤーと見なされる。Rule 8.1；Rule 68.1；Rule 78.5（iv）

状況 8.3

A チームのエンドゾーンでのフェイスオフの後、A20 がパックを引き戻そうとし、その過程で B チームのセンター（B10）の顔面をスティックの柄でヒットした。B10 はすぐに血だらけで氷上に倒れ、プレーは中断された。両レフェリーとも何が起こったかを目撃していない。ラインズパーソンが起きたことをレフェリーに伝える。レフェリーの判定は？その後のフェイスオフはどこで行われるか？

答え

そのプレーを見たラインズパーソンと協議した結果、フェイスオフ中に両プレーヤーが前かがみになったために偶発的な接触であったと判断された場合、ペナルティは科されない。フェイスオフは A チームの外側のニュートラルゾーンで行う。Rule 60.1 および Rule 8.1

状況 8.4

シュートアウトの最中、シューターがゴールキーパーの方へ転倒し、ゴールキーパーにスライディングした。パックはネットに入らなかったが、ゴールキーパーは負傷した。チームは次のシュートアウトのために代わりのゴールキーパーを出すことを選択する。代わりのゴールキーパーにウォームアップは許されるか？

答え

ウォームアップは認められない。Rule 84.4(vi) および Rule 8.2

チーム

状況 8.5

第 2 ピリオド、A チームのゴールキーパーが負傷し、プレーが中断される。ゴールキーパーは氷上を離れ、代わりのゴールキーパーと交代する。プレーが再開され、次の中断が起こる前に、A チームはその場でゴールキーパーを交代し、（負傷していた）元のゴールキーパーを氷上に戻した。これは許されるのか？

答え

これは認められず、ディレイ・オブ・ゲームのマイナーが科される。もしベンチにいるゴールキーパーが、負傷したゴールキーパーと交代するためにプレーの中断時に試合に入ってきた場合、次のプレーの中断時まで交代することはできない。Rule 8.2

状況 8.6

A チームのゴールキーパーが負傷し、代わりのゴールキーパーと交代する。プレーが再開され、負傷したゴールキーパー（現在プレーヤーズベンチにいる）が回復し、ポジションに戻りたいと望む。A チームはその場でゴールキーパーを交代させることを選択する。交代の直後、A チームが得点する。レフェリーは何をすべきか？

答え

負傷したゴールキーパーは次のプレーの中断時までゲームに戻ることができない（Rule 8.2）ので、ゴールキーパーは不適格なプレーヤーとみなされ、A チームは得点を許されない。ゴールは認められず、ゴールキーパーにマイナー・ペナルティが科される。Rule 78.5(iv) および Rule 8.2

状況 8.7

A チームのゴールキーパーが負傷し、代わりのゴールキーパーと交代する。プレーが再開され、負傷したゴールキーパー（現在プレーヤーズベンチにいる）が回復し、ポジションに戻りたいと望む。A チームはその場でゴールキーパーを交代させることを選択する。その交代の直後、B チームが不注意から自陣のゴールにパックを入れてしまった。レフェリーは何をすべきか？

答え

負傷したゴールキーパーは次のプレーの中断時まで試合に戻ることができない（Rule 8.2）ので、ゴールキーパーは不適格なプレーヤーであり、チーム A は得点を許されない（チーム B が自ら得点したとしても）。ゴールは認められず、ゴールキーパーにマイナーペナルティが科される。Rule 78.5(iv) および Rule 8.2

状況 8.8

ゴールキーパーを ”その場で ”交代させることは可能か（プレー中に、氷上のゴールキーパーとバックアップのゴールキーパーを交代させることは可能か）？

答え

Rule 74.1 には、”プレーヤーの交代は、プレーヤーのベンチからプレー中いつでも行うことができる ”とある。ゴールキーパーは除外されていないので、ゴールキーパーはその場で交代できる。しかし、これには 3 つの例外がある：

a. もしベンチにいるゴールキーパーが、負傷したゴールキーパーと交代するためにプレーの中断時にゲームに入った場合、次のプレーの中断時まで交代することはできない。Rule 8.2

チーム

b. ペナルティショットを守るためにゴールキーパーを交代させる場合 、交代したゴールキーパーは次のプレーの中断時まで試合に出ていなければならない 。Rule 24.2

Rule 82.1 の最後の段落にあるゴールキーパーの交代に関する記述は、プレーの停止中にゴールキーパーを交代させることに関するものであり、本問で提示されたシナリオには当てはまらないことに留意すべきである。

状況 8.9

両ゴールキーパーが負傷、病気、またはその他の理由で試合に出場できない。チームには、試合に出場できる第 3 のゴールキーパーがいない。チームはどうするのか？

答え

試合前にこのことが判明した場合、チームは登録された有資格のスケーターのうち誰か 1 人をゴールキーパーとして起用し、そのスケーターを試合のラインナップに記載することができる。試合中にこのような事態が発生した場合、試合登録されている 20 人のスケーターのうち 1 人をゴールキーパーとして起用する妥当な時間が与えられ、そのスケーターには試合中その権利が与えられる。Rule 5.3

状況 8.10

B チームはディレイド・オフサイドの位置にいる。A チームは自陣のネット裏でパックを持ち、A チームのプレーヤーがニュートラル・ゾーンで負傷したためホイッスルが吹かれた。フェイスオフはどこで行われるか？負傷はディレイド・オフサイドより優先されるのか？

答え

常識的に考えれば、ディレイド・オフサイドがまだ有効であったのだから、フェイスオフは A チームのゾーンのすぐ外側のニュートラル・ゾーンで行われるべきである。Rule 8.1

状況 8.11

A4 が B8 により顔面にハイスティックを受けた。B8 にディレイド・ペナルティが与えられる。B チームがパックをキープしコントロールした時点でプレーは停止する。A4 は負傷していないが、トレーナーがプレーヤーの手当をするために氷上に現れた。ペナルティのためにプレーが止まったが、A4 は氷上にとどまることが許されるか？このことはどこに記載されているか？

答え

プレーが中断された理由の如何にかかわらず、負傷したプレーヤーが氷上でトレーナーまたは医療関係者の手当を受けたときは、直ちにそのプレーヤーは交代しなければならない。プレーが再開されるまで、負傷したプレーヤーは氷上に戻ることはできない。Rule 8.1

状況 8.12

A チームのエンドゾーンでのプレー中、A チームのディフェンスがショットをブロックして負傷した。そのプレーヤーが這うようにしてベンチに向かおうとしているとき、トレーナーがプレー中にプレーヤーズ・ベンチとは別のサイドボードにあるゲートを開け、負傷したディフェンスを氷上から引き離し、すぐにドレッシングルームに引き揚げた。これは許されるのか？

チーム

答え
これは正当な選手交代ではない。負傷したプレーヤーが氷上から退き、交代要員との交代をする場合、そのプレーヤーはプレーヤーズ・ベンチで行わなければならず、それ以外の出入口で行ってはならない。従って、ベンチ・マイナー・ペナルティが科される。Rule 8.1

SECTION 03

Equipment



用具

RULE 9　　ユニフォーム

状況 9.1

プレー中にプレーヤーのジャージーが破れた。そのプレーヤーはジャージが破れたまま試合を続行してよいのか、それともジャージを交換または修理してから試合を続行するよう指示されなければならないのか？

答え

これは改造されたジャージとみなされ、プレーヤーのプレー復帰が許可される前に修理または交換しなければならない。Rule 9.1 および Rule 9.5

状況 9.2

プレー中、選手がヘルメットを失い、その場で選手交代を行う。ホイッスルを鳴らさずにプレーを続け、この同じプレーヤーが氷上に戻ってプレーする（ヘルメットは取ったまま）。これは許されるのか？

答え

許されない。ヘルメットを着用せずに氷上に戻った場合、プレーヤーのチームがパックをコントロールした時点でプレーを中断し、マイナー・ペナルティを科す。Rule 9.6

状況 9.3

A チームのプレーヤーがプレー中にヘルメットを失う。そのプレーヤーはその場で交代する。連続的な動作によって、そのプレーヤーはヘルメットなしで氷上に戻る。レフェリーはすぐにこれに気づき、A チームがパックをコントロールするとすぐにホイッスルを鳴らしプレーを止めた。続くフェイスオフはどこで行われるか？

答え

この結果、A チームのプレーヤーにマイナー・ペナルティが科されるため、続くフェイスオフは、A チームのディフェンディング・ゾーンにあるエンドゾーンのフェイスオフスポットのいずれかで行われる。どのフェイスオフスポットを選択するかは B チームが決定する。

状況 9.4

ペナルティ・ボックスにいるプレーヤーはヘルメットを着用していない（プレーヤーベンチで修理中）。プレーに中断がなく、ペナルティが終了する前にヘルメットを戻すことができない。そのプレーヤーはヘルメットをかぶらずに氷上に出てきて、プレー中に氷上を直接横切ってプレーヤーズベンチまで戻ってきた。このような状況でオフィシャルがすべきことは何か？

答え

この場合、ヘルメットを着用せずにプレーヤーズベンチから出てきたプレーヤーと同じように扱われる。チームがパックをコントロールした時点でプレーは中断され、ヘルメットを着用せずにゲームに参加したプレーヤーにマイナー・ペナルティが科される。Rule 9.6
ただし、ペナルティが始まる前のプレー再開前に、プレーヤーが代わりのヘルメットを受け取るようにすることで、これを避けるべきである。

用具

状況 9.5

A チームのゴールキーパーがプレー中にマスクを失った。レフェリーはどうするか？

答え

A チームがパックをコントロールした場合 、プレーは直ちに中断される 。B チームがパックを持っている場合は、B チームに得点の機会が直ちに差し迫っていない場合にのみプレーを止めなければならない。このプレーの中断はレフェリーが行わなければならない。Rule 9.6

状況 9.6

A チームのプレーヤーがブレイクアウェイである。B チームのゴールキーパーがシューターにチャレンジするためにクリーズから出てきて、A チームのプレーヤーがアタッキングブルーラインを越えたときに故意にマスクを外した。レフェリーはどのような処置をするべきか？

答え

ペナルティ・ショットの基準を満たした場合（背後からの反則を除く）、レフェリーは A チームにゴールを与える。Rule 9.6

状況 9.7

ブレイクアウェイやシュートアウト（またはペナルティ・ショット）の際に、ゴールキーパーが故意にヘルメットやフェイスマスクを外した場合。レフェリーはどのような処置をするべきか？

答え

レフェリーは反則をしなかったチームにゴールを与える。Rule 9.6

状況 9.8

あるプレーヤーが改造されたジャージーを着用していることにレフェリーが気付き、レフェリーが検査した結果、改造されていることが明らかになった。レフェリーはどうすればよいか？

答え

レフェリーは、ジャージを着替えるか、または脱ぐようプレーヤーに指示し、プレーヤーがそれを拒否した場合、そのプレーヤーには、ディレイ・オブ・ゲームのマイナー・ペナルティが科される。プレーヤーが必要な着替えを行わずに氷上に戻った場合、ミスコンダクト・ペナルティが科され、3 度目はゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。Rule 9.5

状況 9.9

A チームのプレーヤーが相手側プレーヤーとの同じマイナー・ペナルティを科された。チームは 5 対 5 でプレーする。プレーヤーのヘルメットのストラップがスクラム中に切れたため、用具係がプレーヤーズ・ベンチに持ち込んで修理した。オフアイス・オフィシャルは何をするか？オンアイス・オフィシャルは何をするか？

答え

オフィシャル（オンアイスおよびオフアイス）は、次のフェイスオフでプレーを再開する前に、プレーヤーがプレーヤーズ・ベンチから代わりのヘルメットを受け取るようにすべきである。Rule 9.6

用具

状況 9.10

プレーヤーまたはゴールキーパーがプレー中にスケートブレードを失った。レフェリーはプレーを中断するべきか？

答え

チームメイトがパックをコントロールしている場合、レフェリーはプレーを止めることができる。相手チームがパックをコントロールしている場合 、直ちに得点の機会が迫っていない場合にのみプレーを止めなければならない。これは、ヘルメット以外の用具で、Rule 9.6 で説明されている状況と見なされる。

状況 9.11

プレーヤーがプレー中にヘルメットを失った 。パックはスケーターの足元にあり、スケーターは味方にパスをすることを選択した。これは認められるか？

答え

プレーヤーがヘルメットなしでプレーすることは決して許されない。ヘルメットを着用せずにプレーした場合は、マイナー・ペナルティが科される。Rule 9.6

状況 9.12

プレーヤーがプレー中にヘルメットを無くした。そのスケーターはヘルメットを拾うことを選択した。これは許されるか？

答え

スケーターはラインチェンジのためにプレーヤーズベンチに向かう途中でヘルメットを取り上げてもよい。いかなる形でもプレーに関与していない限りである。たとえヘルメットを装着し直したとしても、プレーに参加したスケーターにはマイナー・ペナルティが科される。Rule 9.6

状況 9.13

コーナーでのパックの奪い合い中に、A チームのプレーヤーが B チームのプレーヤーのヘルメットの後部をつかみ、頭から引き剥がした。レフェリーはどうすればよいか？

答え

A チームのプレーヤーは、プレー中に相手プレーヤーのヘルメットを取ったことに対して、ラフィングのマイナー・ペナルティを科すべきである。Rule 9.6

状況 9.14

ゲームオフィシャルはゴールキーパーが相手側プレーヤーを負傷させる危険のある先のとがったブレードのついたスケートを使用していることに気づいた。レフェリーは何をすべきか？

答え

ゲームオフィシャルは、危険な用具の規則に従って、ゴールキーパーを交代させなければならない。交代要員を配置し、再びゲームに参加する前にブレードを交換しなければならない。Rule 9.8

用具

状況 9.15

ケージまたはフルフェイスバイザーの固定ストラップがプレー中に緩み、ケージまたはフルフェイスバイザーが大きく開いた状態になる。そのプレーヤーはプレーを続けることができるか？

答え

いいえ、これはヘルメットのあご紐が外れてもプレーを続けることと同じである。この場合、プレーヤーにはマイナー・ペナルティが科されるべきである。Rule 9 および Rule 12

状況 9.16

プレー中にプレーヤーのネック・ガード（首の切り傷防止用プロテクター）が外れた場合、そのプレーヤーはネックガードなしでシフトを終えることができるか？

答え

はい、そのプレーヤーは当該シフトを最後までプレーすることは可能だが、ネックガードを着用せずに試合に戻ることはできない。

RULE 10　　スティック

状況 10.1

プレーヤーがゴールに向かってシュートを放ち、ゴールキーパーがパックをジャグリングし、最終的にパックはゴールに入った。レフェリーはパックがゴールラインを越える直前に、パックをシュートしたプレーヤーのスティックのシャフトが折れていることに気がついた。これはゴールか？

答え

レフェリーが、シュートが打たれる前にスティックが折れていたと確信できない限り、このゴールは成立しなければならない。もしレフェリーが、シュートが打たれる前にスティックが折れたと確信できるのであれば、そのゴールは認められず、プレーに参加したプレーヤーにマイナー・ペナルティが科される。Rule 10.3

状況 10.2

プレー中にスケーターがスティックの木製のバットエンド部分を折るか無くす。スケーターは木片を落としたスティックでプレーを続けている。レフェリーはどうすればよいか？

答え

もしそのスティックが「レフェリーの判断で、通常のプレーに適さない」とされた場合、そのプレーヤーにマイナー・ペナルティを科すべきである。Rule 10.3

状況 10.3

プレーヤー A はディフェンディング・ゾーンでスティックを失った。味方のプレーヤーが自分のスティックでプレーヤー A のスティックを足元に押しやり 、即座に拾い上げた。これはペナルティなのか？

答え

そのスティックがパックや相手プレーヤーの妨げにならなければペナルティはない。Rule 10.3

用具

状況 10.4

A チームのプレーヤーはスティックが折れていないと仮定して、B チームのプレーヤーのスティックを拾って使うことができるか？

答え

A チームのプレーヤーは、自チームのプレーヤー用ベンチで代わりのスティックを受け取るか、氷上にいるチームメイトからスティックを手渡されるか、またはチームメイトのスティックを拾って使用することしかできない。そうでない場合はマイナー・ペナルティが科される。Rule 10.8
またはスティックを失った B チームのプレーヤーがまだ氷上にいる場合、レフェリーが A チームのプレーヤーが B チームの選手がスティックを再び手にするのを妨害したと判断した場合は、Rule 56.2 (V) が適用される場合がある。

状況 10.5

A チームのプレーヤーがアタッキング・ゾーンでスティックを折った。そのプレーヤーのチームはパックのコントロールを維持する。A チームプレーヤーズベンチのプレーヤーがスティックを失ったプレーヤーの方向に向かって氷上 にスティックを投げる。そのプレーヤーはスティックを拾い上げ使用する。レフェリーはどのような処置をとるか？

答え

ベンチからスティックを投げた A チームにベンチマイナー・ペナルティーを科す。Rule 10.3

状況 10.6

ラインズパーソンは、プレーヤーズベンチにいる A チームのプレーヤーがスティックを折った味方にトスするのを目撃した。ラインズパーソンはどのような手順をとるか？

答え

ラインズパーソンはプレーを止め、何が起こったかの解釈をレフェリーに報告することができ、ベンチマイナー・ペナルティを科すことができる。Rule 32.4 および Rule 10.3

状況 10.7

プレーヤーまたはゴールキーパーがコーナーでスティックを失った。チームメイトが氷上に落ちているスティックの上に自分のスティックを置き、スティックのないプレーヤーの方へ引きずったり押し戻したりして、スティックをそのプレーヤーの 1 メートル手前に置いた。スティックのないプレーヤーはスティックを拾い上げる。レフェリーの判定はどうするか？

答え

スティックが破損しておらず、かつスティックを移動させる行為が対戦相手のプレーを一切妨げない場合、ペナルティは科せられない。Rule 10.3；Rule 10.4；Rule 53.2；Rule 53.6

状況 10.8

ゴールキーパーがスティックを失い、コーナーに落ちた。味方のプレーヤーがスティックを拾い上げゴールキーパーに向けてスライドさせた。これは正当か？どのような判定が下されるのか？

用具

答え
スティックが無傷であり、スティックのスライドがいかなる形でも相手と接触しなければ、これは正当である。Rule 10.4

状況 10.9
プレーの中断時に、A チームは B7 のスティックのブレードの曲率を測定するようレフェリーに求めた。B7 はスティックが測定されようとしていることに気づき、スティックを壊した。レフェリーはどうするか？
答え
B7 はマイナー・ペナルティと 10 分間のミスコンダクト・ペナルティが科される。Rule 10.5

状況 10.10
ゴールキーパーがスティックを紛失または破損した 。そのプレーの間、味方がプレーヤーズ・ベンチから新しいゴールキーパースティックを取り出し、ゴールキーパーに向かってスケーティングを始めた。そのスケーターがゴールキーパーに到達する前に、パックがそのスケーターのところにきた。次の場合どうなるか：
a）自分のスティックとゴールキーパーのスティックの両方を持ちながらパックをプレーした場合。
b）ゴールキーパーのスティックを落としてパックをプレーした場合。
答え
a）マイナー・ペナルティを科す。Rule 10.5
b）ペナルティなし

状況 10.11
B4 はペナルティ・ショットを指定されたが、ショットをする前に A チームはスティックの計測を要求した。B4 はスティックの引渡しを拒否した。ペナルティは何か？
答え
もしプレーヤーがペナルティ・ショットの前にスティックを測定に出すことを拒否した場合、ペナルティ・ショットは認められず、そのプレーヤーにはミスコンダクト・ペナルティが科される。Rule 10.6

状況 10.12
シュートアウトの手順において、スティックを測定することはできるか？可能な場合、その手順はどうなるか？
答え
はい、シュートアウト中にスティックの測定を行うことは可能である。その要求は、レフェリーがシュートアウトの試技開始を告げるホイッスルを吹く前に行わなければならない。スティックが適法であった場合、異議を申し立てたチームは、次に行う予定のシュートアウトの権利を失う。スティックが不正であった場合、違反したチームはそのプレーヤーによる当該シュートアウトの権利を失い、そのプレーヤーは以降のシュートアウトに参加する資格を失い、このシュートアウトの試技は「ノーゴール」として記録される。Rule 10.7

用具

状況 10.13

ゴール前のバトル中、アタッキング・プレーヤーがスティックを失い、次に素早くディフェンスのスティックを掴んだ。スケーターはすぐにパスを受け取り、この「新しい」スティックでシュートして得点した。このゴールは合法か？もしこれがどちらのレフェリーにも観察されなかった場合、ラインズパーソンの責任はどうなるか？

答え

ゴールを決めたプレーヤーは正当なスティックを所有していなかったので、これは正当なゴールではない。スティックを紛失または破損したプレーヤーは、プレーヤーズ・ベンチからスティックを受け取るか、氷上にいるチームメイトからスティックを手渡されるしかない。ラインズパーソンは、そのできごとをレフェリーに報告し、レフェリーはそのゴールを認めず、不正なスティックを受け取ったとしてマイナー・ペナルティを科すべきである。Rule 10.8；Rule 32.4

状況 10.14

あるプレーヤーがベンチからスティックを氷上にいるスティックの折れた味方に投げつけた。ベンチからスティックを投げたプレーヤーにはどのようなペナルティが科せられるか？スティックをキャッチしてプレーしたプレーヤーにはどのようなペナルティが科せられるか？

答え

ベンチからスティックを投げた側にはベンチ・マイナー・ペナルティが科せられ、投げられたスティックを受け取ってプレーしたプレーヤーにはペナルティは科せられない。Rule 10.3

状況 10.15

ゴールキーパーがスティックを失い、味方のプレーヤーが自分のプレーヤースティックを手渡したが、ゴールキーパーがそのプレーヤースティックを折った。そのゴールキーパーはそのスティックでプレーを続けてよいか？

答え

ゴールキーパーは、プレーが中断するまで、または味方がスティックを手渡すまで 、折れたスティックでプレーを続けることができる。Rule 10.4

状況 10.16

A チームの大会 3 試合目において、A91 がスティックを測定したところ、その大会で 3 回目のイリーガルと判定された。どのようなペナルティが科せられるか？

答え

そのプレーヤーにマイナー・ペナルティが科せられる。Rule 10.5

状況 10.17

青チーム #10 が白チーム #12 を正当な接触でチェックした（男女とも）。両者ともスティックを失った。慌てて二人とも自分のスティックだと思って拾い上げる。青チームがプレーを続け、#10 がゴールを決める。このとき、白チームの#12 が、#10 が相手のスティックと思われるもので得点したとレフェリーに抗議した。この判定はゴールかノーゴールか？このプレーに他のペナルティは科せられるか？

用具

答え
ノーゴール。両プレーヤーとも不正なスティックでプレーしたことに対するマイナー・ペナルティが科せられる。Rule 10.8。 これは状況 10.4 および 10.13 と一致する。

状況 10.18
氷上のプレーヤーは、スティックを失ったり折ったりした味方にスティックを渡すために、2 本のプレーヤーのスティックを運ぶことができるか？
答え
できる。ただ、そのスケーターがプレーに参加したり、相手をチェックしたり、故意に相手の動きを妨げたり、2 本のスティックを持ち運びながら故意にパックをプレーした場合、そのスケーターにはマイナー・ペナルティが科される。Rule 10.5

状況 10.19
ディレイド・ペナルティが A チームに対して発生している。A チームは、B チームはプレーが中断する前に得点した。A チームはゴールを決めた B チームのプレーヤーのスティックの測定を要求した。レフェリーはどのような処置をとるか？
答え
レフェリーは、ゴールを決めた B チームのプレーヤーのスティックの測定を要求する。もし、そのスティックが不正であれば、B チームのプレーヤーにマイナー・ペナルティが科せられる（ゴールは成立する）。スティックが正当であれば、A チームにベンチ・マイナー・ペナルティが科される。Rule 10.5 および Rule 15.2

状況 10.20
プレーヤー A4 がプレー中にスティックを折った。スティックの長さの免除を持つプレーヤー A33 がそのスティックを A4 に渡す。 A33 は交代で氷上を離れる。ホイッスルが鳴ったとき、B チームは直ちにレフェリーに近づき、A4 のスティックの長さ測定を求めた。これは許されるか？
答え
レフェリーは計測を行わない。常識的に考えて、プレーヤー A4 が IIHF によって A33 の使用に適していると判断されたスティックを持ち出した責任を負わされることはない。もしそのスケーターがこのスティックをベンチから持ってきたのであれば、免除規則を回避しようとすることになるので、おそらくこれは別の話であろう。Rule 10.1

状況 10.21
折れたスティックがスロットエリアの氷上にある。ゴールキーパーが壊れたスティックをネットに押し込んでプレーの邪魔にならないようにする。スティックの一方の端がネットからゴールライン上に伸びている。相手チームがシュートを放ち、パックが折れたスティックの先に当たってゴールラインを越えることができなかった。レフェリーの裁定は？
答え
ゴールキーパーが故意にスティックをゴールラインに置いたとレフェリーが判断しない限り、ペナルティは科せられない。故意に行われたとレフェリーが判断した場合は、Rule 67.3 および Rule 67.5 を適用する。

用具

状況 10.22

レフェリーはスティックブレードの湾曲を測定するよう求められ、レフェリーはそれが不正であると判断する。レフェリーはそのスティックをどうするべきか？

答え

レフェリーはスティックをプレーヤーズ・ベンチでチームに戻す。Rule 10.5

状況 10.23

第 3 ピリオドで A チームがゴールを決めた。直ちに B チームのキャプテンがレフェリーに近づき、ゴールを決めたプレーヤーのスティックの曲率を測定するよう求めた。これは許されるか？ 許可されない場合、測定を要求したことで B チームのキャプテンに何が科されるか？もし「イエス」の場合、そのスティックが不正なものであればどうなるか？

答え

これは許される。しかし、測定の結果ゴールが取り消しにはならない。スティックが不正であれば、A チームのプレーヤーにマイナー・ペナルティが科せられる。もしスティックが正当であれば、チーム B にベンチ・マイナー・ペナルティが科される。Rule 10.5

状況 10.24

プレーの停止時に、A チームのキャプテンが、ブレードの湾曲が正当かどうかを確認するために、相手のスティックを測定するよう要求する。B チームは、不正なスティックにより捕まるかもしれないことがわかっているので、キャプテンをレフェリーのところに行かせ、まだ氷上にいる A チームのプレーヤーの 1 人のブレードの湾曲を測定するようレフェリーに要求した。レフェリーは何をすればよいのか？

答え

レフェリーは両方のスティックを測定し、2 つの測定結果に基づいて適切なペナルティを科す。Rule 10.5

状況 10.25

シュートアウトにおいて各チームが 1 回ずつショットを行った後、ホワイトチームのコーチが、ブルーチームのゴールキーパーのスティックのノブ（柄の端）にオレンジ色のテープが巻かれていることをレフェリーに指摘した。ブルーチームのゴールキーパーにはどのようなペナルティが科されるべきか？

答え

ペナルティは科されないが、ゴールキーパーはスティックのノブ（柄の端）を白いテープで覆うという規定に従わなければならない。もしゴールキーパーがこれを拒否した場合、そのスティックは不適合とみなされる。スティックの交換や修正を拒否した場合は、ミスコンダクト・ペナルティが科される。Rule 10.2

状況 10.26

A チームのゴールキーパーまたはプレーヤーがスティックを落とした際、B チームのプレーヤーがそのスティックを蹴ってパックに当て、その結果パックがゴールに入った場合、どのような判定が下されるか？

答え
レフェリーの判断において、アタッキング・プレーヤーが、意図的にパックをゴールへ入れる目的で、落ちた（または折れた）スティック、グローブ、あるいはその他の物体をパックに向けて動かした（蹴るなどした）場合、そのゴールは認められない。

注：この状況における重要な要素は「意図」である。もし、落ちた（または折れた）スティック、グローブ、その他の物体が偶然パックに接触し、それによってパックがゴールに入った場合は、ゴールが認められることもある。

状況 10.27
A チームは、B チームのゴールキーパーがスティックに指サックを装着していることをレフェリーに指摘した。Rule 10.2 では、スティックはまっすぐで突起物があってはならないと規定されている。これは認められるのか？
答え
スティックのシャフトには突起物があってはならないが、指サックが通常のプレーにおいて競技上の優位性を与えることなく、その機能を果たす適切な方法で装着されているとレフェリーが判断した場合は認められる。Rule 10.2

RULE 11　ゴールキーパーの用具

該当なし

RULE 12　不正な用具

状況 12.1
A チームはレフェリーに相手側プレーヤーのグローブの掌を調べるよう要求した。レフェリーがグローブを検査したところ、掌が欠けていることが判明した。レフェリーは何をするか？ペナルティがある場合、何が科せられるか？ グローブの状態が良好であることが証明された場合、ペナルティは科せられるか？
答え
もしグローブの掌が剥がされていたり、素手の使用が可能なところで切れていたりするとレフェリーが判断した場合、そのプレーヤーは罰せられる。グローブが正常な状態であることが証明された場合、不服申し立てをしたチームはディレイング・ザ・ゲームのベンチ・マイナー・ペナルティを科される。Rule 12.2

状況 12.2
A チームのプレーヤーがエルボーパッドがカバーされていない状態で、氷上のプレーに参加している。このことは次のプレーの中断時にレフェリーに知らされる。適切な処置は？

用具

答え
そのプレーヤーにエルボーパッドを隠すように警告し、同じプレーヤーによる 2 回目の違反はマイナー・ペナルティとする。 Rule 12.1

状況 12.3
あるプレーヤーがスティックのシャフトの先のくぼんだ部分を完全に覆わないままゲームに参加していることにレフェリーが気付いた。レフェリーはどうすればよいか？
答え
レフェリーはそのプレーヤーに、スティックのシャフトのくぼんだ端をテープで覆い、怪我を防ぐようにアドバイスすべきである。これに従わない場合、Rule 12.1 に基づきマイナー・ペナルティが科されることがある。

状況 12.4
レフェリーがゴールのそばに行くと、ゴールキーパーがパンツを正しく着用していないことが明らかになった。ジャージがズボンの上にフィットしておらず、正しく固定されていない。正しい判定は？
答え
ゲームオフィシャルは、Rule 12 の手順に従って、不正な用具としてこれを扱うべきである。

状況 12.5
シニアの試合において、あるプレーヤーが不正な用具を使用したことでレフェリーから警告を受けた。その後、同じチームの別のプレーヤーが不正な用具を使用してプレーした場合、そのプレーヤーには警告を与えるべきか、それともマイナー・ペナルティを科すべきか？
答え
不正な用具に関する警告は、そのプレーヤー個人に対するものである。したがって、不正な用具を使用してプレーしたもう一人のプレーヤーに対しても、同様に警告を与えるべきである。Rule 12.1
注：
1. 危険な用具を使用している場合、警告を受けるのはプレーヤー個人ではなくチームである。Rule 9.8
2. ジュニアの試合における不正な用具に関するすべての事例は、Rule 202 に従って処理される。

RULE 13　　パック

状況 13.1
プレー中に別のパックがファンによって氷上に投げ込まれた。レフェリーはすぐにプレーを止めなければならないのか？
答え
正当なパックによる得点の機会が迫っていないとレフェリーが判断するか、または正当なパックによるプレーがニュートラル・ゾーンに位置するまで、プレーを止めてはならない。Rule 13.3

用具

RULE 14　　衣類や用具の調整

状況 14.1

ゴールキーパーがレッグパッドの調整を必要とする。ゴールキーパーはプレーヤーズ・ベンチに進んでよいのか、それともゴールキーパーはネットに残っていなければならないのか？

答え

ゴールキーパーは、予想される遅延が軽微なものであれば、レフェリーの許可を得て、 プレーヤーズベンチに行き、用具の修理を受けることができる。遅延が著しくなった場合、ゴールキーパーは次のプレー中断時まで交代しなければならない。Rule 14.1

SECTION 04

Types of Penalties



ペナルティの種類

RULE 15　　ペナルティのコール

状況 15.1

レフェリーにより A44 に対するマイナー・ペナルティのシグナルが出されている。ディフェンディング・ゾーンにいた A44 のチームメイト A16 がパックを奪取しコントロールしたので、ディレイド・ペナルティのホイッスルが吹かれた。A16 はパックをショットし、ガラスを越えて観客席に飛び込んだ。レフェリーはこの状況をどのように扱うか？

答え

A チームがパックをキープしコントロールした時点でプレーを中断する笛が吹かれるので、A16 がパックをガラスを越えて観客席にショットしても追加のペナルティは科せられない。Rule 15.1-2

注：レフェリーの裁定に異議を唱えるために、A16 が故意にガラスを越えてパックをショットしたとレフェリーが判断した場合は、A16 にペナルティが科されることがある。Rule 39.1；Rule 63.2（ii）

状況 15.2

A チームに対してディレイド・ペナルティが宣告されている。B チームがパックをコントロールしている間、インテンショナル・オフサイドのホイッスルが吹かれた。次のフェイスオフはどこか？

答え

A チームのディフェンディング・ゾーン内のフェイスオフスポット。Rule 83.6(ii)（Rule 76.2；Rule 15.5 も例外ではない）

状況 15.3

第 3 ピリオド残り 0 分 43 秒、A チームのゴールキーパーがエキストラアタッカーのために退場しているとき、レフェリーは A チームに対してディレイド・マイナー・ペナルティを宣告した。このディレイド・ペナルティ中に、B チームの選手がブレイクアウェイを獲得し、A チームの選手が B チームのパックキャリアにスティックを投げた。レフェリーはプレーを中断して B チームにゴールを与えた。ディレイド・マイナー・ペナルティは依然として適用されるか？

答え

いいえ、B チーム B がゴールを決めた（与えられた）結果、マイナー・ペナルティは科せられない。Rule 15.2、 Rule 16.2、Rule 25.1 および Rule 25.3

状況 15.4

A3 はハイスティックによるダブル・マイナー・ペナルティーを科されようとしている。このペナルティがディレイとなっている間に、A12 がネットの前で B チームのプレーヤーをクロスチェックし、このペナルティもディレイとなる。両方のペナルティがディレイとなっている間に B チームが得点する。この中断時にはどのようなペナルティが科せられるか？

答え

A チームのキャプテンの選択である。A3 のダブルマイナー・ペナルティが適用され、A12 のマイナー・ペナルティは消滅する。または、A12 のマイナー・ペナルティと A3 に科せられたダブル・マイナー・ペナルティの 1 つのマイナーを科すことで、2 分間 2 人のプレーヤーのショートハンドでプレーすることができる。Rule 15.2

ペナルティの種類

状況 15.5

レフェリーは A6 に対してディレイド・ペナルティを宣告し、そのペナルティの結果としてペナルティ・ショットを与えようとしている。プレーが中断される前に、A6 は別のマイナー・ペナルティを犯した。B チームは、ディレイド・ペナルティのためにプレーが止められる前に得点した。レフェリーの判断はどのようなものか？

答え

ペナルティ・ショットが与えられるはずであったディレイドマイナー・ペナルティは、B チームのゴールにより取り消され、A6 は 2 つ目のマイナー・ペナルティを遂行するためにペナルティ・ボックスに入る。Rule 15.2；Rule 15.4

状況 15.6

A チームはマイナー・ペナルティを科された。レフェリーは A チームのプレーヤーに対してペナルティ・ショットを要求するディレイド・ペナルティを宣告する。B チームはプレーが中断する前にゴールを決めた。レフェリーはどのような処置をとるか？

答え

B チームがゴールを決めた時点で、科されていたマイナー・ペナルティは失効する。本来ペナルティ・ショットが科されるはずであったマイナー（ダブル・マイナーまたはメジャー）ペナルティが、通常の方法で科される。Rule 15.2；Rule 15.4

状況 15.7

両チームともフルメンバーでプレーしている。A チームにマイナー・ペナルティが科される状況（ディレイド・ペナルティ）で、B チームが得点を挙げた。この場合、そのディレイド・ペナルティはどうなるか？

答え

この状況では、レフェリーはマイナー・ペナルティを公式記録員に報告する。当該プレーヤーが実際にペナルティを消化しない場合であっても、ペナルティの内容と時間はゲームシートに記録されなければならない。Rule 15.2

RULE 16　マイナー・ペナルティ

状況 16.1

時計が 5 分 00 秒の時点で、A15 と B12 に同時のペナルティが科される。4 分 30 秒 に、A23 にメジャー・ペナルティが科される。プレーが再開され、A6 に対して追加のマイナー・ペナルティが宣告される。ディレイド・ペナルティの間に、B チームが 4 分 00 秒に得点した。レフェリーはどのような処置をとるか？

答え

この状況では、B チームの得点の結果として、A6 に科せられたマイナー・ペナルティは科せられない。

ペナルティの種類

状況 16.2

第 3 ピリオド残り 3 分 18 秒の時点で、A42 はハイスティッキングによるダブル・マイナー・ペナルティを科された。第 3 ピリオド残り 1 分 27 秒、A16 はホールディングによるマイナー・ペナルティとアンスポーツマンライク・コンダクトによるマイナー・ペナルティを科される。残り 0 分 52 秒、B チームが得点した。この得点の結果、A チームのペナルティタイムには何が表示されるべきか？

答え

A チームのペナルティ・タイム・クロックは次のように表示される：

A42 - 1:34

A16 - 2:00

ゴールが決まったとき、A16 の最初のマイナー・ペナルティは残り 1 分 25 秒である。したがって、このマイナー・ペナルティは最も残り時間の少ないペナルティであり、A チームのゴールによって終了するペナルティである。

状況 16.3

相手チームのマイナー・ペナルティにより、数的優位のチームにゴールが与えられた場合、そのマイナー・ペナルティはゴールの授与により失効するか？

答え

はい。Rule 16.2

状況 16.4

A チームがパワープレー中にペナルティ・ショットで得点した。この場合、B チームはペナルティを受けたプレーヤーをプレーに戻すことができるか？ルールブックのどこに記載があるか？

答え

いいえ、チーム B はペナルティ・ショットでゴールが決まっても、プレーヤーを氷上に戻すことはできない。Rule 16.2

状況 16.5

A チームはマイナー・ペナルティによりショートハンドである。A チームは得点したように見えるが、確認されずプレーは続行される。今、A チームに対してディレイド・マイナー・ペナルティが宣告され、そのディレイドの間に B チームが得点した。レフェリーはどのような処置をとるか？

答え

ANSWER #1

A チームのゴールは、プレーの中断時にビデオレビュー・コンサルタントによってレビューされる。レビューの結果、そのプレーで正当なゴールがあったと判断された場合、ゲームクロックはゴールの時間に再設定され、A チームに対する最初のマイナー・ペナルティも同様に時間が調整され、A チームに対する 2 つ目のマイナー・ペナルティは通常の方法で科され、B チームのゴールはカウントされない。

ANSWER #2

A チームのゴールは、プレーの中断時にビデオレビュー・コンサルタントによってレビューされる。レビューの結果、そのプレーでゴールがなかったと判断された場合、B チームのゴールはカウントされ、A チームに対する最初のペナルティはゴールにより失効し、A チームに対する 2 つ目のペナルティは通常の方法で科される。

ペナルティの種類

ANSWER #3
A チームによる得点と見なされたプレーにおいて、パックが不正な形でゴールに入ったと判断された場合、その得点は認められない。また、この無効となった得点の時点で本来プレーが停止されるべきであったため、B チームに得点が与えられることもない。時計（ペナルティ時間の計測用を含む）は、A チームの得点が無効とされた時点まで戻し再設定しなければならない。得点と見なされたプレーから次のプレー停止までの間に宣告されたペナルティは、通常の手順に従って科される。プレー再開時、A チームは 2 名少ない（ショートハンド）で臨むことになる。Rule 16.2；Rule 78.6

RULE 17　　ベンチ・マイナー・ペナルティ

状況 17.1
A チームは、トゥー・メニー・プレーヤーズとしてベンチ・マイナー・ペナルティを受ける。A チームのコーチは、チームがベンチ・マイナー・ペナルティ（アンスポーツマンライク・コンダクト）を科されるところまで抗議する。A チームは 1 人の選手を 4 分間ショートハンドでプレーするか、2 人の選手を 2 分間ショートハンドでプレーするかどちらか？
答え
これらの反則は 2 つの別々の行為であり、コーチがキャプテンを通じて指名した 2 人の別々のプレーヤーが遂行しなければならない。Rule 17.1

状況 17.2
上記の状況 A に加えて、最初のベンチ・マイナー・ペナルティが既に開始された後のプレーの中断時に 2 つ目のベンチ・マイナー・ペナルティが科された場合、A チームは 2 人目のプレーヤーをペナルティベンチに置き、2 人のプレーヤーのショートハンドでプレーしなければならないのか、それとも既存のベンチ・マイナー・ペナルティに時間が加算され、A チームは 1 人のプレーヤーのショートハンドのままでプレーできるのか？
答え
繰り返しになるが、この罰則は本来の罰則とは別のベンチ・マイナー・ペナルティであり、別のプレーヤーが与えられなければならない。2 人のプレーヤーのショートハンドになる。Rule 17.1

状況 17.3
チームが 2 回目のフェイスオフ・バイオレーションを犯してペナルティを科された場合、 誰がそのペナルティを遂行するのか？
答え
ディレイング・ザ・ゲーム対するベンチ・マイナー・ペナルティであるため、そのチームのゴールキーパーを除くすべてのプレーヤーがベンチ・マイナー・ペナルティを遂行することができる。Rule 17.1；Rule 76.6

状況 17.4
エンドゾーンでのフェイスオフ中 、A チームはすでにセンターがフェイスオフ・バイオレーションによりセンターを交代させられている。A チームのウィングが侵入し、A チームは 2 回目のフェイスオフ・

ペナルティの種類

バイオレーションを犯したとして罰せられる。ベンチ・マイナー・ペナルティは誰が受けなければならないか？

答え
違反を犯したチームのどのプレーヤー（ゴールキーパーを除く）も、ベンチ・マイナー・ペナルティを受けることができる。Rule 17.1；Rule 76.6

状況 17.5
A チームはトゥー・メニー・プレーヤーズをコールされた。A チームのコーチは、チームにベンチ・マイナー・ペナルティを科されるところまで抗議する。レフェリーは A チームのコーチに、4 分間 5 対 4 でプレーするか、2 分間 5 対 3 でプレーするかの選択肢を与えた。

答え
レフェリーによるこの選択肢は間違っている。これらの反則は 2 つの別々の行為であり、2 人の別々のプレーヤーが行わなければならない (5 対 3 で 2 分間)。Rule 17.1

RULE 18　ダブル・マイナー・ペナルティ

状況 18.1
ダブル・マイナー・ペナルティが選択肢としてあるペナルティはいくつあるか？

答え
オプションとしてダブル・マイナー・ペナルティがある反則は 5 つある。バットエンディング、ヘッドバッティング、ハイスティッキング、スピアリング、ディレイング・ザ・ゲーム（コーチチャレンジに失敗した場合）。表 4 参照

RULE 19　同時のペナルティ

状況 19.1
第 2 ピリオドの同じプレー中断時に次のペナルティが科される ：

A チーム	B チーム
A45 - 2:00 + 5:00	B12 - 5:00
A14 - 2:00 + 5:00	B52 - 5:00
A20 - 5:00	B29 - 5:00 + 5:00

両チームのオンアイス人数はどうなるか？

答え
A チーム A に対するすべてのメジャーペナルティは、同時のペナルティルール 19 を用いて相殺される。したがって、A チームは A45 と A14 に対するマイナー・ペナルティを遂行するために、ペナルティボックスに 2 人のプレーヤーを入れなければならない。A チームは 2 分間、2 人のプレーヤーのショートハンドでプレーする。B チームに対する 4 つのメジャーペナルティのうち 3 つは、同時のペナルティルールを用いて相殺される。B チーム B は 1 人のプレーヤーを 5 分間ショートハンドでプレーさせる。B チームは、B12 または B52 に 5 分間のペナルティを受けさせるか、または次のいずれかを選択する。別のプレーヤーをボックス内に入れ、B29 に科された 5 分間の追加ペナルティを遂行する。最初の 2 分間は 4 対 3 で B チームが有利となり、2 分後、5 対 4 で A チームが有利となる。

ペナルティの種類

状況 19.2

以下のペナルティが、同じプレーの中断時に科された。

A チーム	B チーム
A17 - 5:00 + GM - ELBOW	B74 - 2:00 - ROUGH
A34 - 5:00 - FIGHT	B11 - 5:00 - FIGHT

同時のペナルティルールを適用することで、A チームは 5 分間、B チームは 2 分間ショートハンドでプレーすることになる。どちらのプレーヤーのペナルティがペナルティタイムに加算されるか？ その根拠は？

答え

これは A チームの選択である。しかし、A3 のペナルティをペナルティ・タイム・クロックに出すことを選択した場合、チームはペナルティボックスにもう一人プレーヤーを入れなければならない。A34 のペナルティをペナルティタイムクロックに置くことを選択した場合、そのプレーヤーは、ファイティングによるメジャー・ペナルティが終了した時点で直ちに出場することが認められる。この場合、A3 に対するメジャー・ペナルティのために代行プレーヤーが入る必要はない。Rule 19.1

状況 19.3

第 1 ピリオド終了間際 、A チームは 、第 2 ピリオドに持ち越されるマイナー・ペナルティを受け、ショートハンドとなる。第 1 ピリオド終了のブザーが鳴る直前、レフェリーは B チームのプレーヤーにディレイドマイナー・ペナルティを宣告する。第 2 ピリオドを開始するために両チームが氷上に戻ったとき、A チームの別のプレーヤーにアンスポーツマンライク・コンダクトのマイナー・ペナルティが科せられた（開始時刻 20:00）。

ピリオド開始時の氷上人数は？

答え

第 1 ピリオド終了時に B チームに科されたマイナー・ペナルティと、第 2 ピリオド開始時に A チームに科されたマイナー・ペナルティは、同じプレー中断時に科されたものとみなされるため、同時のできごとであり、A チームはすでにショートハンドであったため、ペナルティタイムクロックには計時されない。Rule 19.1

状況 19.4

第 3 ピリオドの残り 5 分を切った時点で、A チームのプレーヤーにメジャー・ペナルティが科せられ、B チームの 2 人のプレーヤーにそれぞれマイナー・ペナルティが科せられた。ペナルティのタイムクロックと、氷上の人数はどうなるか（注意：その時点では他のペナルティは適用されていない）。

答え

この状況では B チームの 2 人のプレーヤーが罰されているので、Rule 19.3 は適用されない。したがって、A チームのペナルティ・クロックは 5 分となり、チーム B のペナルティ・クロックは 2 つの別々の軽罰となり、氷上の人数は 4 対 3 でチーム A が有利となる。Rule 19.3

ペナルティの種類

状況 19.5

両チームともフルストレングスでプレーしている。同じプレーの中断時に、プレーヤー A21 はゴールキーパーへのインターフェアランスで 2 分、ラフィングで 2 分のペナルティを受ける。B1（ゴールキーパー）はスラッシングで 2 分 、B25 はラフィングで 2 分のペナルティを受ける 。氷上の人数はどうなるか？ゴールキーパーのペナルティは誰が遂行するのか？

答え

氷上の人数は 5 人のスケーター対 5 人のスケーターである。Rule 19.1 および Rule 19.4。ゴールキーパーに科されたマイナー・ペナルティは、プレーが停止し、ペナルティが科されたときに氷上にいたチームの他のメンバーが受けなければならない（ペナルティタイムクロックにペナルティタイムが表示されなくても）。ペナルティをしたプレーヤーはゴールキーパーのペナルティを受けることはできない。Rule 27.1

状況 19.6

以下のペナルティは、同じプレーの中断時に科される（これは、試合の最後の 5 分間や延長戦での発生ではない）：

A チーム	B チーム
A3 - 2:00 + 5:00	B5 - 2:00 + 5:00
A4 - 2:00 + 2:00 + 5:00	B7 - 5:00 + 5:00

その結果、誰が、どのようなペナルティを遂行することになるのか？

答え

A チームは、1 人のプレーヤーが 4 分間、または 2 人のプレーヤーがそれぞれ 2 分間、ショートハンドとなる（チームの選択）。B チームは 5 分間ショートハンドとなる（チームの選択）。Rule 19

状況 19.7

以下の反則はすべて、第 2 ピリオドの同じプレー中断時に科される：

A12 - 2:00（SLASH） + 5:00（ELBOW） + 5:00（FIGHT）

B23 - 2:00（FIGHT） + 5:00（FIGHT） + 20:00（FIGHT）

B37 - 5:00（SLASH）

両チームの氷上の人数は？（その時、その他のペナルティはない）

答え

両チームはフルメンバーでプレーする。Rule 19

状況 19.8

第 3 ピリオド残り 4 分 59 秒、A チームにメジャー・ペナルティ、B チームにマイナー・ペナルティが科される。時計表示は？ 続くフェイスオフはどこで行われるか？

答え

A チームには 3 分間のペナルティタイムが与えられ（メジャー・ペナルティ）、B チームにはペナルティタイムが与えられない。続くフェイスオフは、A チームのディフェンディング・ゾーンにあるエンドゾーンのフェイスオフスポットのいずれかで行われる。Rule 19.3；Rule 76.2

ペナルティの種類

状況 19.9

第 3 ピリオド残り 2 分 45 秒、A チームはすでに 2 人のプレーヤーのショートハンドである。このプレーの中断時に、A チームのプレーヤーにマイナー・ペナルティが科せられ、B チームのプレーヤーにメジャー・ペナルティが科せられた。プレーが再開されたとき、氷上の何人になるか？ペナルティクロックには何が表示されるか？

答え

氷上の人数は 4 対 3 で B チームに有利となる。これは試合終了 5 分前に起こったことであるため、A チームへのマイナー・ペナルティは B チームのメジャー・ペナルティの 2 分を相殺し、B チームのペナルティクロックは 3 分となる。ペナルティクロックは次のようになる：

A チーム	B チーム
A3 - 0:45	B6 - 3:00
A8 - 1:10	

Rule 19.3

状況 19.10

A8 と B7 が共にハイスティッキングのマイナー・ペナルティを受ける。このペナルティは第 2 ピリオドの 10 分 30 秒に発生した。第 2 ピリオド 11 分 00 秒に A1 がトリッピングのマイナー・ペナルティを受ける。B チームは 11 分 30 秒にゴールを決めた。どのプレーヤーがプレーに復帰するか？

答え

A8 が同時のマイナー・ペナルティを受けているので，A1 が氷上に復帰する。Rule 19.1

状況 19.11

第 2 ピリオド残り 7 分 57 秒、A3 と B27 がファイティングによるメジャー・ペナルティを科され，A65 と B12 がラフィングによりマイナー・ペナルティを科される。メジャー・ペナルティは相殺され、同時に発生したマイナー・ペナルティがペナルティクロックに表示され、4 対 4 でプレーする。真か偽か？

答え

誤りである。Rule 19.1、「... 同数のマイナーおよびメジャーのペナルティは、同時のペナルティのルールを用いて相殺し、時間差のある反則は通常の方法で行い、それに応じてペナルティタイムクロックに表示する。時間差のペナルティがない場合、すべてのプレーヤーは与えられたペナルティタイムを消化するが、それぞれのペナルティが終了した後、最初のプレー中断までプレーに戻れない。」

状況 19.12

試合終了まで残り 4 分 15 秒の時点で、B チームのディフェンディング・ゾーンでプレーが中断した。B チームのプレーヤー 1 人にマイナー・ペナルティが科せられ、A チームのプレーヤー 1 人にメジャー・ペナルティが科せられた。レフェリーは何をすべきか？

答え

A チームのペナルティクロックは 3 分表示する。フェイスオフは A チームのディフェンディング・ゾーンである。Rule 19.3；Rule 76.2

ペナルティの種類

状況 19.13

チームは 4 対 4 でプレーしている。第 3 ピリオド残り 3 分 30 秒、ホイッスルのあとにスクラムが発生し，以下のペナルティが科される。

A チーム	B チーム
A2 - 2:00	B12 - 2:00
A6 - 2:00	B84 - 2:00
A7 - 2:00	B68 - 2:00
A9 - 5:00	B69 - 4:00

クロック表示は？氷上人数は？

答え

氷上の人数は、A チームが 3 人、B チームが 4 人である。A12 1:00 を計時する。Rule 19.3

状況 19.14

第 3 ピリオド残り 5 分を切った時点で、以下のペナルティが科される：

A チーム	B チーム
A2 - 5:00	B6 - 2:00 + 2:00
	B5 - 2:00

a) ルール 19.3 は適用されるか？

b) A8 が 2 分のペナルティを受けた場合、Rule 19.3 は適用されるか？

答え

a) いいえ 、Rule 19.3 は適用されない 。この規則が適用されるのは、各チームの 1 人のプレーヤーに反則が科される場合、または同時のペナルティによって相殺され、各チームの 1 人のプレーヤーにペナルティが科される場合のみである。

b) はい、Rule 19.3 が適用される。A7 に対する 1 分間のメジャー・ペナルティがペナルティタイムクロックに表示される。

状況 19.15

同じプレーの中断時に次のペナルティが科される：

A チーム	B チーム
A3 - 5:00 + 2:00	B7 - 5:00 + 2:00
A4 - 5:00 + 2:00 + 2:00	B8 - 5:00 + 5:00

同時のペナルティルールに関して、チームにはどのような選択肢があるか？

答え

■オプション 1：

A チーム	B チーム
A3 - ~~5:00~~ + ~~2:00~~	B7 - ~~5:00~~ + ~~2:00~~
A4 - ~~5:00~~ + 2:00 + 2:00	B8 - ~~5:00~~ + 5:00

A チームは追加プレーヤー 1 人をペナルティボックスに入れ 4 分間ショートでプレーする。

B チームは追加プレーヤー 1 人をペナルティボックスに入れ 5 分間ショートでプレーする。

ペナルティの種類

■オプション 2：

A チーム	B チーム
A3 - ~~5:00~~ + 2:00	B7 - ~~5:00~~ + ~~2:00~~
A4 - ~~5:00~~ + ~~2:00~~ + 2:00	B8 - ~~5:00~~ + 5:00

A チームは追加プレーヤー 2 人をペナルティボックスに入れ 2 分間ショートでプレーする。
B チームは追加プレーヤー 1 人をペナルティボックスに入れ 5 分間ショートでプレーする。

■オプション 3：

A チーム	B チーム
A3 - ~~5:00~~ + ~~2:00~~	B7 - 5:00 + ~~2:00~~
A4 - ~~5:00~~ + 2:00 + 2:00	B8 - ~~5:00~~ + ~~5:00~~

A チームは追加プレーヤー 1 人をペナルティボックスに入れ 4 分間ショートでプレーする。
B チームは追加プレーヤー 1 人をペナルティボックスに入れ 5 分間ショートでプレーする。
Rule 19.1；Rule 19.5

状況 19.16
青チームはマイナー・ペナルティにより人数が少ない状況であり、青チームに追加のマイナー・ペナルティ（このペナルティはスラッシングによるもの）を科すため、ディフェンディング・ゾーンでプレーが止まった。赤チームが 5 対 3 のパワープレーをしようとしている。続くフェイスオフで，赤チームがフェイスオフ・バイオレーションを犯し、ベンチ・マイナー・ペナルティを科された。プレーが再開されたときの氷上の人数は？
答え
氷上の人数は 5 対 4 とする。青チームのスラッシングによるマイナー・ペナルティと赤チームのフェイスオフ・バイオレーションによるベンチ・マイナー・ペナルティは、同じプレーの中断時に発生したものとみなされ、ペナルティタイムクロックは計時されない。フェイスオフの位置は、同時のマイナー・ペナルティによって変更されることはない。Rule 19.1

RULE 20　メジャー・ペナルティ

状況 20.1
同じプレーの中断時に次のペナルティが科される：

A チーム	B チーム
A7 - 5:00 + 5:00 + 20:00	B3 - 5:00 + 2:00
A4 - 5:00 + 2:00	B8 - 5:00 + 2:00 + 2:00

5 分間のペナルティはすべてメジャー。両チームの氷上の人数はどうなるか？ペナルティを犯したプレーヤーの交代条件は？
答え
A チームは、5 分間ショートでプレーする。B チーム（キャプテン）は、1 人のプレーヤーを 4 分間ショートさせるか、2 人のプレーヤーを 2 分間ショートさせるかを選択できる。A チームは、追加プレーヤーをボックス内に入れ、直ちにメジャーのタイムペナルティーを遂行しなければならない。B

ペナルティの種類

チームは、1 人の追加プレーヤーを 4 分間ボックス内に入れるか、2 人の追加プレーヤーを 2 分間ずつボックス内に入れなければならない。Rule 20.3

状況 20.2
レフェリーは A チームのプレーヤーにメジャーペナルティを科した。プレーをビデオで確認した後、レフェリーはそのペナルティを完全に無効とすることができるか？
答え
はい。レフェリーは、最初のメジャーペナルティの判定を確定するか、同じ違反に対して最初の判定をマイナー・ペナルティに軽減するか、またはペナルティを無効にすることができる。Rule 20.6

状況 20.3
A チームがゴールを決めた。このプレーの中断時に 、ラインズパーソンは A チームのプレーヤーに対するメジャー・ペナルティに値すると思われるペナルティを報告する。ペナルティはゴールの前に起こっている。レフェリーが違反行為のビデオを確認し、ラインズパーソンに同意したらどうなるか？
答え
レフェリーが違反行為のビデオを確認し、それがメジャー・ペナルティに値するものであることに同意するのであれば、ゴールは認められない 。

状況 20.4
A チームがゴールを決めた。このプレーの中断時に 、ラインズパーソンは A チームのプレーヤーに対して、メジャー・ペナルティに値すると思われる違反行為があったと報告した。レフェリーが違反行為のビデオを確認したが、マイナー・ペナルティにしか値しないと判断した場合はどうなるのか？
答え
レフェリーは違反行為のビデオを確認する。ペナルティがあったことには同意するが、マイナー・ペナルティ相当の反則であると判定する。ゴールは認められない。

状況 20.5
A チームがゴールを決めた。このプレーの中断時に、ラインズパーソンが A チームのプレーヤーに対してメジャーペナルティに値すると思われる違反行為を報告した。レフェリーが違反行為のビデオを確認したが、ルール違反はなかったと裁定した場合はどうなるか？
答え
レフェリーはビデオを確認し、違反行為はなかったと判定する。ペナルティはない。ゴールは認められる。

RULE 21　危険な行為

状況 21.1
第 2 ピリオドで、A チームの選手が重大な違反を犯し、レフェリーの判断で B チームの選手を危険にさらしました。レフェリーは、この違反がプレー規則のいずれにも記載されていないことを知った。レフェリーは何ができるか？

ペナルティの種類

答え
競技規則に記載されていない状況であっても、ゲームに参加している人を危険にさらすような行為に対しては、レフェリーは、危険な行為に対するメジャー・ペナルティおよびゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科すことができる。このルールの使用は例外的なケースに限定されるべきであり、常用されるべきではないことに注意すること。Rule 21.1

RULE 22　　ミスコンダクト・ペナルティ

状況 22.1
A チームは、マイナー・ペナルティが 1 分 30 秒残っている状態でショートハンドである。このプレーの中断時に、各チームから 1 人のプレーヤーにマイナー・ペナルティが科される。次のプレー中断時に、同時のマイナー・ペナルティをしているプレーヤーの 1 人に追加ミスコンダクト・ペナルティが科される。この場合、そのチームは今すぐ追加のプレーヤーをボックスに入れる必要があるか？それとも、元のプレーヤーが交代を必要とせずに、マイナーとミスコンダクト・ペナルティの残りを遂行することができるのか？
答え
マイナーは同時のものであり、ペナルティタイムには関係しないため、氷上のマンパワー・アドバンテージはなく、ミスコンダクト・ペナルティを犯したプレーヤーはすでにペナルティ・ボックスにいるため、追加の交代は必要ない。Rule 19.1；Rule 22.3

状況 22.2
同じ試合において 2 回目の 10 分間のミスコンダクト・ペナルティを科されたプレーヤーは、自動的にゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科されるのか？
答え
はい。Rule 22

RULE 23　　ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティ

状況 23.1
試合終了のブザーが鳴った。プレーヤーとコーチがリンクを離れようとしたとき、負けたチームのアシスタントコーチの一人が、オンアイスオフィシャルに向かって汚い言葉を投げかけ始めた。どのようなペナルティが科せられるか？
答え
違反したコーチにはゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。Rule 39.5(ii)；Rule 75.5(ii)

状況 23.2
ファイトの後、ビジタープレーヤーをリンクの外にエスコートしていたラインズパーソンが、そのプレーヤーがファンから口汚くののしられるのを目撃した。そのプレーヤーは観客をつかんで揺さぶりながら応戦した。ラインズパーソンは何をするか？

ペナルティの種類

答え
ラインズパーソンは目撃されたことをレフェリーに報告し、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科し、IIHF 規律規程に記載されている手続きを進めるために、そのできごとを報告する。Rule 23.8 は、観客を妨害または殴打した場合、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科すと定めている。Rule 32.4 では、ラインズパーソンは試合終了後、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティの裁定に関わる状況を報告しなければならないと規定されている。

RULE 24　　ペナルティ・ショット

状況 24.1
シュートアウト（またはペナルティ・ショット）の最中、シューターがゴールに向かう途中でパックを超えてしまった。パックはゴールに向かって滑り続けており、そのプレーヤーは戻ってパックを拾いゴールに向かって進み続けた。これは正当か？
答え
はい。パックが完全に止まっていない限り、プレーヤーはパックを拾いゴールに向かって続けて得点を試みることができる。Rule 24.2

状況 24.2
試合前、コーチがレフェリーにルールブックのどこに「スピン・オー・ラマ」 の動きが記載されているか尋ねた。
答え
Rule 24.2 に記載されている。ペナルティ・ショットやシュートアウトの試行中は、正当な動きではない。

状況 24.3
シュートアウトまたはペナルティ・ショットの試技において、シューターがショットを打とうと構え、そのプレーヤーがフェイスオフサークルのハッシュマーク付近まできたとき、そのプレーヤーはショットのフェイクをしてシュートを打たなかった（しかし、その動作はそのプレーヤーがシュートを打とうとしたように見える）。パックがゴールラインに向かって進み、プレーヤーがパックを取り戻してシュートし、最終的にゴールした。このゴールはカウントされるか？その根拠は？
答え
はい、このゴールはカウントされる。パックは実際にシュートされたのではない。パックはゴールラインに向かって動き続け、リバウンドはなかった。Rule 24.2

状況 24.4
ゴールキーパーは「オンザフライ」で変更できるか（つまり、プレーの進行中に氷上のゴールキーパーをバックアップゴールキーパーと交代できるか）？
答え
Rule 74.1 には、「プレーヤーはプレー中いつでもプレーヤーズベンチから交代することができる... 」とある。つまり、ゴールキーパーは特に除外されていないので、ゴールキーパーはその場で交代するこ

ペナルティの種類

とができる。しかし、これには 3 つの例外がある：
a. ベンチにいるゴールキーパーが、負傷した氷上のゴールキーパーと交代するためにプレーの中断中に試合に入ってきた場合、次のプレーの中断時まで交代することはできない。Rule 8.2
b. ペナルティ・ショットを防御するためにゴールキーパーを交代させた場合、交代したゴールキーパーは次のプレー中断時まで試合に出ていなければならない。Rule 24.2

Rule 82.1 の最後の段落に記載されているゴールキーパーの交代に関する記述は、プレーの中断中にゴールキーパーを交代させることに関するものであり、本問で示されたシナリオには適用されないことに注意すべきである。

状況 24.5

あるプレーヤーがブレイクアウェイで後方からペナルティを受け、レフェリーがディレイド・ペナルティを宣告する（違反したチームがパックをコントロールするとペナルティ・ショットが与えられる）。クリーズ内でスクラムがあり、ディフェンディングチームのスケーターがクリーズ内において手でパックを覆った。これもペナルティ・ショットの対象である。レフェリーはどのように処置すべきか？

答え
レフェリーは 2 本のペナルティ・ショットを与える。ただし、1 回のプレー中断で得点が与えられるのは 1 点のみである。1 本目のペナルティ・ショットでゴールした場合、2 本目のペナルティ・ショットは行われず、犯した違反に対して適切なペナルティが科せられる。Rule 24.6

状況 24.6

ディフェンディング・プレーヤーがアタッキング・スケーターのショットをブロックし、パックはブルーラインをわずかに越えてニュートラル・ゾーンに逸れた。ショットをブロックしたプレーヤーはルーズパックを取りブレイクアウェイに向かう絶好のチャンスを得た。しかし、そのスケーターは自陣のディフェンディング・ゾーンのすぐ内側でファウル（トリッピング）を受け、ルーズパックを取るチャンスを奪われた。レフェリーの裁定は？

答え
トリッピングによるマイナー・ペナルティ。ペナルティを受けたプレーヤーはまだニュートラル・ゾーンにいなかったので、ペナルティ・ショットは与えられない。Rule 24.8

状況 24.7

A チームのプレーヤーがアタッキング側ブルーラインの内側から相手ゴールに向かってショットをした。B チームのディフェンスがこのショットをブロックし、パックは A チームのシューターを越えてニュートラル・ゾーンに逸れた。ショットをブロックした B チームのプレーヤーが A チームのプレーヤーを通り抜け、ブルーラインを越えてニュートラル・ゾーンに入り、そのプレーヤーがルーズパックを持ったときにブレイクアウェイとなる。そのプレーヤーは背後からフッキングされ、レフェリーはペナルティ・ショットのために腕を上げた。ペナルティの合図から 1 秒後にピリオドは終了した。たとえ B チームのプレーヤーがフッキングされていなかったとしても、そのプレーヤーがゴールしようとパックを持ってリンクを滑る時間はなかったはずである。この事実を念頭に置いても、ペナルティ・ショットは与えられるのか？

ペナルティの種類

答え
いいえ、フッキングに対するマイナー・ペナルティが与えられるべきである。その根拠は、ピリオドの時間が経過しているため、そのプレーヤーは得点する合理的なチャンスを否定されたわけではなく、その違反はペナルティ・ショットを与えるために必要なすべての基準を満たしていないということである。Rule 24.8(3)；Rule 55.2；Rule 55.5；Rule 57.3

状況 24.8
B チームはペナルティ・ショットを与えられた。A チームはペナルティ・ショットのためにゴールキーパーを交代させる。A チームの交代したゴールキーパーは、ペナルティ・ショットの後もゲームにとどまらなければならないのか？
答え
はい、A チームのゴールキーパーは次のプレー中断時までゲームにとどまらなければならない。Rule 24.2

状況 24.9
シュートアウトの間、シューターがパックに触れる前にゴールキーパーがクリーズから離れた場合、レフェリーは何をすべきか？もしゴールキーパーが 2 度目もそのようなことをしたらどうするか？
答え
最初のバイオレーションについては、もしショットが失敗してもレフェリーはショットの続行を認め、ショットのやり直しを許可する。もしゴールキーパーが 2 度目のバイオレーションを犯し、ショットが失敗した場合、レフェリーはショットのやり直しを認め、ゴールキーパーにミスコンダクト・ペナルティを科し、チームはまだシュートを行っていないプレーヤーを指名して当該ゴールキーパーのペナルティを消化させなければならず、指名された選手はシュートアウトに参加できなくなる。Rule 24.4

状況 24.10
A チームが 2 対 0 のブレイクアウェイをする。パックを持っていない A12 が B6 にフッキングされる。その直後、パックを持っている A13 が B3 に後ろからトリッピングされ、レフェリーはペナルティ・ショットを宣告する。ペナルティ・ショットでゴールが決まった場合、ペナルティタイムクロックはどうなるか？ゴールがなかった場合、ペナルティクロックには何が表示されるか？
答え
ペナルティ・ショットの結果に関係なく、B6 に対するマイナー・ペナルティが科される。Rule 24.6

状況 24.11
A チームはパワープレー中にペナルティ・ショットで得点したが、B チームは誰かプレーヤーを氷上に戻れるか？
答え
ペナルティ・ショットで得点した場合、B チームのプレーヤーは氷上に戻れない。Rule 16.2

状況 24.12
ペナルティ・ショットが与えられた。ショットの最中に相手チームのプレーヤーまたはコーチが、シュートを決めたプレーヤーに向かってスティックなどを投げた。レフェリーはどのような処置を取り、どのようなペナルティが科されるか？

ペナルティの種類

答え
ショットが失敗した場合、そのプレーヤーには 2 回目の試技が与えられる。違反したチームにはベンチ・マイナー・ペナルティが科される。もしベンチにいるプレーヤーがプレーを妨害したのであれば、そのプレーヤーにミスコンダクト・ペナルティが科される。コーチまたはチーム関係者に責任がある場合は、その者にゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科され、ドレッシングルームに退出するよう命じられ、さらに懲戒処分を受ける可能性があるため、適切な当局に報告されなければならない。Rule 24.4

状況 24.13
ペナルティ・ショット（またはシュートアウト）の試技中にシュートしたパックがポストに当たり、ゴールキーパーに当たりそのままゴールに入った。これは有効なゴールか?

答え
はい。いかなる種類のリバウンドではゴールは獲得できないが、パックがゴールポストまたはクロスバーに当たってからゴールキーパーに当たってそのままゴールに飛び込む場合は例外である。Rule 24.2

状況 24.14
A チームのプレーヤーが自陣のゴールクリーズ内でパックを手で覆った。レフェリーはプレーを止め、ペナルティ・ショットの合図をする。中断と同時にネットエリア周辺にスクラムが発生し、B チームのディフェンス・プレーヤーがゾーンに入りスクラムに加わる。ラインズパーソンがスクラムを効果的に解消し、オフィシャルはペナルティ・ショットの準備を進める。B チームのプレーヤーはペナルティ・ショットを失敗した。続くフェイスオフはどこか？上記と同じシナリオにおいて、スクラムの後に B チームにマイナー・ペナルティが与えられた場合、フェイスオフはどこになりるか？ B チームのプレーヤーはペナルティ・ショットを失敗している。

答え
Rule 24.5 には「ゴールが決まらなかった場合、そのパックはペナルティ・ショットが試みられたゾーンのいずれかのエンド・フェイスオフスポットでフェイスオフされなければならない」とあるが、ペナルティ・ショットが与えられた後、さらなる規則違反が起こったことを考慮しなければならない。上記の最初の状況では、攻撃側のポイントプレーヤーが「スクラム」の間にエンドゾーン・フェイスオフサークルの外縁を越えてゾーンに入ったので、ペナルティ・ショット失敗の後、フェイスオフはディフェンディング側のブルーライン近くのニュートラル・ゾーンに移動しなければならない。Rule 76.2。
上記 2 番目の状況では、ペナルティ・ショットが与えられた後、攻撃側にペナルティが科される。したがって、ペナルティ・ショットの失敗の後、続くフェイスオフは、ペナルティを受けたチーム（B チーム）のディフェンディング・ゾーンで行われなければならない。Rule 76.2

状況 24.15
A12 がブレイクアウェイで、B6 に後方からペナルティを受けた。A12 はブレイクアウェイで得点していないため 、レフェリーによってペナルティ・ショットのシグナルが出される。このプレーの中断中、ペナルティ・ショットが始まる前に、A12 が B16 にスラッシングをした。レフェリーはこの状況をどのように扱いうか？

ペナルティの種類

答え
A12 はペナルティ・ショットをすることができない。代わりにコーチは他のプレーヤーを指名してそのショットを打たせる必要がある。A12 はペナルティ・ボックスに入り、スラッシングのマイナー・ペナルティを受ける。Rule 24.3

状況 24.16
ペナルティ・ショットの間、シューターがショットを放つ前に、ゴールキーパーがパックをポークチェックし、パックが空中にまっすぐ上がる。そのパックは対向するシューターの足に当たってゴールに入る。これはゴールなのか？

答え
いいえ。Rule 24.2 には、いかなる種類のリバウンドでもゴールを決めることはできないと記されている。ゴールキーパーがパックをプレーした後、ゴールが成立する唯一の方法は、シューターの介入がなくパックの勢いがゴールラインを越えた場合のみであり、そうでなければノーゴールである。

状況 24.17
ペナルティ・ショットまたはシュートアウトの試技中、プレーヤーがゴールに近づいたとき、ゴールキーパーがパックをポークチェックした。パックはゴールキーパーを越えてネットに向かってバウンドする 。プレーヤーはパックを取り返し、ゴールに入れる。レフェリーの判定は？

答え
どのようなリバウンドでもゴールを決めることはできない（ゴールポストやクロスバー、ゴールキーパー、そして直接ゴールに入ったパックは例外）。プレーヤーが一度シュートをしたら、再びパックをプレーする機会はない。Rule 24.2

状況 24.18
ディレイド・マイナー・ペナルティの間、B チームのプレーヤーがブレイクアウェイ中にトリッピングされ、ペナルティ・ショットが与えられた 。そのプレーヤーはペナルティ・ショットで得点した。このペナルティ・ショットによるゴールによって、A チームに対して最初に指示されたペナルティは無効となるか？

答え
ペナルティ・ショットの結果に関係なく、A チームに対して最初に科せられたペナルティは通常の方法で科せられなければならない。ペナルティ・ショットでゴールが決まってもペナルティは失効しない。Rule 24.6

状況 24.19
A チームはマイナー・ペナルティによりスケーターが 1 人少ない。ブレイクアウェイしている B チームのプレーヤーがフッキングされ、スティックが上がってきて B チームのプレーヤーの顔面をカットした。ペナルティ・ショットが与えられる。そのプレーヤーがペナルティ・ショットで得点した。A チームの氷上の人数は？

ペナルティの種類

答え
A チームはスケーターが 2 人足りなくなる（5 対 3）。ボックス内のプレーヤーは残りのマイナー・ペナルティを受ける。ハイスティッキングに対するダブル・マイナーが科される。失われた得点機会を回復するためにペナルティ・ショットが与えられたので、最初のマイナー・ペナルティは科されない。ペナルティ・ショットがゴールに結びついたか否かにかかわらず、2 つ目のマイナー・ペナルティが適用される。ペナルティ・ショットでゴールしても、どのペナルティも失効しない。Rule 24.6

状況 24.20
A チームはペナルティ・ショットを与えられた。B チームはペナルティ・ショットのために代わりのゴールキーパーを入れる。ペナルティ・ショットの後、B チームはいつ、ペナルティ・ショットの前に滞氷していたしていた元のゴールキーパーに代えることができるか？
答え
交代したゴールキーパーは、次のプレー中断時までゲームにとどまることが要求される。Rule 24.2

状況 24.21
A チームはマイナー・ペナルティを遂行している。A チームは B チームにペナルティ・ショットを与える反則を犯した。ペナルティ・ショットのディレイド中に B チームが得点をした。ペナルティ・ショットは与えられるか？
答え
いいえ。B チームがゴールを決めたことにより、A チームが遂行していたマイナー・ペナルティは終了する。当初ペナルティ・ショットを要求していたディレイド・ペナルティに対して、適切なマイナー（またはメジャー）ペナルティが科される。ペナルティ・ショットの目的は、失われた得点の機会を再び得ることであり、B チームがこのプレーで得点したため、得点の機会は失われなかったが，違反行為に対しては適切なペナルティを科さなければいけない。Rule 24.6

状況 24.22
ペナルティ・ショットまたはシュートアウトの試技中、ゴールキーパーがセービングをしようとして誤ってゴールを動かした。レフェリーはどうするか？
答え
レフェリーは次のいずれかの判断をしなければならない ：

a. ゴールが外れていなければ、プレーヤーは通常ネットのある区域にゴールしていたであろうとレフェリーが判断した場合、ゴールを与える。

b. プレーヤーが得点しなかった場合 、またはパックが通常ネットのある区域に入ったかどうか判断できなかった場合には 、ショットのやり直しを認める。

c. パックがゴールラインを越えた後にゴールが外れてショットが終了した場合は、 上記の判断は適用されず、ショットは完了する。

ペナルティの種類

状況 24.23

A チームがアタッキング側ブルーラインの内側でショットを打とうとする。B チームのプレーヤーがこのシュートをブロックし、パックはニュートラル・ゾーンにディフレクションする。B チームのプレーヤーはニュートラル・ゾーンにいる A チームのプレーヤーを通り抜けようとする。B チームのプレーヤーがブレイクアウェイに出ることを理解し、A チームのプレーヤーが B チームのプレーヤーをフッキングする。レフェリーはディレイド・ペナルティ・ショットを宣告する。ディレイドの間、B チームのプレーヤーはブレイクアウェイを続ける。同じ A チームのプレーヤーが B チームのプレーヤーに追いつき、再び背後からペナルティを犯し、得点の機会を奪う。レフェリーは何をすべきか？

答え

レフェリーは、失われた得点の機会を回復するために、ペナルティされた B チームのプレーヤーにペナルティ・ショットを与え、A チームのプレーヤーにフッキングのマイナーを与える。このペナルティはショットの成否にかかわらず与えなければならない。（Rule 24.6）

注：2 つの別々の反則（ペナルティ・ショットが与えられることに関係する）とは、ペナルティ・ショットを与えるに値する 2 つのことが起こったことを意味する。例えば、あるプレーヤーがブレイクアウェイで背後からペナルティを受け、その後ディフェンス側のプレーヤーがクリーズ内でパックを覆った場合である。これらはペナルティ・ショットの対象となる 2 つの別々の反則であるため、2 つのペナルティ・ショットが与えられる。上記の問題では、2 つの反則のうち 1 つだけがペナルティ・ショットになる。最初の反則は、プレーヤーがブレイクアウェイを続けることができるため（Rule 24.8）、パックキャリアの得点の機会は失われていない。従って最初の反則はマイナー・ペナルティとする。

状況 24.24

シュートアウトの試技中、プレーヤーがゴールに向かってシュートを放ち、 そのシュートがクロスバーに当たり、戻って来てプレーヤーのレガースに当たった。パックはゴールキーパーに触れることなくゴールネットに入った。これはゴールなのか？

答え

ノーゴール。いかなる種類のリバウンドでもゴールを決めることはできない（ゴールポストやクロスバーに当たったパックは例外で、その後ゴールキーパーに当たって直接ゴールに入る）。Rule 24.2

状況 24.25

A7 がペナルティ・ショットをしているとき、B2 がスティックをボードにぶつけ始めた。A7 はペナルティ・ショットを失敗した。レフェリーは何をすべきか？

答え

スティックをボードにたたきつけたことが A7 の気をそらしたとレフェリーが判断するならば、レフェリーは A7 に 2 回目のペナルティ・ショットを与え、B チームにベンチ・マイナー・ペナルティを、B2 にミスコンダクト・ペナルティを科すべきである。Rule 24.4

状況 24.26

A19 がブレイクアウェイで B5 に後方からペナルティされる。レフェリーはディレイド・ペナルティを示す腕を上げる。A20 がルーズパックを拾い、ゴールに向けたが得点にはならなかった。レフェリーの判定は？

ペナルティの種類

答え
A20 がルーズパックを拾い上げたので得点の機会は失われなかった。したがってペナルティ・ショットは与えられないが、B5 にはマイナー・ペナルティが科せられる。Rule 24.1

状況 24.27
A71 がディフェンディング・ゾーンからセンターラインに向かってパックをハンドパスした。A75 は相手チームのディフェンスをかわして、ゴールキーパーと 1 対 1 になる。ディフェンス B54 は A75 をフッキングして妨害するしかなかった。これはどのような判定か？
答え
B54 のフッキングによるマイナー・ペナルティ。たとえそのスケーターが単独でプレーしていたとしても、パックはディフェンディング・ゾーンからハンドパスされたものであり、A75 がパックに触れた時点でプレーは止まっていたはずなので、ペナルティ・ショットは与えられない。ペナルティ・ショットの基準はすべて満たされていない。Rule 24.8(3)；Rule 67.1

状況 24.28
A4 がペナルティ・ショットまたはシュートアウトの場面で相手チームのゴールキーパーに向かっていた。A4 は接近してフォアハンドからバックハンドへの動きでクリーズを通り抜けた。A4 はバックハンドでパックをネットに入れる動作に連動してスケートをゴールキーパーのパッドにぶつけた。接触はゴールが決まる前に起こった。氷上での判定は？すべてのオフィシャルがこの判定に協力できるか？このコールを正しくするために、ビデオレビュー・コンサルタントでレビューすることは可能か？
答え
ノーゴールであり、4 人のオフィシャル全員がこのコールに協力できる。このプレーのコールは氷上で行われなければならない。Rule 37.3 は、ゲームオフィシャルがレビューできる状況を明確にしており、この状況は含まれない。

状況 24.29
A23 がブレイクアウェイで背後からペナルティを受け、ディレイド・ペナルティ・ショットがコールされた。続く B チームのネットでのスクラムの間、B チームのディフェンスがクリーズでパックを覆い、A チームに与えられる 2 回目のペナルティ・ショットを要求した。A チームのコーチは両方のショットを同じ選手に打たせることはできるか？
答え
できる。Rule 24.3

状況 24.30
ペナルティ・ショットまたはシュートアウトの試技中、プレーヤーがゴールに近づいたとき、ゴールキーパーがクリーズを強く滑ったため誤ってゴールが外れたが、そのプレーヤーのシュートは明らかにゴールネットを越えた。レフェリーはどのような判断を下すべきか？
答え
ショットされたパックは通常ネットのある区域に入らなかったことが明らかであったので、ショットのやり直しを認める。Rule 24.4

ペナルティの種類

状況 24.31

相手ゴールキーパーがいる状態で、プレーヤーがブレイクアウェイしているときにブザーが鳴り、プレーが中断した。ブザーが鳴ったのは、タイムキーパーのミスまたは機械の故障によるものである。レフェリーの判断によれば、ブレイクアウェイが完了するのに十分な時間があった。

答え

規則には明記されていないが、常識的に考えて、そのプレーヤーには得点の機会が与えられるべきである。したがってそのプレーヤーにペナルティ・ショットを与える。Rule 24.8 はこの決定を支持する。

状況 24.32

プレーヤー A47 はブレイクアウェイである。A47 がブルーラインを越えてアタッキング・ゾーンに入ったとき、プレーヤー B4 が A47 を背後からフッキングしようとしたが、相手の顔面をハイスティックで捕らえ、顔面を負傷した。A47 は得点する正当なチャンスを奪われたので、これはダブル・マイナー・ペナルティとペナルティ・ショットの両方に値する。次に何が起こるか？

答え

A47 にはペナルティ・ショットが与えられ、B4 にはハイスティックによるダブル・マイナー・ペナルティが科される。ペナルティ・ショットが成功したかどうかに関係なく、B4 は 2 分間のマイナー・ペナルティが科される。Rule 24.6

状況 24.33

ペナルティ・ショットまたはシュートアウトの試技中、プレーヤーがゴールに近づいたとき、ゴールキーパーがパックをポークチェックするが、スケーターはスティックでパックをコントロールし続け、スケーターはパックをネットに打ち込む。レフェリーの判定は？

答え

ゴールは認められる。この状況でスケーターはパックのコントロールを失っていないので、これはリバウンドとは見なされない。

RULE 25　ゴールの授与

状況 25.1

A16 はニュートラル・ゾーンでブレイクアウェイである。B チーム B のゴールキーパーはエキストラアタッカーのために退場している。A16 は認定ゴールを求める背後からのペナルティを受ける。レフェリーがホイッスルを吹いてプレーを止め、A チームにゴールを与える前に、A16 はペナルティをした B チームのプレーヤーにマイナー・ペナルティに値するスラッシングをした。レフェリーはどのような処置を取るべきか？

答え

A チームにゴールが与えられる。A16 にはスラッシングのマイナー・ペナルティを通常の方法で科す。Rule 25.1；Rule 61.2

ペナルティの種類

状況 25.2

シュートアウトの試技中に、プレーヤー A はゴールキーパーに向かっている。プレーヤー A がゴールキーパーをかわそうとしたとき、B チームのゴールキーパーがゴールポストにスライディングしてネットをペグから外した。ネットが外れると、シューターはパックをフォアハンド側に引き戻し、オープンネットに向かってパックを向ける。パックがゴールラインを越える前にネットが外れたので、これは認定ゴールなのか？

答え

「ゴールキーパーが氷上にいるとき」 - ゴールポストが故意または偶発的にずれたために、得点のチャンスが迫っていた攻撃側プレーヤーが得点を阻まれたときにゴールが与えられる。Rule 25.2；Rule 25.4； Rule 63.7

状況 25.3

A チームは 3 対 2 のラッシュをしている。B チームのバックチェッカー B2 が A チームのプレーヤーをピックアップするためにバックスケートをしている。彼らがネットに向かおうとしたとき、B2 がつま先からネットに倒れ込みポストをずらした。このとき、A5 がショットしパックがラインを越えてネットに入ったが、その前にネットが外れた。このゴールはカウントされるのか？

答え

はい、このゴールはカウントされる。パックがラインを越える前に、ディフェンディング・プレーヤーが故意または偶発的にゴールポストをずらした場合、レフェリーはゴールを与えることができる。ゴールが与えられるためには、そのプレーヤーに差し迫った得点のチャンスがなければならない。Rule 25.2；Rule 63.6

RULE 26　ディレイド・ペナルティ

状況 26.1

以下の状況では、どのペナルティが最初にリストアップされるのか？

状況 1：第 1 ピリオド 6 分 36 秒、A5 がチャージングによるメジャー・ペナルティを科せられ、A12 がラフィングによるマイナー・ペナルティを科せられた。

状況 2：第 1 ピリオド 6 分 35 秒に、A5 がチャージングによるマイナー・ペナルティを科せられ、A12 がラフィングによるマイナー・ペナルティを科せられた。

答え

状況 1：

Rule 26.3 は、「メジャーとマイナーが同じチームの異なるプレーヤーに同時に科された場合、ペナルティ・タイムキーパーは、マイナーのペナルティをそのようなペナルティの最初のものとして記録しなければならない」と規定している。従って A12 が最初に記録される。

状況 2：

Rule 16.2 および Rule 26.2 には、「同じチームの 2 人のプレーヤーのペナルティが同時に終了する場合、そのチームのキャプテンは、どちらのプレーヤーが先に氷上に戻るかを審判に指定する...」とある。したがって、状況 2 はキャプテンの選択である。

ペナルティの種類

状況 26.2

第 2 ピリオド、A チームに対して以下のペナルティが科される：

A19 ホールディング 6:39

A23 フッキング 6:58

A22 トリッピング 7:30

7:30 のペナルティの後、プレーは 11:15 まで続けられる。各プレーヤーは何分に氷上に戻るか？

答え

A19 は 8:58 に戻る

A23 の復帰は 10:39

A22 は 11:15 のホイッスルで戻る。

Rule 26.2 - プレーヤーはペナルティの順に戻る。

状況 26.3

次のマイナー・ペナルティが A チームに与えられる：

5:35 - A17 - フッキング

6:44 - A23 - ラフィング

7:02 - A38 - スラッシング

ディレイド・ペナルティによりプレーは継続する（プレーの中断はない）。時間が 8:44 になったとき、何が起こるか？

答え

8:44 の時点で、A17 と A23 に対するペナルティは終了しているが、A チームはまだプレーヤーが 1 人足りない。従って、1 人のプレーヤーがペナルティーボックスを出ることが許される。A17 のペナルティが先に終了したので、A17 が出場するプレーヤーである。

注意：ホイッスルが鳴らずにプレーが続行された場合、9:35 に A23 が出場し、チーム A は 5 人に戻る。プレーヤーはペナルティが終了した順にリリースされる。A38 は、プレーが中断するまで出場を待たなければならない。

状況 26.4

以下の A チームプレーヤーは、示された時間にペナルティを科される：

A4 12:00

A6 12:40

A8 13:00

最初のプレー中断は 16:15 である。A6 が氷上に戻るのはいつか？

答え

16:00。Rule 26.2

ペナルティの種類

状況 26.5

次のペナルティが A チームに課せられる：

A6 4:00

A7 4:30

A8 5:00

A8 に対する最後のペナルティが 5:00 に与えられた後、ホイッスルは鳴らない。6:30 に A7 のペナルティが終了し、A チームは 1 人のプレーヤーをペナルティ・ボックスから退場させる権利がある。釈放されるべきプレーヤーは A6 であるが、ペナルティ・ボックス係は誤って A7 をペナルティ・ボックスから出してしまった。ラインズパーソンはそれを見て、間違ったプレーヤーが釈放されたことを知る。ラインズパーソンはどうすればよいいか？

答え

オフィシャルにとって恥ずべき状況を避けるために、ラインズパーソンは A チームがパックをコントロールした時点でプレーを中断し，レフェリーに状況を修正できるように知らせるべきである。オフアイス・オフィシャルのミスなので、A チームに追加ペナルティは科せられない。

- A6 はペナルティ・ボックスから出場する。
- A7 はペナルティ・ボックスに戻り、プレーヤーの資格があるとき（8:00 以降）にのみ釈放される。すでに 8:00 を過ぎている場合は、ペナルティ・ボックスに戻る必要はない。
- もしゲームタイムが 8:00 よりも進んでいれば、A8 もリリースされる。

RULE 27　　ゴールキーパーのペナルティ

状況 27.1

両チームともフルメンバーでプレーしている。同じプレー中断時に、A21 はゴールキーパーへのインターフェアランスで 2 分、ラフィングで 2 分のマイナー・ペナルティを受ける。B1（ゴールキーパー）はスラッシングで 2 分 、B25 はラフィングで 2 分のマイナー・ペナルティを受ける。氷上の人数はどうなるか？ゴールキーパーのペナルティは誰が代行するのか？

答え

氷上の人数は、5 人対 5 人である。Rule 19.1 および Rule 19.5。ゴールキーパーに科されるマイナー・ペナルティは、その違反が行われたときに氷上にいたチームの他のメンバーが受けなければならない（ペナルティタイムクロックにペナルティタイムが表示されなくても）。ペナルティを受けたプレーヤーはゴールキーパーのペナルティを受けることはできない。Rule 27.1

状況 27.2

両チームにファイティングのペナルティが科されたプレーの中断中 、両ゴールキーパーにもペナルティが科される。一方のゴールキーパーにはラフィングによるマイナー・ペナルティ、もう一方にはゴールクリーズを離れたことによるマイナー・ペナルティが科される。これらのペナルティは、同時のペナルティのルールによって取り消され、ペナルティタイムには含まれない。各チームは、ゴールキーパーに科されたペナルティを遂行するために、ペナルティ・ボックスにプレーヤーを入れる必要があるか？

ペナルティの種類

答え
はい。ゴールキーパーは、マイナー・ペナルティが科されてもペナルティ・ボックスに送られることはなく、代わりに、プレーが停止し、ペナルティが科されたときに氷上にいたチームの他のメンバーがペナルティを代行しなければならない。 Rule 27

状況 27.3
シュートアウト 1 回目のゴール後、ゴールキーパーにミスコンダクト・ペナルティが科される。ゴールキーパーはシュートアウトを続けることができるか？ レフェリーはどのような処置をとりるか？
答え
はい、ゴールキーパーはシュートアウトを続けることができる。ペナルティを受けていない限り、すべてのプレーヤーにシュートアウトに参加する資格がある。ゴールキーパーは実際には 10 分間のミスコンダクトを「遂行する」わけではないので、ゴールキーパーはシュートアウトを続けることができる。ただし、ゴールキーパーのミスコンダクトを代行することに指定されたプレーヤーは、シュートアウトに参加する資格がなくなる（シュートアウト開始時にゴールキーパーのミスコンダクトを代行している場合も同様である）。Rule 27.3 も参照のこと。
注：シュートアウト中にゴールキーパーがミスコンダクトを科された場合、チームはまだシュートアウトに参加していないプレーヤーを指名してミスコンダクトを代行させなければならない。これは、ペナルティを受けたゴールキーパーのチームが、ゴールキーパーのペナルティの間、プレーヤーを失わなければならない試合中の手続きと同じである。

状況 27.4
ゴールキーパーがエキストラアタッカーと交代するためにベンチに向かっている。ベンチに向かう途中、ゴールキーパーはマイナー・ペナルティに値する反則を犯した。 ゴールキーパーはゴールクリーズを離れたことに対しても、追加でマイナー・ペナルティを科されるべきか？
答え
GK はエキストラアタッカーと交代するためにプレーヤーズベンチへ向かい正当にゴールクリーズから出たので、ゴールクリーズから出たことによる追加ペナルティはない。Rule 27.6

状況 27.5
ゴールキーパーがクリーズから出てニュートラルゾーンに入り 、センターレッドラインの相手側にあるパックをプレーする。しかし、ゴールキーパーのスケートは自陣に残っている。これはペナルティか？
答え
はい、これはゴールキーパーに対するマイナー・ペナルティである。パックの位置がこのルールの適用を決定する要素である。Rule 27.7

状況 27.6
ゴールキーパーがパックをプレーするためにクリーズエリアを離れた。ゴールキーパーの両方のスケートがゴール裏の制限区域内にある。ゴールキーパーはゴールライン上でパックを止めた。ゴールライン上は制限区域内と見なされ、マイナー・ペナルティに値するか？

ペナルティの種類

答え
ゴールラインは制限区域内ではないため、Rule 27.8 に「ゴールキーパーがゴールライン後方の指定された区域内でパックをプレーした場合、ディレイ・オブ・ゲームのマイナー・ペナルティが科される」と規定されているようにペナルティは科されない。パックがゴールラインを越えていれば制限区域内とみなされる。

状況 27.7
ゴールキーパーはパックがコーナーの制限区域に入る前にプレーしようとしてクリーズを離れた 。ゴールキーパーはパックをプレーできないことに気づき 、制限区域をスケートで滑りながらクリーズに向かってバックし始めた。相手側のプレーヤーはゴールキーパーが制限区域を出る前にコーナーのルーズパックに到達し、パックをゴール前へパスしようとする。ゴールキーパーは膝を落としてレッグパッドでパスをブロックしたが、これは明らかに制限区域内である。これは Rule 28.8 によるゴールキーパーへのペナルティか？
答え
ゴールキーパーが制限区域内でパックを「プレー」したのだから、ゴールキーパーにディレイ・オブ・ゲームのマイナー・ペナルティを科さなければならない。Rule 27.8

状況 27.8
第 1 ピリオド残り 2 分 10 秒の時点で、負傷によりロッカールームへ戻らなければならないプレーヤーに対してマイナー・ペナルティが科された。この場合、負傷したプレーヤーのチームは、ペナルティを消化するためにペナルティ・ボックスへ代行プレーヤーを入れなければならないか？代行者を入れる場合、氷上にいたプレーヤーでなければならないのか？どのような場合に氷上のプレーヤーでなければならないのか？
答え
ルール上、負傷したプレーヤーの代行者を入れる必要があり、その交代者は負傷したプレーヤーが試合に復帰できるようになるまでペナルティを代行しなければならない。控えのゴールキーパーを除き、どのプレーヤーでもこのペナルティを代行することができる。ゴールキーパーに対するペナルティの場合に限っては、プレーが停止しペナルティが科された時点で氷上にいるプレーヤーがペナルティを代行しなければならない。Rule 8.1；Rule 27.1

状況 27.9
A チームが B チームのゾーンにパックを入れる。B チームのゴールキーパーはパックをプレーするためにクリーズから出た。ゴールキーパーは制限区域でパックをプレーすることの誤りをすぐに理解し、クリーズに戻ろうとする。パックがガラスボードに当たり、誤ってゴールキーパーに当たった。これはペナルティか？
答え
ペナルティはない。規則ではゴールキーパーがパックをプレーしなければ罰せられない。Rule 27.8

ペナルティの種類

状況 27.10
A チームにディレイド・マイナー・ペナルティが示されている。A チームのゴールキーパーがクリーズを離れ、制限区域内のコーナーでパックを止めた。ゴールキーパーは制限区域内でパックをプレーしたことによるマイナー・ペナルティか？
答え
はい、ゴールキーパーは、当初 A チームに与えられたペナルティに加えて、制限区域内でパックをプレーしたことによるディレイ・オブ・ゲームのマイナー・ペナルティを科せられる。Rule 27.8（Rule 63.2(8) も参照）

状況 27.11
セービングの後、パックはゴールライン後方のネット近くの制限区域に入る。そのとき、セービングをしたゴールキーパーは、ゴールクリーズに片方のスケート、ゴールクリーズの外側に片方のスケートがありネットに向かってシュートしようとしていた相手からパックを突き放すために腹這いになる。レフェリーはどのような処置を取るべきか？
答え
これは良いホッケーのプレーである。ペナルティはない。ゴールキーパーはスケートがゴールクリーズに接触している。Rule 27.8

状況 27.12
A チームのゴールキーパーにメジャー・ペナルティが与えられる。A チームはこのペナルティを代行するために直ちにプレーヤーをペナルティボックスに入れなければならないか？
答え
プレーが停止しペナルティが科されたときに氷上にいたプレーヤーを直ちにペナルティボックスに入れなければならない。Rule 27.2

状況 27.13
A チームのプレーヤーはチャージングによりメジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンタクトを科せられる。同じプレーで、B チームのゴールキーパーがラフィングによりメジャーとゲーム・ミスコンダクトを科せられた。両チームとも代行プレーヤーをペナルティボックスに入れなければならないのか？
答え
どちらのチームもペナルティボックスに代行プレーヤーを入れる必要はない。Rule 19.2

状況 27.14
ネット付近でのスクラムの最中、A チームのゴールキーパーがクリーズを出て応戦し、クリーズを出たことで 2 分、さらにファイティングで 5 分のペナルティを科せられる。B チームのフォワードは 5 分間のファイティングを科せられた。ゴールキーパーの罰則はどのように科せられるか？
答え
ゴールキーパーに科せられるペナルティはすべて、プレーが停止しペナルティが科されたときに氷上にいた他のプレーヤーが受けなければならない。また、ゴールキーパーが同時のペナルティに巻き込まれ、その結果、ゴールキーパーに科された追加のペナルティにより、チームがショートハンドプレーを

ペナルティの種類

しなければならなくなった場合、ゴールキーパーに科された追加のペナルティを代行するプレーヤーは、ペナルティをしたチームの監督またはコーチがキャプテンを通じて指名したプレーヤーであれば誰でもよい。Rule 27.1；Rule 27.2

状況 27.15
プレーの中断中、ラインチェンジの手続きをしているレフェリーが、ゴールキーパーがプレーヤーズ・ベンチで新しいスティックを受け取っていることに気付いた。この場合、レフェリーはどのように対処すべきか？
答え
Rule 27.6 - プレーの中断中、ゴールキーパーはスティックの交換や修理、 負傷への対応、あるいは指示を受けるためにプレーヤーズ・ベンチへ向かう際、事前にレフェリーの許可を得なければならない。これに従わない場合、当該ゴールキーパーは直ちに（遅滞なく）控えのゴールキーパーと交代させられるか、またはディレイ・オブ・ゲームのベンチ・マイナー・ペナルティを科せられる。

状況 27.16
B チームのフォワードが、クリーズ内にいる A チームのゴールキーパーに突っ込む。その後ファイトが起こり、B チームのフォワードにチャージングとファイティングによるメジャー・ペナルティが科される。A チームのゴールキーパーは、クリーズを離れたことで 2 分、ファイティングでメジャー・ペナルティを受ける。ゴールキーパーのペナルティはどのように科されるか？
答え
メジャー・ペナルティは、プレーが停止しペナルティが科されたときに氷上にいたゴールキーパーのチームの他のプレーヤーが代行する。マイナー・ペナルティは、コーチがキャプテンを通じて指名したプレーヤーが代行する。Rule 27.1；Rule 27

状況 27.17
ゴールキーパーのペナルティを氷上のプレーヤーが受けなくてもよい場合はあるか？
答え
はい。ゴールキーパーが同時のペナルティに巻き込まれ、その結果、ゴールキーパーに科された追加ペナルティにより、ゴールキーパーのチームがショートハンドプレーをしなければならなくなった場合、ゴールキーパーに科された追加のペナルティを代行するプレーヤーは、どのプレーヤーであってもよい。Rule 27.1。 また 、ゴールキーパーが相手側チームのメジャー・ペナルティと同時にメジャー・ペナルティおよびゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを受けた場合、ゴールキーパーのメジャー・ペナルティに対応するためにペナルティ・ベンチに入れる代行プレーヤーは必要ない。Rule 27.2

状況 27.18
プレーの中断時に、A チーム 1 つのマイナー・ペナルティが科され、B チームのゴールキーパーには 2 つのマイナー・ペナルティが科される。当然ながら、B チームは反則が行われたときに氷上にいたプレーヤーをペナルティー・ボックスに入れ、ゴールキーパーに科された 4 分間のペナルティを代行しなけらばならない。B チームは 2 人目のプレーヤーをペナルティ・ボックスに入れ、B チームがショートハンドでプレーすることになるマイナー・ペナルティを受けさせなければならない。このプレーヤーも反則が行われたときに氷上にいたプレーヤーでなければならないのか？

ペナルティの種類

答え
いいえ、その必要はない。Rule 27.1「ゴールキーパーが同時のペナルティに関与し、その結果、ゴールキーパーに科された追加ペナルティにより、チームがショートハンドでプレーをしなければいけない場合、ゴールキーパーに科された追加ペナルティを代行するプレーヤーは、違反したチームの監督またはコーチがプレーイングキャプテンを通じて指名したプレーヤーであれば誰でもよい。

状況 27.19
A チームに対してディレイド・ペナルティが宣告された。B チームのゴールキーパーは、エキストラアタッカーとなるためにプレーヤーズ・ベンチへ向かっている。ゴールキーパーがセンターアイスのレッドラインを越え、ベンチから 5 フィート（約 1.5 メートル）以内の距離に近づいたところでパックが飛んできたため、ゴールキーパーはそれを止めた。その際、交代プレーヤーがベンチから氷上へと飛び出した。どのようなペナルティが科されるべきか？
答え
ゴールキーパーがパックに触れた瞬間、センターラインを越えてパックをプレーしたとして、マイナー・ペナルティが科せられる。この状況では、A チームに科せられるペナルティは 1 つだけとなる。

RULE 28　補足的規律

該当なし

RULE 29　オフィシャルのシグナル

該当なし

SECTION 05

Officials



RULE 30 オフィシャルの任命

該当なし

RULE 31 レフェリー

状況 31.1

クリーズエリアでのスクラムの最中 、レフェリーがパックを見失い、ホイッスルを吹いてプレーを止めようとしたとき、パックがフリーになりゴールラインを越えた。テレビのリプレーでは、ホイッスルが鳴る前にパックがゴールラインを越えたことがはっきりと映っている。レフェリーの裁定は？このプレーはビデオレビューの対象か？

答え

裁定はノーゴールである。実際にホイッスルを吹くには人為的な要素が含まれるため、レフェリーは物理的にホイッスルを吹くことができる前にプレーが止まったとみなすことができる。したがって、パックがゴールに入る前にプレーが終わったとみなされたかどうかはレフェリーの判断である。これはビデオレビュー・コンサルタントによるレビューの対象にはならない。パックはゴールラインを越えたので、ビデオレビュー・コンサルタントはレフェリーに話をするよう要求する可能性が高いが、レフェリーはビデオレビュー・コンサルタントに対し、プレーは止まっており、ゴールは与えられないと判断されたことを伝えなければならない。レフェリーはこのメッセージをチームに伝え、パブリック・アナウンサーにアナウンスさせる。Rule 31.2 ; Rule 37.3（レビューの基準として記載されていない）; Rule 78.5（xii）

状況 31.2

相手側ゴール前のアタッキング・プレーヤーがポジション争いをしてヘルメットを失った。ポイントからのショットが行われパックが氷上にいるプレーヤーのヘルメットの中に入り止まった。ホイッスルが吹かれる前に、ヘルメットをかぶっていないプレーヤーが直ちにヘルメットを（中のパックと一緒に）ゴールにショットした。このゴールはカウントされるか？その根拠は？

答え

以下の理由により、このゴールはカウントされない：

a. Rule 78.5(xiii) - 公式規則以外のゴールは認められない。

b. Rule 31/2 - プレーを止めるためのホイッスルの吹き方には人為的な要素が含まれるため、レフェリーはホイッスルが吹かれる少し前にプレーが止まったとみなすことができる。ホイッスルが鳴る前にパックがルーズになったりゴールラインを越えたりしても、レフェリーがその前にプレーが止まっていたと裁定した場合には、その事実は関係ない。

c. Rule 9.6 - ヘルメットを失ったプレーヤーは直ちに氷上から離れなければならない。

オフィシャル

状況 31.3
ゴール周辺でのスクラムの間、レフェリーにはパックがゴールに入らなかった（ネットの裏側に当たった）ことが明らかであるが、赤ランプが点灯している。どのような処置を取るべきか？
答え
自分でアナウンスするか、アナウンサーに「このプレーではゴールはなかった。」と、アナウンスしなければならない。Rule 31.5

RULE 32　　ラインズパーソン

状況 32.1
ラインズパーソンは、プレーヤーがメジャー・ペナルティおよびゲーム・ミスコンダクト・ペナルティに値する反則を犯しているのを目撃した。ラインズパーソンはそのプレーを止めることができるか？
答え
ラインズパーソンは、プレーヤーが重大なケガを負ったと判断しない限り、プレーが終了した時点で、目撃した内容をレフェリーに報告しなければならない。Rule 32.4；Rule 32.5

状況 32.2
ラインズパーソンは、プレーヤーズ・ベンチにいる A チームのプレーヤーが、スティックを折った味方にスティックをトスするのを目撃した。このできごとを目撃したラインズパーソンはどのような処置を取るか？
答え
ラインズパーソンはプレーを止め、目撃したことをレフェリーに報告し、レフェリーは適切なペナルティ（ベンチ・マイナー・ペナルティ）を科すことができる。Rule 32.4；Rule 10.3

状況 32.3
このプレーは A チームのゾーンで行われている。B33 がパックを持ち、ゴールラインにいる味方にパスしようとしている。そのプレーヤーがパックをパスしようとしたとき、A2 が B チームのプレーヤーに向かって折れたスティックを放ち、パックをスティックから叩き落とした。これはどちらのレフェリーも見ていないが、ラインズパーソンの一人が見ている。この状況でラインズパーソンは何をするか？
答え
ラインズパーソンはプレーを止め、その状況をレフェリーに報告しなければならない。B チームにペナルティ・ショットが与えられる。Rule 32.5；Rule 53

状況 32.4
A チームのアタッキング・ゾーンでのプレー中、ブルーライン付近の氷上にグローブがある。A チームのスケーターがパックをコントロールし、チームメイトの一人にパスをしようとしている。B チームのプレーヤーがパックを狙ってグローブを放ち、A チームのプレーヤーのスティックにぶつけた。この状況でラインズパーソンは何をするか？

答え
ラインズパーソンはプレーを止め、その状況をレフェリーに知らせる。A チームにペナルティ・ショットが与えられる。Rule 32.5；Rule 53

状況 32.5
ゴールキーパーがディフェンディング・ゾーンでパックに向かってスティックを投げた場合、ラインズパーソンは直ちにプレーを止められるか？これはルールブックのどこに記載しているか？
答え
はい、ラインズパーソンは Rule 53「スローイング・イクイップメント」に基づき、ペナルティショットを命じるためにプレーを止めることができる。Rule 32.5

状況 32.6
A57 が氷上を滑っている。ファンが氷上にポップコーンの容器を投げた。これがレフェリーに気づかれなかった場合、ラインズパーソンはプレーを止めてもよいか？
答え
止めてもよい。Rule 32.5(vii)

状況 32.7
ペナルティボックスから氷上に出る前に、プレーヤーがスティックでパックをプレーしているのをラインズパーソンが目撃した。そのラインズパーソンはどうするべきか？
答え
ラインズパーソンはそのプレーを止め、目撃したことをレフェリーに報告し、レフェリーはマイナー・ペナルティを科す。Rule 32.4(v)；Rule 56.2(viii)

RULE 33　オフィシャル・スコアキーパー

該当なし

RULE 34　タイム・キーパー

状況 34.1
ペナルティが A チームに科されている。プレーが再開したとき、ゲームクロックは開始されたが、ペナルティクロックは開始されなかった。オンアイス・オフィシャルは何をするか？
答え
次のプレー中断までプレーを続けさせる。オンオアイス・オフィシャルは、プレー中にオフアイス・オフィシャルに警告し、ペナルティを受けたプレーヤーを正しい時間に出場させるようにしなければならない。Rule 34.7

オフィシャル

状況 34.2

A チームにペナルティが科された。プレーが再開された際、試合時間は進んだが、ペナルティタイムの計測は始まらなかった。このとき、オンアイス・オフィシャルはどのような対応をとるするべきか？

答え

次のプレー停止までプレーを継続できるようにする。可能であれば、ペナルティタイムを調整し，ペナルティクロックに表示する必要がある。その時。時間表示ができない場合は、プレーヤーのペナルティが終了する時間を両チームに通知する必要がある。プレーが中断されない場合、オンアイス・オフィシャルはオフアイス・オフィシャルに警告し、プレーが中断されないようにする必要がある。ペナルティを受けたプレーヤーは適切なタイミングで出場する。Rule 34.7，パラグラフ 3

状況 34.3

一方的な試合で残り時間が数秒となったとき、プレー中にスクラムが発生し、ラインズパーソンの一人が介入しようとする。残り時間が数秒しかないことがわかっているので、オンアイス・オフィシャルは誰もホイッスルを吹かない。しかし、タイムキーパーは残り 1.2 秒で時計を止めた。オンアイスオフィシャルは何をすべきか？

答え

ペナルティの判定後に、オンアイス・オフィシャルは、タイムキーパーにプレーが止まっていないことを伝え、ゲームが終了したことを示す残り時間を計時するよう求めるべきである。これにより、それ以上のいさかいを防ぐことができる。Rule 34.7 は、ゲームオフィシャルのこの判断をサポートすることができる（Rule 1「常識」と同様）。

RULE 35　ペナルティ・タイムキーパー

状況 35.1

第 1 ピリオド残り 5 分 26 秒の時点で、B24 にトリッピングのマイナー・ペナルティが科される。次のプレー中断時に、B24 のペナルティの残り時間は 1 秒である。ペナルティの残り時間はあるが、メインクロックはピリオド残り 3 分 26 秒を示している。B24 は出てくることが許されるのか。

答え

ペナルティタイムクロックが故障した場合には、ゲームクロックを用いてペナルティの終了時間を決定する。それ以外の場合は、ペナルティタイムクロックを正確なものとみなす。上記の場合、ペナルティを受けたプレーヤーは、ペナルティタイムクロックに 0:00 が表示されるまでペナルティボックスにとどまらなければならない。Rule 35.1

状況 35.2

A チームのプレーヤーがペナルティボックス内にいて、ペナルティタイム終了前にペナルティタイムキーパーによって誤って放された。レフェリーによって B チームに対するディレイド・ペナルティが宣告されたとき、A チームはアタッキング・ゾーンでパックをコントロールしていた。ペナルティのためにプレーが中断される前に、A チームは、ペナルティを受けたプレーヤーが氷上にいる間にゴールを決める。プレーが中断されたとき、そのプレーヤーが誤って放されたことにレフェリーが気づいた。レフェリーはどうするか？

オフィシャル

答え
A チームのゴールは認められない。A チームのプレーヤーはペナルティ・ボックスに戻り、未消化の時間を果たさなければならない。ペナルティタイムキーパーのミスにより釈放されたプレーヤーであるため、A チームに追加ペナルティはない。Rule 68.5；Rule 78.5(4)；Rule 70.4、Rule 35.1；Rule 70.9 も参照のこと。

状況 35.3
A12 は第 1 ピリオドの開始早々にマイナーとメジャー・ペナルティを受けた。氷上に戻った後の 2 回目のシフトにおいて、A チームは得点をした。レフェリーは、A12 がこの試合で 2 回目のメジャーのペナルティであったため、ゲーム・ミスコンダクトを受けるべきであったと知らされた。レフェリーはどうするか？
答え
レフェリーは、不適格なプレーヤーがいたとしてゴールを認めず（Rule 5.2）、A12 にゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科さなければならない。

状況 35.4
ピリオド残り 5 分 13 秒、A15 がマイナー・ペナルティを科される。3 分 13 秒にプレーが中断した。ペナルティの残り時間は 0:01 である。ペナルティは終了したか？
答え
ペナルティのタイムクロックは正確である。上記の状況では、ペナルティを受けたプレーヤーは、ペナルティタイムクロックに 0:00 が表示されるまでペナルティ・ボックスにとどまらなければならない。Rule 35.1

状況 35.5
ピリオド残り 2 分 13 秒、A5 がマイナー・ペナルティを科される。ゲームクロック残り 0 分 13 秒 6 でプレー中断。ペナルティの残り時間は 0:01 である。このペナルティは有効か？
答え
ペナルティの残り時間はまだ 0:00 に達していないので、ペナルティはまだ終了していない。Rule 35.1

状況 35.6
ピリオド残り 2 分 13 秒、A15 がマイナー・ペナルティを科される。ゲームクロック残り 0 分 13 秒 6 でプレー中断。ペナルティの残り時間は 0:00 である。このペナルティは有効か？
答え
ペナルティの残り時間が 0:00 に達したので、ペナルティの有効時間は終了した。Rule 35.1

状況 35.7
A チームは 4 対 3 でリードしている。第 3 ピリオド残り 2 分 25 秒、A チームはフッキングのマイナー・ペナルティを科される。さらに残り 1 分 11 秒、トリッピングによる 2 つ目のマイナー・ペナルティが科される。B チームは残り時間 25 秒 9 で同点に追いつきく。このゲームの残り 25 秒 9 の氷上の人数は？

答え
最初のペナルティの残り時間がまだ 0 秒 01 であると仮定すると、これは B チームのゴールにより失効したペナルティとなる。トリッピングのペナルティを受けたプレーヤーはペナルティ・ボックスに残り、チームはピリオドの残り 25 秒 9 の間 5 対 4 でプレーする。Rule 16.2；Rule 35.1

状況 35.8
次のペナルティが A チームに与えられる：
A16 - 5:58　ROUGH
A12 - 6:33　HOOK

B チームは 7 分 58 秒に得点し、ペナルティクロックは以下を示す：
A16 - 0:01
A12 - 0:35

レフェリーはどのような処置を取るべきか？

答え
A16 のペナルティのタイムクロックにはまだ 0:01 が表示されているので、これは B チームが 7 分 58 秒に得点したときに終了するペナルティである。A チームは、A12 がペナルティボックスに残っている間、ショートハンドでプレーを続けることになる。Rule 35.1；Rule 16.2

RULE 36　統計スタッフ

該当なし

RULE 37　ビデオレビュー

状況 37.1
クリーズエリアでの混戦の最中、レフェリーがパックを見失ってホイッスルを吹こうとしたとき、パックがフリーとなりゴールラインを越えた。テレビのリプレーは、ホイッスルが鳴る前にパックがゴールラインを越えたことを明らかに示している。レフェリーの裁定は？このプレーはビデオレビューの対象となるか？

答え
判定はノーゴールである。実際にホイッスルを吹くには人間的な要素が含まれるため、レフェリーは物理的にホイッスルを吹くことができる前にプレーが止まったとみなすことができる。したがって、パックがゴールに入る前にプレーが終わったとみなされたかどうかはレフェリーの判断である。これはビデオレビュー・コンサルタントによるレビューの基準にはならない。パックはゴールラインを越えたので、ビデオレビュー・コンサルタントはレフェリーに話をするよう要求する可能性が高いが、レフェリーはビデオレビュー・コンサルタントに対し、プレーが止まったとみなされたのでゴールは与えられないことを伝えなければならない。レフェリーはこのメッセージをチームに伝え、パブリックアナウンサーにアナウンスさせる。Rule 31.2；Rule 37.3（レビューの基準として記載されていない）；Rule 78.5(12)

オフィシャル

状況 37.2

シュートアウトの試技中 、ゴールキーパーがポークチェックしたため、シューターは得点をしようとゴールキーパーをかわす動きを見せた。シューターがゴールキーパーをかわし終え、パックを放った時点では、スティック上のパックはゴールラインを 2cm ほど越えていた。パックはゴールキーパーに当たってコースが変わり、そのままネットに入った。オンアイス・オフィシャルは、シューターがパックを放った際にそれがゴールラインを越えていたことに気づかず、レフェリーはゴールのシグナルを出した。このプレーについて正しい判定を下すために、ビデオレビュー・コンサルタントが介入することは可能か？

答え

はい、ビデオレビュー・コンサルタントは、すべての潜在的なゴールの正当性を保証するために支援することができる。Rule 37.3

状況 37.3

アタッキング・プレーヤーはスティックのブレードが明らかにクロスバーの上でスティックを持っている。放たれたパックはこのプレーヤーのスティックの腰の近くのシャフトに接触し、そのまま相手ゴールに入った。このゴールはハイスティックで接触されたとして取り消されるべきか？

答え

いいえ、これは良いゴールである。決定要因はパックがスティックのどこに接触したかである。パックがクロスバーの高さより下でスティックと接触し、ゴールに入った場合、そのゴールは認められる。Rule 80.3；Rule 37.3

状況 37.4

ゴール前での接戦の後、ラインズパーソンはエンドゾーンのフェイスオフスポットでフェイスオフを行う。パックをドロップした後、ホーンが鳴り、ビデオレビュー・コンサルタントが状況を確認する時間を増やしたがっている。どうすればよいか？

答え

パックがドロップされたら、それ以上ゴール前でのプレーをレビューすることはできない。接戦となったプレーの後、レフェリーは次のフェイスオフの準備のために時間をかけるか、レフェリーの 1 人がオフィシャルボックスに進み、ビデオレビュー・コンサルタントとコミュニケーションをとり、すべての疑惑を取り除くことができる。Rule 37.1；Rule 78.6

RULE 38　コーチ・チャレンジ

状況 38.1

赤チームがアタッキング・ゾーンに入り、そのプレーはオンサイドのシグナルを受けた。赤チームはそのゾーンに入り続け、アタッキング・ゾーンに入ってから 23 秒後にゴールを決めた。緑チームのコーチは、赤チームがゴール前にゾーンに入ったとき、プレーはオフサイドであったと考え 、コーチチャレンジをしたいと意思表示した。オフィシャルはビデオレビュー・コンサルタントと協力してプレーを確認し、コーチチャレンジが正しく、プレーはオフサイドであったことを確認した。どうなるか？

オフィシャル

答え
ゴールは認められず、適切なアナウンスがなされ、時計は 23 秒前にセットし直され、フェイスオフは緑チームのエンドゾーン外のニュートラル・ゾーンのフェイスオフスポットのいずれかで行われる。Rule 38.2；Rule 83.6(2)

状況 38.2

赤チームがアタッキング・ゾーンに入り、そのプレーはオンサイドとしてシグナルされる。赤チームがゾーンに進入し続け、パックキャリアが緑チームのプレーヤーにフッキングされる。ディレイド・ペナルティのシグナルが出される。その数秒後に赤チームが得点する。緑チームのコーチは、ゴール前に赤チームがゾーンに入ったとき、このプレーはオフサイドであったと考え、コーチチャレンジをしたいと意思表示する。オフィシャルはプレーを確認し、コーチチャレンジがオフサイドであったことは正しかったと確認する。どうなりますか？

答え
ゴールは認められず、緑チームのプレーヤーにフッキングのペナルティが科せられ、適切なアナウンス（ビデオレビューの結果とペナルティ）が行われ、時計はオフサイドがコールされるべきであった時間にセットし直され、フェイスオフは（ペナルティにより）緑チームのエンドゾーンにあるフェイスオフスポットのいずれかで行われる。Rule 38.2

状況 38.3

赤チームがアタッキング・ゾーンに入り、そのプレーはオンサイドとしてシグナルされる。赤チームがゾーンに進入し続け、パックキャリアが緑チームのプレーヤーにフッキングされる。ディレイド・ペナルティのシグナルが出される。その数秒後、赤チームが得点する。緑チームのコーチは、ゴール前に赤チームがゾーンに入ったとき、このプレーはオフサイドであったと考え、コーチチャレンジしたいと意思表示する。オフィシャルはこのプレーを確認し、コーチの誤りでオンサイドであったことを確認する。どうなりますか？

答え
ゴールは成立し、赤チームによるゴールの結果、緑チームのプレーヤーに対するフッキングのペナルティは取り消されるが、コーチチャレンジが失敗であったため、緑チームにはディレイング・ザ・ゲームのマイナー・ペナルティが科される。適切なアナウンス（ビデオレビューの結果とペナルティ）が行われ、センターアイスでフェイスオフが行われる。Rule 38.2

状況 38.4

赤チームがアタッキング・ゾーンに入り、そのプレーはオンサイドとしてシグナルされる。赤チームがゾーンを進み、アタッキング・ゾーンに入ってから 23 秒後にゴールを決めた。緑チームのコーチは、ゴール前に赤チームがゾーンに入ったとき、プレーはオフサイドであったと考え、コーチチャレンジをしたいと意思表示する。オフィシャルはこのプレーをレビューしたが、ビデオレビューでは結論が出なかった。どうなりますか？

オフィシャル

答え
氷上での最初の判定はオンサイドであったので、ゴールは認められ、コーチチャレンジが失敗したことに対し、ディレイング・ザ・ゲームのマイナー・ペナルティが緑チームに科される。コーチチャレンジの結果について適切なアナウンスが行われる。Rule 38.2

状況 38.5

ゴールが得点され、得点されたチームが、ゴールが得点される前にプレーがオフサイドであったとしてコーチチャレンジを行う。ラインズパーソンとビデオレビュー・コンサルタントが検討した結果、最初のコールは覆り、プレーはオフサイドであったためゴールは認められない。ブルーラインでの最初のプレーは、自陣からの違反チームによるロングパスであった。レビューが終了し、オフサイドによりゴールが認められないと判断された場合、フェイスオフはどこで行われるか？

答え
レビューの結果、最終的にゴールは認められないことが決定されたので、フェイスオフは、そのプレーが最初にオフサイドと判定された場合と同様に、パスが発生したゾーンの最も近いフェイスオフの場所で行われるべきである。Rule 83.6 がフェイスオフの場所を決定する。

状況 38.6

ゴールが与えられ、ゴールを奪われた緑チームは、ゴールキーパーにインターフェアランスがあったと考え、コーチチャレンジを行う。レフェリーとビデオレビュー・コンサルタントが検討した結果、元のコールは認められ、よってグッドゴールとなる。その後、緑チームは、ゴールが決まる前のプレーがオフサイドであったと考え、コーチチャレンジをしたいと申し出る。これは許されるか？

答え
いいえ。コーチ・チャレンジは 1 つの中断につき 1 チーム 1 回のみ認められる。Rule 38.3

状況 38.7

赤チームがゴールを決めたが、ゴールキーパーに対するインターフェアランスを理由に直ちにレフェリーによってゴールが認められなかった。赤チームはゴールキーパーにインターフェアランスはなかったと考え 、プレーにチャレンジする。そのプレーを確認し、チャレンジの手続きを完了した後、ゴールキーパーへのインターフェアランスはなかったと判断される。どうなるか？

答え
ゴールは認められ、ゴールキーパーに対するインターフェアランスは無効となる。Rule 38.6

状況 38.8

赤チームがゴールを決めたが、直ちにゴールキーパーへのインターフェアランスがあったとしてレフェリーがゴールを認めない。赤チームはゴールキーパーへのインターフェアランスはなかったと考え、プレーに異議を申し立てる。そのプレーを確認し、チャレンジの手続きを完了した後、ゴールキーパーへのインターフェアランスはなかったと判断される。緑チームは、このプレーをオフサイドとしてチャレンジしたい。どうなるか？

オフィシャル

答え
ゴールは認められ、ゴールキーパーに対するインターフェアランスは無効となる。Rule 38.7 コーチ・チャレンジは 1 つの中断につき 1 チームにつき 1 回認められるので、ラインズパーソンはオフサイドの可能性のあるプレーを確認しなければならない。Rule 38.3

状況 38.9
B チームがパックを持って A チームのゾーンに入った。A チームのマイナー・ペナルティはゲームクロックの 1 分 38 秒に解かれる。B チームが得点する。A チームは、オフィシャルがゴールにつながった B チームのハンドパスを見逃したと考え、ゴールにチャレンジする。チャレンジは成功し、ゴールは認められない。検証の結果、ゲームクロック 1 分 45 秒の時点で、ゲームストップのイベント（ハンドパス）の見逃しがあったと判断される。次に何が起こりるか？
答え
ゲームクロックは 1 分 45 秒にリセットされる。マイナー・ペナルティをしていた A チームのプレーヤーは、未消化の時間（0:07 - ペナルティクロックリセット）を消化するためにペナルティボックスに戻らなければならず、続くフェイスオフは A チームのエンドゾーンの外側のニュートラル・ゾーンのフェイスオフスポットのいずれかで行われなければならない。

状況 38.10
プレーは A チームのエンドゾーンで、B チームがパックをコントロールしている。彼らはパスを回し、最終的にゴールした。A チームは、ゴールに先立ち、オフィシャルがプレーヤーベンチの端にある曲面のガラスに当たったパックのアウトオブプレーを見逃したと考え、このプレーに異議を唱える。次に何が起きるか？
答え
レフェリーはビデオレビュー・コンサルタントと一緒にプレーを確認し、ゴールの前にゲームストップの見逃しがあったかどうかを判断する。もしあった場合、ゴールは認められず、ニュートラル・ゾーンでのフェイスオフとなる。ゲームストップの見逃しがなかった場合、ゴールはカウントされ、試合を遅らせたとして A チームにマイナー・ペナルティが科される。注：「ゴールにつながるオフェンス・ゾーンでのゲームストップの失敗」には次のようなものが含まれる： ハンドパス（Rule 79）、パックへのハイスティッキング（Rule 80）、パックのアウト・オブ・バウンズ（Rule 85）。また、パックが時計にぶつかったり、パックが観客に妨害された場合など、他の特別なできごとも適用される。

状況 38.11
アタッキング・ゾーンにいるアタッキングセンターがフェイスオフでパックをグラブでプレーしたが発見されない。そのパックは直接味方に渡り、味方が得点する。ディフェンディングチームはゲームストップの失敗をチャレンジする。このチャレンジは成功するか？
答え
はい、これはペナルティの見逃しであるが、ゲームストップの見逃し（アタッキング・ゾーンにいる味方へのグラブパス）であることを否定するものではない。Rule 38.2(2)；Rule 38.9

オフィシャル

状況 38.12

パックがニュートラルゾーンからアタッキング・ゾーンに入る。ブルーラインを越える前に、パックはベンチの上（ニュートラルゾーン内）に掛かっていたグラブに当たり、オンアイス・オフィシャルに気付かれなかった。最終的に、パックはアタッキング・ゾーンに残り、アタッキングチームが得点する。ディフェンディング・チームは、パックがベンチの上にぶら下がっているグローブに当たったときにプレーを止めるべきだったと主張して、ゴールに異議を唱えたいと考えている。これは正当なチャレンジであるか？

答え

いいえ、これはチャレンジにはならない。ゲームストップの失敗はアタッキング・ゾーン（オフェンシブゾーン）内で発生したものでなければならない。Rule 38.2。 グローブへの接触はニュートラルゾーンで起こったので、「ゲームストップの失敗」はアタッキング・ゾーンでは起こらなかった。

状況 38.13

パックがニュートラルゾーンからアタッキング・ゾーンに入った。ブルーラインを越えた後、パックはベンチの上（アタッキング側エンドゾーン内）にぶら下がっていたグラブに当たったが、オンアイス・オフィシャルに気づかれなかった。最終的に、パックはアタッキング・ゾーンに残り、アタッキングチームが得点する。ディフェンディング・チームは、パックがベンチにぶら下がっていたグローブに当たった時点でプレーを止めるべきだったと主張し、ゴールに異議を唱えたい。これは正当なチャレンジか？

答え

はい。パックがグローブに当たったというゲームストップの失敗はアタッキング（オフェンス側）ゾーンの中で発生した。Rule 38.2。グローブへの接触はアタッキング・ゾーンで起こったので、「ゲームストップの失敗」の違反はオフェンシブ・ゾーンで起こった。

状況 38.14

ディフェンディング・プレーヤーが自陣のディフェンディング・ゾーン内でパックをハイスティックし、味方がそれに触れてもホイッスルは吹かれない。プレーは続行されアタッキング側が得点する。ハイスティックのためにプレーは止められるべきであった。これは正当なチャレンジか？

答え

ゲームストップの見逃しはディフェンディング側が犯したものである。これはチャレンジにはならない。Rule 38.2(2)

状況 38.15

アタッキング・プレーヤーがニュートラルゾーンからアタッキング・ゾーンにパックを手で打ち落とし（あるいはハイスティッキングで打ち）、 アタッキング・プレーヤーの味方のプレーヤーがそれに触れてもホイッスルは吹かれない。プレーは続行され、アタッキング側が得点する。このプレーはハンドパスにより止められるべきであった（またはハイスティッキングの反則）。このチャレンジは正当であるか？

答え

はい。プレーを停止すべき事象が見逃されたこと、およびパックをグローブ（またはハイスティック）で味方に渡す反則は、パックに触れた時点で発生する。この事象はアタッキング・ゾーン内で発生したため、オフェンシブ・ゾーンにおける「プレー停止の見逃し」とみなされる。Rule 38.2(2)

オフィシャル

状況 38.16

アタッキング・チームがセンターレッドラインの自陣側からアタッキング・ゾーンにパックを入れる。アイシングはコールされない。最終的に、パックはアタッキング・ゾーンにとどまり、アタッキングチームが得点する。ディフェンディング・チームは、アイシングのホイッスルがあるべきだったと主張し、ゴールに異議を唱えたい。これは正当なチャレンジか？

答え

いいえ、チャレンジは成功しない。アイシングのプレーはゲームストップの見逃しとはみなされない。Rule 38.2(2)

状況 38.17

守備側のプレーヤーがディフェンディング・ゾーンからパックを打ち、ガラス（フェンス）を越えて外に出した。ペナルティを宣告されたチームは、パックが何かに当たってコースが変わり、プレーエリア外に出たのだと主張して判定に異議を申し立てたが、判定は覆らなかった。この場合、どうなるか？

答え

当初のディフェンディング・プレーヤーに対する「ディレイ・オブ・ゲーム」の判定は維持され、当該チームにはチャレンジ失敗に対する 2 回目の「ディレイ・オブ・ゲーム」のペナルティ（または状況に応じてダブル・マイナー・ペナルティ）が科され、2 人目のプレーヤーをペナルティ・ボックスに入れなければならない。この場合、2 分間の「5 対 3」の状況となる。

状況 38.18

攻撃側のチームがニュートラル・ゾーンからアタッキング・ゾーンへパックを打ち込む。パックは観客保護ネットに当たったものの、レフェリーにはその事実が確認されなかった。その後もパックはアタッキング・ゾーンに留まり、最終的に攻撃側がゴールを決めた。この「ゴール」がニュートラル・ゾーンから行われたものであったとしても、守備側はこのプレーについて、本来なされるべきであった試合中断が見落とされたことを理由に、チャレンジを要求することはできるか？

答え

はい、ニュートラル・ゾーンからパックが打ち込まれたのは確かであるが、本来ならプレーを止めるべき事態が見逃されたのは、アタッキング・ゾーンでパックが観客席の防護ネットに当たり、プレーエリア外に出た場面でのことである。

状況 38.19

A チームがゴールを決めた。ゴールブレイクの終わりに、B チームのコーチはタイムアウトを要求する。このときにタイムアウトを要求することは許されるか？コーチはタイムアウトを利用して、コーチチャレンジを開始するかどうかを決定する時間を要求することができるか？

答え

ゴール後にタイムアウトを要求することは認められるが、ゴールブレイク後はコーチチャレンジを要求することはできない。Rule 38；Rule 87

オフィシャル

状況 38.20

A チームが得点した後、B チームは、その得点につながったフェイスオフの際に、A チームがフェイスオフ・バイオレーションを犯したとして、レフェリーが見落とした違反を理由にコーチチャレンジを要求したいと考えている。この状況でチャレンジを行うことは可能か？

答え

いいえ、フェイスオフ・バイオレーションそのものを、試合を停止すべき事象が見落とされたとしてチャレンジすることはできない。ただし、攻撃側のセンターが手を使ってフェイスオフに勝った場合、それはハンドパスによる試合停止事象の見落としとしてチャレンジの対象となり得る。

RULE 39　アビューズ・オブ・オフィシャル

状況 39.1

レフェリーによって A44 に対するマイナー・ペナルティが宣告される。ディフェンディング・ゾーンにいた A44 のチームメイトの A16 がパックをコントロールし、ディレイド・ペナルティのホイッスルが鳴った後、A16 はパックをショットし、それがガラスを越えて観客の中に飛び込んだ。レフェリーはこの状況をどのように扱うか？

答え

A チームがパックをキープしコントロールした時点でプレーを止めるホイッスルが吹かれるため、A16 がガラスを越えて観客席にパックをショットしても追加ペナルティはない。Rule 15.1。 注：レフェリーの裁定に異議を唱えるために、A16 が故意にパックをガラスの上にショットしたとレフェリーが判断した場合では、A16 にペナルティが科せられることがある。Rule 39.1；Rule 63.2(2)

状況 39.2

A チームのプレーヤーと B チームのプレーヤーが同時にマイナー・ペナルティを科された。プレー再開後、A チームのプレーヤーはオンアイス・オフィシャルに暴言を吐き、どのような罰則を科せられ、A チームの別のプレーヤーがペナルティ・ボックスに入る必要があるか？

答え

同時の反則により、両チームは 5 対 5 でプレーしているため、アンスポーツマンライク・コンダクトペナルティを受けるためには、A チームの別のプレーヤーがペナルティ・ボックスに入らなければならない。ペナルティを受けたプレーヤーは、両方のペナルティが終了した後の最初の中断時に出場する。Rule 39

状況 39.3

あるプレーヤーが試合終了時にレフェリーに暴言を吐いた。そのプレーヤーに科されるペナルティと適用される規則は何か？

答え

暴言が試合終了時にレフェリーに向けられたものである場合、そのプレーヤーは Rule 39.5(2) に基づきゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科されるべきである。

オフィシャル

状況 39.4

プレーヤーがトリッピングによるマイナー・ペナルティを受けており、ペナルティ開始から 30 秒後に、ペナルティを受けたプレーヤーがペナルティ・ボックスからオフィシャルに暴言を吐いた。そのプレーヤーには、アンスポーツマンライク・コンダクトのマイナー・ペナルティが科せられる。別のプレーヤーがこの追加のマイナー・ペナルティを受けなければならないのか？

答え

ペナルティを科されたプレーヤーが、最初のペナルティを科される前または科された後のいずれかに、追加のアンスポーツマンライクコンダクトを科された場合、追加のペナルティは未消化のペナルティクロックに加算され、連続して科される。Rule 75.2；Rule 39.2(6)

状況 39.5

試合終了のホーンが鳴り響き、負けたチームのアシスタントコーチがベンチの出入り口に立ち、オンアイス・オフィシャルに汚い言葉を投げかけた。そのコーチにはどのようなペナルティが科せられるか？

答え

そのアシスタントコーチにはゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。Rule 39.5(2)

状況 39.6

正当なパックの争奪中に、一方のスティックを折った場合、ペナルティは科されないが、プレーヤーはそうでないと感じ、レフェリーに怒鳴る。折れたスティックを捨てるとき、プレーヤーはそれをガラス越しに観客席に投げ入れた。どのような判定が下されるか？

答え

そのプレーヤーには、アンスポーツマンライク・コンダクトによるマイナー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。Rule 39.5(5)；Rule 39.4(6)

状況 39.7

コーチが水筒を氷上に投げた。あなたはどうするか？

答え

レフェリーの見解では、水筒をオフィシャルに向けようとせず、氷上に投げた場合、アンスポーツマンライク・コンダクトによるベンチ・マイナー・ペナルティが適用される。Rule 75.3。レフェリーの見解において、物体がオフィシャルの方向に投げられたが、接触するまでには至らなかった場合、ゲーム・ミスコンダクトが適用される。Rule 39.5

状況 39.8

コーチがレフェリーの一人に向かって下品で乱暴な言葉を使う。この暴言は大声で個人的なものであり、最寄りのラインズパーソンはベンチ・マイナー・ペナルティに値すると判断する。ラインズパーソンはこのペナルティをレフェリーに報告するためにプレーの中断を待たなければならないが、プレーの中断が起こる前に違反したチームが得点をした場合はどうなるか？

a. ゴールは認められず、ベンチ・マイナー・ペナルティは科されない。
b. ゴールは認められず、ベンチ・マイナー・ペナルティが科される。
c. ゴールは認められ、ベンチ・マイナー・ペナルティが科されない。
d. ゴールは認められ、ペナルティは科される。

答え
b. ゴールは認められず、ベンチ・マイナー・ペナルティが科される。Rule 32.4；Rule 39.3

状況 39.9
レフェリーの判定に抗議して、スティックやその一部、またはその他の物や用具を競技区域の外に投げ捨てたプレーヤーにはどのようなペナルティが科されるか？
答え
そのプレーヤーには、アンスポーツマンライクコンダクトのマイナー・ペナルティに加え、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。Rule 53.2；Rule 53.5；Rule 39.4；Rule 39.5

RULE 40　身体的なアビューズ・オブ・オフィシャル

状況 40.1
プレーヤー A16 はセンターであり、以前にラインズパーソンからフェイスオフ・バイオレーションで交代を受けている。A16 は続くフェイスオフのために位置し、相手がフェイスオフ・ドットに近づいた瞬間に、A16 はラインズパーソンの腕を故意に叩いた。明らかにラインズパーソンが前回のフェイスオフ・バイオレーションで交代されたことに腹を立てているようである。ラインズパーソンはどのような処置を取るべきか?
答え
プレーヤー A16 は直ちにゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科されるべきである。Rule 40.1

状況 40.2
Rule 40「レフェリーに対する身体的アビューズ・オブ・オフィシャル」は、プレーヤーがオフアイス・オフィシャルを押したり殴ったりした場合に適用できるのか?
答え
はい、オフアイス・オフィシャルもオンアイス・オフィシャルと同様に、このルールのもとではゲーム・オフィシャルとみなされる。適切な罰則は、Rule 40.1 に基づくゲーム・ミスコンダクトであり、報告書を適切な当局に提出することである。

SECTION 06

Physical Infractions



身体的妨害

RULE 41　ボーディング

状況 41.1

アイシングのプレーにおいて、バックラインズパーソンはパックのディフレクティングを見たが、フロントラインズパーソンはウォッシュアウトに気付かず、そのプレーにアイシングをコールした。アイシングプレーが完了したとき、アタッカーがディフェンディング・プレーヤーをボードに倒し、レフェリーはボーディングによるマイナー・ペナルティのシグナルを出す。今度はバックラインズパーソンがアイシングの判定を覆し、アタッカーはニュートラル・ゾーンでパックがそれるのを見たのでアイシングは無効であると訴える。レフェリーはどうするか？

答え

ボーディングのマイナー・ペナルティはそのまま適用される。続くフェイスオフはペナルティを受けたチームのディフェンディング・ゾーンで行われる。Rule 41.1；Rule 76.2

RULE 42　チャージング

状況 42.1

真か偽か？チャージングが適用されるのは，プレーヤーが相手にぶつかる直前に 3 歩以上スケートした場合、またはチェックを行う際にスケート靴が氷上から離れた場合だけである。

答え

誤 - このルールに基づくペナルティを科すための「移動距離」を決定するのに必要なストライドの数については言及されていない。Rule 42.1

状況 42.2

ゴールキーパーがゴールクリーズから出ている間にゴールキーパーにチャージしたプレーヤーに対するペナルティは何か？

答え

レフェリーの判断により、マイナー、メジャー、またはメジャー＋ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科すことができる。Rule 42；Rule 69.2

RULE 43　チェッキング・フロム・ビハインド

該当なし

RULE 44　クリッピング

状況 44.1

A16 はパックを B チームのエンドゾーンに運んでいる。B4 は A16 にヒップチェックをしようとして後方にスケーティングして身体を低くした。B4 の身体はとても低く、接触は A16 の膝の辺りである。これは正当か？

答え

いいえ。これはクリッピングのペナルティになる。Rule 44

身体的妨害

RULE 45　エルボーイング

状況 45.1

相手の顔面や頭部に傷害がなくても、エルボーイングによるメジャー・ペナルティを科すことはできるか？

答え

はい。Rule 45.3

RULE 46　ファイティング

状況 46.1

2 人のプレーヤー（A6 と B12）がファイトをしている（進んでファイトをしている）。A チームの 2 番目のプレーヤー（A44）が 3 番目のプレーヤーとしてファイティングに参加する。その後、A44 は元の対戦相手（B12）とファイトする。A44（3 番目に介入したプレーヤー）が 2 回目のファイトのインスティゲーター（扇動者）であるとみなされた場合、どのように判定するか？

答え

A44 が 2 回目のファイトの扇動者であるとみなされた場合、以下のペナルティが科される：
A6 - 5 分 FIGHT ＋ GM
A44 - 2 分 FIGHT（扇動者）、5 分 FIGHT ＋ GM（サードマンイン、扇動者）
B12 - 5 分 FIGHT ＋ GM（最初のファイト）、5 分 FIGHT（2 回目のファイト）
注意：このシナリオでは、A チームは 1 人のプレーヤーを 2 分間ショートハンドでプレーすることになる。Rule46

A44 が 2 回目のファイトの扇動者でないとみなされた場合、以下のペナルティが科される：
A6 - 5 分 FIGHT ＋ GM
A44 - 5 分 FIGHT ＋ GM（サードマンイン）
B12 - 5 分 FIGHT ＋ GM（最初のファイト）、5 分 FIGHT（2 回目のファイト）

状況 46.2

プレーの中断時に、相対する 2 人のプレーヤーが組み合い、押し合いとなる。A チームのプレーヤーは B チームのプレーヤーの突き上げに対してパンチを 1 発放ち、その後争いを避けようとした。しかし、B チームのプレーヤーは A チームのプレーヤーに対して少なくとも 5 発のパンチを放った。レフェリーは A チームのプレーヤーにラフィングによるマイナー・ペナルティを科し、B チームのプレーヤーにファイティングによるメジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科すことができるか？これはファイティングルールの適切な解釈であるか？

答え

はい、これはファイティングルールの適切な解釈である。Rule 46 は、この規則に基づいてレフェリーが科すペナルティに大きな自由を与えている。この状況において、もしレフェリーが B チームのプレーヤーが進んで戦っていると感じれば、そのプレーヤーにもゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科すべきである。

身体的妨害

状況 46.3

A16 が B13 にファイトを仕掛けた。B13 はファイトの最中にジャージを失った。ファイトは続き、今度は B13 がアグレッサー（攻撃者）となった。A16 がファイトを仕掛けたとしても、B13 はアグレッサーとしてペナルティを受けるか？

答え

はい、Rule 46.6

状況 46.4

第 3 ピリオドの 5 分 01 秒、B チームのエンドゾーンにパックが入り、その地点でプレーヤー B44 がエンドボード際でパックをコントロールした。A94 は、B44 を背後からボードに叩きつけ、B44 の顔面から出血させた。レフェリーはディレイド・メジャー＋ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科すが、レフェリーがホイッスルを吹く前に、B49 はヘルメットを脱いでチームメイトの「救助」に向かい、戦おうとしていない A94 とのファイトを扇動する。どのようなペナルティが科せられるか？氷上での人数は？

答え

A94 はボーディングによるメジャー＋ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科される。A94 は、ファイティングによるメジャー・ペナルティを科される。B49 には、扇動者によるマイナー・ペナルティ、ファイティングによるメジャー・ペナルティおよびゲーム・ミスコンダクト・ペナルティ、さらにアンスポーツマンライク・コンダクト（ヘルメットを脱ぐ）によるマイナー・ペナルティが科される。次のフェイスオフでプレーを開始する場合、氷上の人数は 4 対 4 となる。Rule 46；Rule 19.1

状況 46.5

第 1 ピリオド終了のブザーが鳴ったとき、ヒットがあり、すべてのプレーヤーが氷上に集まった。その後スクラムが起こり、元のプレーヤーではない 2 人の相手とファイトになった。この 2 人のプレーヤーがお互いにファイトをすることに同意したと仮定して、どのようなペナルティが科されるか？

答え

両プレーヤーとも、ファイトをしたことに対するメジャー・ペナルティ加え、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。Rule 46.9

状況 46.6

第 1 ピリオド終了間際、ファイトが起こる。両プレーヤーにファイティングによるメジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。両チームは休憩のためロッカールームに戻る。第 2 ピリオド開始時、パックがドロップされる前に、またしてもファイトが勃発。どちらのプレーヤーも扇動者とはみなされない。この 2 人のプレーヤーにはどのルールが適用されるか？

答え

両プレーヤーとも、ファイティングによるメジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。Rule 46.9

身体的妨害

状況 46.7

第 3 ピリオド開始のパックがドロップされる前に、A11 と B22 がグローブを脱ぎ捨てて争った。どのようなペナルティが科せられるか？ A11 と B22 はオフサイドの後、パックがドロップされる前にグローブを脱ぎ捨てて争った。どのようなペナルティが科せられるか？

答え

第 3 ピリオド開始前 -
両選手ともファイティングによるメジャー・ペナルティーとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。Rule 46.9

オフサイドの後パックがドロップされる前 -
両プレーヤーに、ファイティングによるメジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。Rule 46.10
グローブをドロップする行為は明らかなファイティングの意志を示すものであり、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科さなければならない（自発的な戦闘員）。

状況 46.8

A6 がピリオド開始前に B12 に小競り合いを仕掛けた。どのようなペナルティが科せられるか？

答え

A6 にはインスティゲーターに対するマイナー・ペナルティ、ファイティングによるメジャー・ペナルティおよびゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。B12 はファイティングによるメジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。

状況 46.9

第 1 ピリオド開始早々、A12 がマイナーとファイティング・メジャー・ペナルティを受ける。氷上に戻った後の 2 回目のシフトにおいて、A チームは得点をした。ペナルティー・ボックスでレフェリーは、A12 がこの試合で 2 回目のメジャーを受けたので、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを受けるべきであったと知らされる。レフェリーはどうするか？

答え

レフェリーは、不適格なプレーヤーがいたとしてゴールを認めず（Rule 5.2）、A12 にゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科さなければならない。

状況 46.10

A4 と B7 がファイトをしている。A4 は手（手首より下）にテープを貼っている。もし A4 が B7 に怪我を負わせた場合、どのようなペナルティが科せられるか？

答え

両プレーヤーともファイティングによるメジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科す。Rule 46

状況 46.11

相対する 2 人のプレーヤーが互いに争うことになった。ファイトをしているプレーヤーの一方のチームメイトが仲裁に入った。介入したプレーヤーにはどのようなペナルティが科されるか？

身体的妨害

答え
仲裁に入ったプレーヤーには、3 人目のプレーヤーとしてゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科せられる（さらにそのプレーヤーが負う可能性のある追加ペナルティも）。この規則が適用されるのは、ファイトの最中であることが多い。Rule 46.7

状況 46.12
両チームの先発ゴールキーパーが乱闘に関与して退場処分となった試合において、ホームチームのコーチ（Aチーム）は、ビジターチーム（Bチーム）に第 3 ゴールキーパーがいないことを承知の上で、最も粗暴な選手をリンクに送り出した。その結果、再び乱闘が発生する（すでに少なくとも 1 つの小競り合いが始まっていた）。Aチームのゴールキーパーはゴール・クリーズを離れ、グローブを脱ぎ捨て、リンクの端から端まで滑走して B チームのゴールキーパーに襲いかかり、両者は乱闘となる。この場合、両ゴールキーパーにはどのようなペナルティが科されるか？また、B チームはゴールキーパーのポジションを務めるために、別の選手をその役割に就かせなければならないのか？
答え
A チームのゴールキーパー：
クリーズを離れたことによるマイナー・ペナルティ、インスティゲーターとしてのマイナー・ペナルティ、ファイティングによるメジャー・ペナルティ＋ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティ（インスティゲーター）。

B チームのゴールキーパー：
ファイティングによるメジャー・ペナルティ。ただし、レフェリーが当該ゴールキーパーを、インスティゲーターに対して単に身を守るだけであり、自ら進んで戦ったわけではないと判断した場合は、Rule 46.6 に従い、そのゴールキーパーは試合を続行する。その特定の状況下では、B チームはゴールキーパーとしてプレーする別の選手を起用する必要はない。

状況 46.13
第 1 ピリオド終了時に A チームがボーディングのマイナー・ペナルティを受けスクラムとなる。追加のペナルティはない。第 2 ピリオド開始のため両チームが氷上に戻ったとき、B チームのプレーヤーが、ボーディングのペナルティを受けるために氷上を横切ってペナルティ・ボックスに向かっている A チームのプレーヤーに何か言った。2 人はグローブを脱ぎ捨て、ファイトになる。どのようなペナルティが適用されるか？
答え
試合中に上記のようなファイトに関与したプレーヤーには、メジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。Rule 46.10

状況 46.14
氷上で 2 人のプレーヤーの争いに巻き込まれたプレーヤーズベンチのプレーヤーに科されるペナルティは？
答え
プレーの中断中に、プレーヤーズベンチのプレーヤーが氷上の相手プレーヤーに関与した場合、競技規則に従った適切なペナルティが科される。従って、この状況においては、3 人目であることを理由とす

身体的妨害

るゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが、そのプレーヤーがこの状況で受ける可能性のある他のペナルティとともに、合理的に適用される。Rule 46.11

状況 46.15
あるプレーヤーが、パンチを予期していない相手を不意打ちでパンチした。どのようなペナルティを科すべきか？
答え
メジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティ。Rule 46.5

状況 46.16
あるプレーヤーに 、ボーディングによるメジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科されようとしている。相手側プレーヤーがこのペナルティに異議を唱え、2 人のプレーヤーが争う。第 3 のプレーヤーがこの争いに加わった。この 3 人目のプレーヤーにゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科せられるか？
答え
はい、ボーディングの状況に対しては、メジャー・ペナルティおよびゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科されるべきである（ファイティングの状況とは異なる）。Rule 46.7

状況 46.17
スクラムの中で青側のプレーヤーがヘルメットを失った。そのプレーヤーは群衆から離れ、オレンジのプレーヤーと争おうとしている。オレンジのプレーヤーがフェアにするためにヘルメットを脱いだ。ファイティング・メジャー以外にどのようなペナルティを科すべきか？
答え
オレンジのプレーヤーは、ファイトに参加する前にヘルメットを脱いだことに対して、アンスポーツマンライク・コンダクトのマイナー・ペナルティを科すべきである。Rule 46.12

状況 46.18
スクラムの最中、青チームのプレーヤーが相手側プレーヤーを争いに誘おうとしたが、 相手は争いに応じようとしなかった。青チームのプレーヤーはその気のない相手の顔面を不意打ちでパンチして傷害を負わせた。青チームのプレーヤーにはどのようなペナルティが科されるべきか？
答え
青チームのプレーヤーにはメジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科されるべきである。Rule 46.5

RULE 47　　ヘッドバッティング

状況 47.1
ペナルティを受けたプレーヤーに明らかな傷害がなくても、頭突きに対するメジャー・ペナルティを科すことはできるか？

身体的妨害

答え
できる。相手側プレーヤーに頭突きをしたプレーヤーには、少なくともメジャー＋ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。Rule 47.3

RULE 48　　イリーガル・チェック・トゥ・ザ・ヘッド・オア・ネック

状況 48.1
レフェリーの判断によると、レフェリーの視線から見て明らかに頭部を狙い、頭部が主な接触点となっている相手側プレーヤーのチェックを目撃する。レフェリーがこのペナルティに反応し腕を上げたとき、レフェリーは、これは過度に攻撃的なヒットではなかったが、頭部への接触があったため、マイナー・ペナルティが科されると感じた。しかし、プレーが止まった後、チェックされたプレーヤーが負傷していることは明らかであった。メジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科さなければならないか？
答え
こうしたタイプのチェックの後には、しばしば対戦する選手同士による小競り合い（スクラム）が発生する。スクラムが解消されると、4 人のオンアイス・オフィシャルは一か所に集まり協議を行う。このタイミングは、頭部への反則的なチェックについて話し合うのに適している。もしオンアイス・オフィシャルが、そのチェックが過度に攻撃的なものではなかったと判断すれば、マイナー・ペナルティを科すにとどめる。しかし、あるオンアイス・オフィシャルが自身の視点から見て明らかに過度に攻撃的なヒットであったと強く主張するならば、メジャー・ペナルティおよびゲーム・ミスコンダクトを科す。Rule 48

RULE 49　　キッキング

状況 49.1
A チームのゴール前のスクラムの中で、B チームのプレーヤーがパックをキックし、それが他の B チームのプレーヤーのスティックに当たってディフレクトし、ゴールキーパーのパッドに当たってネットに入った。これはゴールか？
答え
ゴール。Rule 49.2(2) には、「キックされたパックがいずれかのプレーヤー（ゴールキーパーのスティックを除く）のスティックに当たった場合は、グッドゴールと判定する」とある。ゴールキーパーからそれるという事実は、キック動作の後、ゴールキーパーからそれる前にプレーヤーのスティックに当たったという事実を変えるものではない。

状況 49.2
パックはゴールクリーズで静止している。止まり動作の一部として、アタッキングプレーヤーが止まっているパックをスケートで押して動かし、ゴールに入れた。これはゴールか？
答え
パックは氷上で完全に静止しており、アタッキングプレーヤーが次にストップモーションによってパックをゴールに突き刺したので、これは明確なキックモーションと見なされる。このゴールは認められない。Rule 37.4 ; Rule 49.2

身体的妨害

RULE 50 ニーイング

該当なし

RULE 51 ラフィング

状況 51.1

スクラムの最中、ゴールキーパーがブロッカーグローブを使って相手の頭を殴った。どのようなペナルティを科すべきか?

答え

あなたの判断で、この行為が相手を負傷させる可能性が高いと感じた場合、メジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科す。そうでなければ、ラフィングに対するマイナー・ペナルティが適切である。Rule 51

RULE 52 スルーフィッティング

状況 52.1

足や脚だけでなく腕や肘も使って相手を氷に激しく転倒させたプレーヤーにはどのようなペナルティが科されるか？誰がこのペナルティを評価できるか？相手が激しく氷に投げ出されていない場合、または脚や腕の動作が最小限である場合に適用される他の規則はあるか？

答え

Rule 52 によると、この暴力的なペナルティに対しては、メジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが唯一の選択肢であり、氷上にいる誰もがこのペナルティを科すことができる。アクションが最小限であったり、相手が激しく氷に投げ出されていない場合、レフェリーは Rule 51「ラフィング」または Rule 57「トリッピング」を用いてこの行為に対処することができる。

RULE 53 スローイング・イクイップメント

状況 53.1

ブレイクアウェイを失敗したプレーヤーが苛立ちのあまりベンチに向かい、スティックをベンチの上に叩きつけて二つに折れさせ、シャフトとブレードがプレーに戻り、ニュートラル・ゾーンを突破してきた相手プレーヤーにぶつかり妨害となり、そのプレーヤーがパックを失う（または負傷する）原因となった。レフェリーはどうすべきか？ペナルティは科されるか？

答え

レフェリーが考慮できるルールはいくつかある。状況や結果を評価する際には、適切な判断と常識が優先されなければならないいくつかの考慮事項がある：

Rule 53.2 - インターフェアランスによるマイナー・ペナルティ

Rule 53.7 - ペナルティショット

Rule 53.8 - 認定ゴール

Rule 60.3 - ハイスティッキングによるダブル・マイナー・ペナルティ

Rule 75.2 - アンスポーツマンライク・コンダクトによるマイナー・ペナルティ

身体的妨害

状況 53.2
A チームはマイナー・ペナルティによりショートハンドである。A チームのゴールキーパーがゴールクリーズエリアから出てパックをプレーしようとしたが、パックのコントロールを失った。A チームのゴールキーパーがパックキャリアにスティックを投げつけたとき、B チームがパックをコントロールし、空いたゴールネットに向かってシュートしようとしている。B チームが得点した。スティックを投げたことでゴールキーパーに与えられたペナルティはどうなる？
答え
A チームのゴールキーパーがスティックを投げたこと（ペナルティショットになるはずであった）に対するペナルティは、マイナー・ペナルティとして評価され、ペナルティがあったときに氷上にいたプレーヤーによって与えられる。Rule 53.2；Rule 15.4

状況 53.3
プレーヤー A はディフェンディング・ゾーンでスティックを失った。味方のプレーヤーが自分のスティックでプレーヤー A のスティックを足元に押しやり、そのプレーヤーがすぐに拾い上げた。これはペナルティか？
答え
ペナルティではない。スライディングしたスティックがパックや相手プレーヤーを妨害しなければ、これはペナルティではない。Rule 10.3；Rule 53.2

状況 53.4
あるプレーヤーがペナルティーの判定に抗議してスティックをスタンドに投げ入れた。どのようなペナルティが科せられるか？
答え
アンスポーツマンライク・コンダクトによるマイナー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティ。Rule 53.2(4)；Rule 53.5；Rule 39.5

状況 53.5
アタッキングプレーヤーがアタッキング・ゾーンでパックを持っている。ディフェンディング・プレーヤーがスティックまたは折れたスティックをパックキャリアに向かって投げつけた。これはペナルティショットである 。誰がこのショットをする資格があるか？
答え
ペナルティ・ショットは、コーチまたはキャプテンが指名した者が行うことができる。Rule 24.3

状況 53.6
ショートハンドを負っているチームのプレーヤー A が、A チームのネットの後方からパックを持ったプレーヤーを追いかけてコーナーに入り、ボードをハッシュマークに向かってあがる。プレーヤー A はその途中にあった折れたシャフト部分をパック保持者に向かって放ち、そのプレーヤーの足首に命中させた。どのような判定が下されるか？

身体的妨害

答え
プレーを続行させ、そのプレーでゴールが決まらなければ、ペナルティ・ショットが与えられる。Rule 53.7

状況 53.7
A チームのアタッキング・ゾーンでのプレー中、ブルーライン近くの氷上にグローブがある。A チームのディフェンディング・プレーヤーはパックをコントロールしており、チームメイトの 1 人にパックを渡す準備をしていた。B チームのプレーヤーがパックをめがけてグローブを放ち、ディフェンディング・プレーヤーのスティックにぶつけた。この動作はどちらのレフェリーにも見えないが、ラインズパーソンには見える。この状況でラインズパーソンは何をするか？
答え
ラインズパーソンはプレーを止め、その状況をレフェリーに知らせる。A チームにペナルティ・ショットが与えられる。Rule 32.5

状況 53.8
A9 はパックを所有しコントロールしていたが、B3 がパックに向かってスティックを投げアタッキングゾーンでパックのコントロールを失った。この判定は？
答え
そのプレーでゴールが決まらなければ、ペナルティショットが与えられる。Rule 53.7

状況 53.9
スケーターがコーナーでスティックを失った。味方が自分のスティックを氷上に落ちたスティックの上に置き、スティックのないプレーヤーの方に引きずって戻し、スティックを味方の約 1 メートル手前に置いた。スティックのないプレーヤーは、そのスティックをスケートで拾い上げる。レフェリーの判定は？
答え
常識的に考えれば、チームメイトがスティックを投げたりショットしたりしたわけでもなく、スティックがパックや攻撃側の他のプレーヤーの邪魔をしたわけでもないので、ペナルティは科せられない。この状況では、Rule 53 の基準やその精神に照らしてもペナルティを科すべきケースには当たらない。

状況 53.10
あるプレーヤーがブレイクアウェイをしていてニュートラル・ゾーンにいるとき、ファンがタコを氷上に投げ入れた。レフェリーは何をするか？レフェリーは選手にもう一度シュートするチャンスを与えるか？レフェリーはプレーを止めるか？
答え
投げられた物によってプレーヤーがパックのコントロールを失ったり倒れたりした場合、レフェリーはプレーヤーにペナルティ・ショットを与える。Rule 53.7

身体的妨害

状況 53.11

レフェリーは、A チームに対してディレド・ペナルティのシグナルを出す。B チームのゴールキーパーがエキストラアタッカーに代わった。B チームのプレーヤーがパックをゴール方向に戻し味方にパスするが、味方はパスを失敗する。パックは何もないゴールに向かっている。B チームのプレーヤーがパックを止めようと必死になって、ニュートラル・ゾーンから空ゴールに向かおうとしているパック（現在ディフェンディング・ゾーンにある）にスティックを投げつけた。B チームのプレーヤーのスティックがパックに接触し、パックがゴールに入るのを妨げた場合、レフェリーの判定は？また、投げたスティックがパックに全く当たらなかったものの、パック自体はゴールネットを外れた場合はどのような判定になるか？

答え

最初の状況では、A チームにゴールが与えられ、スティックがパックに接触した時点でプレーを止める。A チームにシグナルされたマイナー・ペナルティが科される。Rule 53.8；Rule 78.5

2 番目の状況では、パックがネットを外れた時点でプレーを止める。両チームがペナルティを受けているにもかかわらず、パックがネットを外れることが明らかになる前にプレーを中断することは不公平である。A チームにマイナー・ペナルティが科せられ、スティックを投げた B チームにインターフェアランスのマイナー・ペナルティが科される。スティックはパックに向かって投げられたが、パックに干渉しなかったので、マイナー・ペナルティが科される。Rule 53.2 (1)

状況 53.12

プレーヤー A がディフェンディング・ゾーンでスティックを失った。味方のプレーヤーが自分のスティックで失くしたスティックを味方のプレーヤーの方に押しやり、そのプレーヤーがすぐに拾い上げた。レフェリーは何をすべきか？

答え

スライディングしたスティックがパックや相手側プレーヤーを妨害しなければペナルティはない。

状況 53.13

B チームのディフェンディング・プレーヤーが、ディフェンディング・ゾーンでパックを持っている A チームのアタッキング・プレーヤーに向かって、氷上に落ちたグローブをショットした。正しい手順と判定は？

答え

プレーを完了させ、ゴールが決まらなければ、ペナルティをしなかったチームにペナルティ・ショットを与える。Rule 53.7

状況 53.14

A チームはエキストラアタッカーのためにゴールキーパーを外した。B チームのプレーヤーがブルーラインでターンオーバーをし、空のゴールに向かう。A チームのプレーヤーが B チームのパックキャリアにスティックを投げつけた。レフェリーの判定は？

答え

ゴールを与える。Rule 53.8

身体的妨害

状況 53.15

A10 がこの試合 3 回目のホールディングのマイナー・ペナルティのホイッスルを吹かれる。このペナルティを科された後、そのプレーヤーはフラストレーションからスティックをクロスバーの上で折った後、そのスティックを観客席に投げ入れた。そのとき A10 にどのようなペナルティを科すか？

答え

競技場外に故意に用具を投げ捨てた場合、Rule 53.5 によりゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。もしこの行為が判定に対する抗議であるとレフェリーが判断した場合には、アンスポーツマンライク・コンダクトによるマイナー・ペナルティも科す。

状況 53.16

赤チームがゴールキーパーをあげて追加攻撃。アタッキング・ゾーンにいる緑のプレーヤーがルーズパックを追いかけているとき、緑チームにディレイド・オフサイドのシグナルが出される。赤のプレーヤーがルーズパックにスティックを投げつけて、緑のプレーヤーがルーズパックに到達して空いたゴールネットを狙うのを防ごうとした。ゴールは与えられるべきか？

答え

このシナリオではゴールは与えられるべきでない。ディレイド・オフサイドが合図されたので、緑チームは正当にゴールを決めることができなかった。しかし、スティックを投げたことは無視できず、Rule 53.2 に基づくマイナー・ペナルティを科さなければならない。

状況 53.17

あるプレーヤーが氷上に落ちた折れたスティックの横をスケートで通り過ぎ、そのプレーヤーが通り過ぎるときに自分のスティックでそのスティックを空高く「フリック」した。プレーヤーが飛ばしたスティックの部分は観客の中に入った。このプレーヤーに何が科されるべきか？

答え

このプレーヤーにミスコンダクト・ペナルティを科すべきである。Rule 53.4

状況 53.18

ゴールキーパーがゴールの後ろでスティックを失った。味方のプレーヤーがスケートまたはスティックでゴールキーパーのスティックをゴールの前方まで押し戻し、ゴールキーパーがスティックを取り戻した。ここにペナルティはあるか？

答え

いいえ。しかし、スティックを動かす行為が最終的にパックや相手のプレーを妨害した場合、マイナー・ペナルティが科されることがある。

SECTION 07

Restraining Infractions



拘束する妨害

RULE 54　　ホールディング

該当なし

RULE 55　　フッキング

状況 55.1

A チームのプレーヤーがアタッキング側ブルーラインの内側から相手ゴールに向かってショットを放つ。B チームのディフェンスがこのショットをブロックし、パックは A チームのシューターを越えてニュートラル・ゾーンにディフレクトした。ショットをブロックした B チームのプレーヤーが A チームのプレーヤーをスケートで通過し、ブルーラインを越えてニュートラル・ゾーンに入り、そのプレーヤーがルーズパックを持ったときにブレイクアウェイとなる。そのプレーヤーは背後からフッキングされ、レフェリーはペナルティ・ショットのために腕を上げる。ペナルティの合図から 1 秒後にピリオドは終了する。たとえ B チームのプレーヤーがフッキングされていなかったとしても、そのプレーヤーがゴールしようとパックを持って氷を滑る時間はなかっただろう。この事実を念頭に置いても、ペナルティ・ショットは与えられるのか？

答え

いいえ、フッキングによるマイナー・ペナルティが与えられるべきである。その根拠は、ピリオドの時間が経過しているため、そのプレーヤーは得点する合理的なチャンスを否定されたことはなく、したがってその違反はペナルティ・ショットを与えるために必要なすべての基準を満たしていない、というものである。Rule 24.8(3)；Rule 55.2；Rule 55.3；Rule 55.5

状況 55.2

A24 は自陣のブルーラインの内側でパックを獲得し、パックをチップして B チームのディフェンスを抜いた。A24 は B チームのディフェンスを抜いてブレイクアウェイを仕掛けたが、B チームのプレーヤーにフッキングされた。A19 はスピードで B チームのプレーヤーをも抜き去り、ルーズパックを拾い、得点の正当なチャンスを得た。判定は？

答え

A チームは得点のための正当な機会を奪われなかったので、ペナルティ・ショットは与えられないが、B チームのプレーヤーにフッキングのマイナー・ペナルティが科せられる。Rule 55.2

RULE 56　　インターフェアランス

状況 56.1

A チームのプレーヤーがスティックを折ったとき、B チームのプレーヤーが同じプレー中にスティックを紛失した。A チームのプレーヤーは B チームのプレーヤーのスティックを拾い上げ、壊れていないとして使用することができるか？

拘束する妨害

答え
A チームのプレーヤーは、自チームのプレーヤーズ・ベンチで代わりのスティックを受け取るか、氷上にいるチームメイトからスティックを手渡されることしかできない。Rule 10.3。あるいは、スティックを失った B チームのプレーヤーがまだ氷上にいる場合、A チームのプレーヤーが B チームのプレーヤーがスティックを再び手にすることを妨げたとレフェリーが判断すれば、Rule 56.2(5) を適用することができる。

状況 56.2
A4 はパックを持ってアタッキング・ゾーンに入り、ショットを打とうとしたが、スティックが折れ、パックはニュートラル・ゾーンで 1 対 1 で氷上をスタートした B3 のプレーヤーに渡った。A4 は悔しさのあまりスティックの折れた部分をボードに投げつけた。スティックは跳ね返ってニュートラル・ゾーンの B3 に当たり、B3 はパックを失った。氷上での判定は？
答え
A4 にマイナー・ペナルティが科せられる。Rule 53.2；Rule 56.2(6)

状況 56.3
プレーヤーのペナルティが終了し、そのプレーヤーがペナルティ・ボックスから出ようとしたとき、ショットされたパックがペナルティボックスの前を通り過ぎた。そのプレーヤーはもう片方の足をペナルティボックスの中に残したまま氷上に出て、パックをプレーした。これは正当なプレーか？
答え
これは正当なプレーではない。このプレーヤーにはインターフェアランスとしてマイナー・ペナルティが科される。Rule 56.2(8)

状況 56.4
A チームはゴールキーパーを外し、エキストラアタッカーを入れた。B2 はブルーラインでのターンオーバーをし、無人のゴールに向かう。悔しさのあまり、氷上にいない A チームのプレーヤーが A チームのベンチ前の氷上にいる B10 のジャージを掴んだ。レフェリーはどうするか？
答え
B チームにゴールを与える。Rule 56.8

状況 56.5
氷上で乱闘している 2 人のプレーヤーに関与したプレーヤーズ・ベンチにいるプレーヤーにはどのようなペナルティが科されるか？
答え
プレーの中断中に、プレーヤーズ・ベンチのプレーヤーが氷上の相手プレーヤーに関与した場合、競技規則に従った適切なペナルティが科される。従って、この状況では、3 人目のプレーヤーとして介入したことに対するゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが適用されることも十分に考えられる。

拘束する妨害

状況 56.6

A チームのゴールキーパーがセービングをするためにゴールクリーズから突進する。その際、ゴールキーパーはキャッチンググローブを落とした。ゴールキーパーが直ちに負傷する危険が無く、かつ相手チームに即座、あるいは差し迫った得点のチャンスがある場合、プレーを止めなくてもよい。とはいえ、もし相手プレーヤーがゴールキーパーのグローブをコーナーにショットしたらどうなるのか？

答え

インターフェアランスによるマイナー・ペナルティを違反したプレーヤーに科す。Rule 56.2(5)

状況 56.7

プレーヤーズ・ベンチにいるプレーヤーがスティックを持ってボード越しに、通り過ぎたパックをプレーする。その後、そのプレーヤーはラインチェンジでボードを越えてきた。これは正当か？

答え

これは正当ではない。インターフェアランスによるマイナー・ペナルティが科される。Rule 56.2(7)；Rule 74.1

状況 56.8

ニュートラル・ゾーンにいるプレーヤーが、同じくニュートラル・ゾーンにいる相手のパックキャリアに向かってスティックの折れた部分をショットした。違反したプレーヤーにどのようなペナルティが科せられるか？

答え

Rule 56.2(6) に基づいて、インターフェアランスによるマイナー・ペナルティが科せられるべきである。これは Rule 53.2(1) でも扱われている。

状況 56.9

ディフェンスがブルーライン近くのディフェンディング・ゾーンでスティックを失った。ディフェンディング側のプレーヤーは自陣のゴールに向かってスケートしてディフェンスの役割を続けようとする（スティックがない）。アタッキング側のディフェンスプレーヤーがそのスティックをニュートラル・ゾーンにショットする。このプレーヤーにインターフェアランスのペナルティが与えられるべきか？

答え

レフェリーの意見では、アタッキング側のディフェンスプレーヤーは、スティックを失ったプレーヤーのスティックの回収を妨げるためにスティックを動かした場合にのみ罰せられるべきである。この場合、そのプレーヤーはスティックを動かしただけである。よってペナルティは科せられない。Rule 56.2

RULE 57　トリッピング

状況 57.1

A チームのプレーヤーがアタッキング側ブルーラインの内側から相手ゴールに向かってショットを放つ。B チームのディフェンスがこのショットをブロックし、パックは A チームのシューターを越えてニュートラル・ゾーンにディフレクトした。ショットをブロックした B チームのプレーヤーが、A チー

拘束する妨害

ムのプレーヤーを越えてブルーラインを越えニュートラル・ゾーンに入り、ルーズパックに到達したときにブレイクアウェイとなる。B チームのプレーヤーが背後からからトリッピングされ、レフェリーはペナルティ・ショットのために腕を上げる。ペナルティの合図から 1 秒後にピリオドは終了する。B チームのプレーヤーがトリッピングされなかったとしても、そのプレーヤーがゴールしようとパックを持って氷を滑る時間はなかっただろう。この事実を念頭に置いても、ペナルティ・ショットは与えられるか？

答え
いいえ。トリッピングによるマイナー・ペナルティが与えられるべきである。その根拠は、ピリオドの時間が経過しているため、そのプレーヤーは得点する合理的なチャンスを否定されたことはなく、したがってそのペナルティはペナルティ・ショットを与えるために必要なすべての基準を満たしていないということである。Rule 24.8(3)；Rule 57.2；Rule 57.5

状況 57.2

A13 が A チームのディフェンディング・ゾーンで B25 からパックを奪う。B25 はターンして A13 をトリッピングした。A13 はニュートラル・ゾーンにいて、ゴールに到達する前に追い抜く相手がいない。このトリッピングによって A13 は氷上に倒れパックを失った。判定は？

答え
ペナルティ・ショットを与える。Rule 24.8

状況 57.3

アタッキング・プレーヤーがブレイクアウェイ中に背後からペナルティを受け、レフェリーは腕を上げてペナルティ・ショットの合図を求められた。しかし、アタッキングチームの味方がパックを拾いゴールに向かって進み、得点する正当なチャンスを得た。このような状況でもペナルティ・ショットは宣告されるのか？

答え
Rule 24.8 は、この規則（ペナルティ・ショットを与える）の意図は、失われた妥当な得点の機会を回復することであると述べている。もし味方が妥当な得点の機会を得ることができたならば、ペナルティ・ショットは与えられないが、そのプレーでゴールが決まらなかった場合には適切なペナルティがシグナルされ与えられるべきである。

状況 57.4

A チームがアタッキング側ブルーラインの内側でショットを放とうとする。B チームのプレーヤーがこのショットをブロックし、パックはニュートラル・ゾーンにディフレクトした。B チームのプレーヤーはニュートラル・ゾーンにいる A チームのプレーヤーをスケートで通り過ぎようとする。B チームのプレーヤーがブレイクアウェイすることを理解した A チームのプレーヤーが B チームのプレーヤーをトリッピングする。レフェリーはディレイド・ペナルティ・ショットを宣告する。ディレイドの間、B チームのプレーヤーはブレイクアウェイを続ける。同じ A チームのプレーヤーが B チームのプレーヤーに追いつき、再び背後から相手にペナルティを犯し、合理的な得点の機会を奪う。レフェリーは何をすべきか？

拘束する妨害

答え

レフェリーは、失われた得点の機会を回復するために、ペナルティをされた B チームにペナルティ・ショットを与え、A チームのプレーヤーにトリッピングのペナルティを科す。このペナルティはペナルティ・ショットの成否にかかわらず与えなければならない。Rule 24.6

注：2 つの別々のペナルティ（ペナルティ・ショットが与えられることに関係する）とは、ペナルティ・ショットを科すに値する 2 つのことが起こったことを意味する。例えば、あるプレーヤーがブレイクアウェイで背後からペナルティを受け、その後ディフェンス側のプレーヤーがクリーズ内でパックを覆った場合である。これらはペナルティ・ショットの対象となる 2 つの別々のペナルティであるため、2 つのペナルティ・ショットが与えられる。しかし、上記の問題では、2 つの反則のうち 1 つだけがペナルティ・ショットになる。最初の違反は、プレーヤーがブレイクアウェイを続けることができるため、パックを持ったプレーヤーに得点する正当な機会を奪っていない（Rule 24.8）。従って最初のペナルティはマイナー・ペナルティとする。

SECTION 08

Stick Infractions



RULE 58 バット・エンディング

状況 58.1

あるプレーヤーがスティックのグリップ側を使って相手の動きを妨げた。どのようなペナルティを科すべきか？

答え

ホールディングまたはフッキングによるマイナー・ペナルティを科すべきである。Rule 54；Rule 55

状況 58.2

A23 と B16 は A チームのゾーン内でもつれ合い、互いに言い合っている。2 人が離れてそれぞれのベンチに向かうとき、A23 が B16 のみぞおちにバット・エンディングをしようとしたがヒットしなかった。レフェリーは他のペナルティがないか見ていて、この行為を見ていない。目撃しているのはラインズパーソンの 1 人だけである。この状況でラインズパーソンがどのようなペナルティを科すことができるか？

答え

相手プレーヤーをバット・エンドしようとした場合のペナルティは、ダブル・マイナー・ペナルティである（Rule 58.2）。しかし、ダブル・マイナー・ペナルティ（ハイスティッキングを除く）は 、ラインズパーソンが報告できるペナルティのリストにはない。例えば、この行為がスクラムで起こったとすれば、Rule 32.4 の冒頭の文が適切である。試合中に発生したいかなるできごとについても、レフェリーに報告しなければならない。レフェリーは、スクラムの後にどのようなペナルティを科すかを決定する際に、この情報を加味することができる。

RULE 59 クロスチェッキング

該当なし

RULE 60 ハイスティッキング

状況 60.1

A チームのエンドゾーンでのフェイスオフの後、A20 がパックを引き戻そうとし、その過程で B チームのセンター（B10）の顔面をスティックのエンドでヒットした。B10 はすぐに血だらけで氷に倒れ、プレーは中断された。両レフェリーとも何が起こったかを目撃していない。ラインズパーソンが何が起こったかをレフェリーに伝える。レフェリーの判定は？その後のフェイスオフはどこで行われるか？

答え

そのプレーを見たラインズパーソンと協議した結果、フェイスオフ中に両プレーヤーが前かがみになったために偶発的な接触であったと判断された場合、ペナルティは科されない。フェイスオフは A チームのゾーンの外側のニュートラル・ゾーンで行う。Rule 60.1；Rule 8.1

スティックでの妨害

状況 60.2

ブレイクアウェイを失敗したプレーヤーが苛立ちのあまりベンチに向かい、スティックをベンチの上に叩きつけて二つに折れさせ、シャフトとブレードがプレーに戻り、ニュートラル・ゾーンを突破してきた相手プレーヤーにぶつかり妨害となり、そのプレーヤーがパックを失う（または負傷する）原因となった。レフェリーはどうすべきか？ペナルティは科されるか？

答え

レフェリーが考慮できるルールはいくつかある。状況や結果を評価する際には、適切な判断と常識が優先されなければならないいくつかの考慮事項がある：

Rule 53.2 - インターフェアランスに対するマイナー・ペナルティ

Rule 53.7 - ペナルティ・ショット

Rule 53.8 - 認定ゴール

Rule 60.3 - ハイスティッキングに対するダブル・マイナー・ペナルティ

Rule 75.2 - アンスポーツマンライク・コンダクトに対するマイナー・ペナルティ

状況 60.3

アタッキングプレーヤーはスティックのブレードが明らかにクロスバーの上にくるようにスティックを運んでいる。パックがポイントからショットされ、このプレーヤーの腰の近くのスティックのシャフトに接触し、直接相手ゴールに入った。このゴールはハイスティックで接触されたとして取り消されるべきか？

答え

いいえ、これはゴール。決定要因はパックがスティックのどこに接触したかである。パックがクロスバーの高さより下でスティックと接触し、ゴールに入った場合、このゴールは認められる。Rule 80.3；Rule 37

状況 60.4

ラインズパーソンは A20 のスティックが B6 の顎に軽く当たるのを見た。ラインズパーソンは怪我を確認できず、ハイスティックはレフェリーに気づかれなかった。

答え

これは試合中に起こってコールされないトリッピングやフッキングと同じようにミスコールになる。

状況 60.5

ラインズパーソンは A20 のスティックが B6 の顔面に接触するのを見た。どちらのレフェリーも何の反応もなく、B6 が怪我を負ったことは確認できた。

答え

ラインズパーソンは直ちにプレーを中断し、A20 の犯した違反をレフェリーに伝え、適切なダブル・マイナー・ペナルティを科すべきである。Rule 32.4

状況 60.6

A32 は試合開始前にハイスティックで顔面を殴られ、右目の上をカットし、その結果 B56 にダブル・マイナー・ペナルティが科せられた。同じゲームの後半に、A32 は B61 から再び右目の上の顔面をハイスティックされ、傷口が再び開いた。どのようなペナルティが科されるか？

スティックでの妨害

答え
B61 にダブル・マイナー・ペナルティを科す。プレーヤーがスティックのいかなる部分を相手の肩より上に持ち運んだり持ったりして怪我を負わせた場合、ダブル・マイナー・ペナルティが科される。Rule 60.3

状況 60.7

あるプレーヤーがクロスチェックの動作で相手の顔面に接触させた。相手はカットした。接触は肩の上であったので、ハイスティッキングによるダブル・マイナー・ペナルティのみの判定になるか、クロスチェックの動作があったので、クロスチェッキングによるメジャー＋ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科すことができるか？

答え
ハイスティックの定義が肩より上の接触であっても、顔面への無謀なクロスチェックはクロスチェッキングとしてコールされることがある。このような場合、レフェリーはハイスティックによるダブル・マイナーか、クロスチェッキングによるメジャー＋ゲーム・ミスコンダクトのどちらかを選択することができる。Rule 59；Rule 60

状況 60.8

あるプレーヤーがワインドアップしてショットを放ち、フォロースルー中にスティックが相手の顔面に接触して怪我を負わせた。どのようなペナルティが科せられるか？

答え
これが通常のショット動作のワインドアップまたはフォロースルーであった場合はペナルティは科せられない。Rule 60.1

状況 60.9

B チームがゴールを決めた直後、A2 が苛立ちからパックを放とうとワインドアップした。このワインドアップにより、ブレードが B4 の顔面を直撃し、あごに明らかな怪我を負った。どのような処置をとるべきか？

答え
Rule 60.1 には「..... プレーヤーは、その行為が通常のワインドアップまたはショット動作のフォロースルーとして行われたものであれば、相手に対する偶発的な接触を許される.....」とある。上記の行為は通常のショットやパスではないので、ダブルマイナー・ペナルティが A2 に科すべき適切なペナルティである。Rule 60.3

状況 60.10

あるプレーヤーがショットを打とうとしたが、パックがファンブルしミスショットでパックを外し、フォロースルーが顔面に当たり怪我をした。どのような判定が下されるか？

答え
ノーペナルティ。これは通常のショット動作のワインドアップまたはフォロースルーである。Rule 60.1

スティックでの妨害

状況 60.11

プレーヤーが相手のエラースティックによって顔面を殴られる。レフェリーはディレイド・ペナルティをシグナルする。その間、ホイッスルが吹かれる前に、被害を受けたプレーヤーはベンチに戻り、チームメイトと交代する。そのプレーヤーが氷上から離れたが、レフェリーはそのプレーヤーに近づき、顔面の怪我の程度（もしあれば）を確認することができるか？

答え

もしレフェリーが、そのプレーヤーがベンチエリアから離れず、ハイスティックによる負傷の有無を素早く判断できると確信したならば、レフェリーはベンチにいるプレーヤーに近づくべきである。Rule 60.3

状況 60.12

レフェリーはハイスティックによるペナルティをコールする。プレー終了後、レフェリーはプレーヤーに怪我がないか確認し、あごに切り傷があることを確認する。レフェリーはハイスティッキングによるダブル・マイナー・ペナルティを選択する。ペナルティを科されたチームのコーチは、レフェリーにビデオでプレーを確認することを望んでいる。レフェリーはそうする義務があるか？

答え

いいえ。レフェリーは、ビデオでプレーを確認する義務はないが、怪我の原因が相手のスティックなのかパックなのか（またはその他のできごとなのか）疑問がある場合は、ビデオで確認するのが最善であろう。Rule 60

状況 60.13

A チームのプレーヤーがコーナーでパックをかき出そうと前傾姿勢をとっている。B チームのプレーヤーがそのプレーヤーのスティックを浮かせようと試みたが、スティックが空振りし、相手の顔面に当たってしまった。A チームのプレーヤーが前傾姿勢をとっていたため、B チームのプレーヤーのスティックが相手の顔面に接触した際、その高さは腰の位置よりわずかに高い程度であった。これはペナルティになるか？

答え

はい、これはハイスティッキングによるマイナー・ペナルティ（またはダブル・マイナー・ペナルティ）である。ここでのポイントは、相手プレーヤーのスティックが、被接触選手の腰の高さ、あるいはそれより高い位置で、相手プレーヤーの首、顔、または頭部に当たったという点である。

RULE 61　　スラッシング

状況 61.1

A16 がニュートラル・ゾーンでのブレイクアウェイ。B チームのゴールキーパーは追加のアタッカーためにいない。A16 は背後からペナルティを受け認定ゴールになる。レフェリーがホイッスルを吹いてプレーを中断し A チームにゴールを与える前に、 A16 はペナルティを犯した B チームのプレーヤーを背後からスラッシングした。レフェリーはどのような処置をとるべきか？

スティックでの妨害

答え
ゴールは A チームに与えられる。 A16 へのスラッシングは通常の方法で科される。Rule 25.1；Rule 61.2

状況 61.2
赤チームのプレーヤーが黄色チームのパックキャリアを追いかけている。赤のプレーヤーがスティックを伸ばし、相手のスティックの下側の手の上を叩いた。これはスラッシングとして罰せられるべきか？
答え
はい。ディフェンディング・プレーヤーが相手側プレーヤーの下側の手またはそれよりも上にあるスティックまたは手を叩くことはスラッシングとしてペナルティが科される。Rule 61.1

RULE 62　　スピアリング

該当なし

SECTION 09

Other Infractions



その他の妨害

RULE 63　　ディレイング・ザ・ゲーム

状況 63.1

ゴールキーパーがショットの角度を削るためにゴールクリーズ（3 メートル）から大きく出てくる。ショットが打たれ、ゴールキーパーがそれをキャッチし、味方にプレーさせるかのようにすぐにパックを真正面のスティックの上に落とす。その後、ゴールキーパーはその方向に攻撃側の選手が迫っていることに気づき、パックの上に倒れ込み、パックをフリーズしプレーを停止させる。これはディレイ・オブ・ゲームとしてゴールキーパーにペナルティを科すべか？

答え

はい。パックのフリーズはセービングの直接の結果ではないので、ゴールキーパーはディレイ・オブ・ゲームとして罰せられるべきである。Rule 63.2(1) と (6) による。

状況 63.2

レフェリーによって A44 にマイナー・ペナルティが宣告される。ディフェンディング・ゾーンにいた味方の A16 がパックをキープしてコントロールし、ディレイド・ペナルティのホイッスルが吹かれると同時に、そのプレーヤーがパックをショットしガラスを越えて観客席にパックが飛び込んだ。レフェリーはこの状況をどのように扱うか？

答え

A チームがパックをキープしコントロールした時点でプレーを中断するホイッスルが吹かれるので、A16 がガラスを越えて観客の中にパックをショットしても追加のペナルティは科せられない。Rule 15.1

状況 63.3

ディフェンディング・ゾーンでディフェンス側のプレーヤーが放ったショット（ディフレクションなし）がガラスを完全に越えてペナルティ・ベンチに入った場合、どのような状況ならペナルティが科せられないか？

答え

ガラスがリンク周辺の通常の高さよりも低いペナルティ・ベンチの地点でパックがガラスを越えた場合、ペナルティは科せられない。Rule 63.2(3)

状況 63.4

アタッキング・ゾーンにおいてアタッキング側に対してディレイド・ペナルティのシグナルが出される。ディフェンディング・プレーヤーがパックをガラスの上にショットした。続くフェイスオフはどこであるか？

答え

続くフェイスオフは、パックをショットしたチームのディフェンディング・ゾーンで行われる。ディフェンディング・チームにはディレイ・オブ・ゲームのペナルティが科される。Rule 85.1 ; Rule 63.2(3)

その他の妨害

状況 63.5

ディフェンディング・ゾーンのプレーヤーがパックを空中に高くフリップし、掲示板にぶつかった。これはディレイ・オブ・ゲームのペナルティか？

答え

いいえ。ディフェンディング・ゾーンからのアウト・オブ・バウンズのショットに関するルールは「ガラスを越えて」パックをショットすることに言及している。Rule 63.2(3)；Rule 85.1

状況 63.6

A チームのディフェンディング・ゾーンでラインズパーソンがフェイスオフのためにパックをドロップしたとき、A チームのセンターが明らかにフェイスオフを制したものの、その際にパックを直接ガラスの上に出させ、ディフェンディング・ゾーンからプレーエリア外に出した。このプレーに関する裁定は？

答え

パックはフェイスオフの直接の結果としてプレーエリア外に出たのでペナルティはない。Rule 85.1；Rule 63.2(3)

状況 63.7

第 3 ピリオド残り 2 分 3 秒、A チームは B チームのエンドゾーンにパックを放った。パックがエンドゾーンにあるとき 、B チームのディフェンスが故意にゴールを正常な位置からずらした。第 3 ピリオド残り 1 分 59 秒にプレーが中断されるまで、パックはどのプレーヤーも触れていない。レフェリーはペナルティ・ショットを与えようとするが、B チームは残り 2 分 3 秒にゴールが外れたのだから、ペナルティ・ショットではなく、マイナー・ペナルティーを与えるべきだと主張している。レフェリーの判断はどのようなものか？

答え

故意にゴールポストを正常な位置からずらすことによって試合を遅らせたプレーヤーには、マイナー・ペナルティを科す。違反したチームがパックのコントロールを得たとき、レフェリーは直ちにプレーを中断しなければならない。Rule 63.2(4)。マイナー・ペナルティは完全に遂行することができないため、ペナルティ・ショットを与える。Rule 63.6

状況 63.8

A チームにディレイド・ペナルティが宣告されている。A チームのゴールキーパーがゴールクリーズを離れ、制限区域内でパックをプレーしてプレーの中断を得た。ゴールキーパーは制限区域内でパックをプレーしたことで罰せられるのか？

答え

はい。ゴールキーパーは、A チームに対する本来のペナルティに加えて、制限区域内で不正にパックをプレーしたことによるディレイ・オブ・ゲームのペナルティを科せられる。Rule 27.8；Rule 63.2(8)

状況 63.9

A チームにディレイド・ペナルティが宣告されている。B チームが A チームのエンドゾーンにパックをショットし、A チームのゴールキーパーがクリーズから出てきてグローブでパックを押さえた。この

その他の妨害

場合、A チームには元のペナルティに加えてディレイ・オブ・ゲームのペナルティが科せられるか？

答え
このようなことはめったに起こらないが、Rule 63.2(6) は、プレーを止めるためにクリーズを出てパックをカバーしたゴールキーパーにマイナー・ペナルティを科すと規定している。したがってこのルールは、ゴールキーパーがこのように合法的にパックをコントロールすることはできず、プレーを早急に止めさせたことに対して罰せられなければならないと定めている。もしゴールキーパーが単にスティックやスケートでパックをコントロールしていたならば、本来のペナルティのホイッスルが吹かれ、そのペナルティのみが科されることになる。しかし、このプレーは不正に止められたので、ゴールキーパーにもペナルティを与えなければならない。

状況 63.10

第 3 ピリオド残り 2 分を切ったとき、ディフェンディング・ゾーンにいるディフェンディング・プレーヤーが故意にゴールを押して動かした。適切な判定は？

答え
攻撃側にペナルティ・ショットを与える。Rule 63.6、第 1 段落

状況 63.11

第 3 ピリオド残り 3 分、レフェリーは B3 に対してスラッシングによるディレイド・ペナルティを宣告した。プレーが中断される前に、B3 は故意に自陣のゴールを動かした。レフェリーはどうするか？

答え
B3 に対するペナルティは上記の順序で行われたので、自チームのゴールを故意にずらしたことに対するマイナー・ペナルティは、その試合の通常のプレー時間内に全部を遂行することはできない。したがって、このプレーヤーにはスラッシングのマイナー・ペナルティが科せられ、A チームにはペナルティ・ショットが与えられる。Rule 63.6

状況 63.12

第 3 ピリオドの最後の 2 分間、延長戦、またはペナルティが完全に遂行するのに十分な時間がない、どのような状況でディレイ・オブ・ゲームによるペナルティ・ショットが与えられるのか？

答え
2 つの場合がある。1 つ目は故意に自陣のゴールをずらした場合。Rule 63.6。2 つ目は故意に不正な選手交代を行うこと。Rule 74.4

状況 63.13

第 3 ピリオド残り 3 分の時点で A8 がマイナー・ペナルティを科せられた。第 3 ピリオド残り 2 分 30 秒、レフェリーは A18 に対するトリッピングのディレイド・マイナー・ペナルティを宣告する。A チームがホイッスルのためにパックに触れる前に、別の A チームのプレーヤー（A28）が B チームの得点チャンスを避けるために故意に自陣のゴールをずらした。レフェリーはこのプレーをどのように評価するか？

答え
A18 にはトリッピングのマイナー・ペナルティが科せられる。A28 のペナルティは、他のペナルティのために正規のプレー時間内に完了できないので、レフェリーは B チームにペナルティ・ショットを与える。Rule 63.6

その他の妨害

状況 63.14

レフェリーはアタッキングチームにディレイド・マイナー・ペナルティを宣告した。クリーズエリアでのスクラムの最中 、レフェリーはディフェンディング・プレーヤーが手でパックを覆い、パックをクリーズからスイープするのを見た。レフェリーはペナルティ・ショットを与えるか？

答え

はい、ペナルティ・ショットが与えられる。Rule 63.6；Rule 67.4

状況 63.15

A チームのゴールキーパーがシュートの角度を削るためにゴールクリーズから出ている。ゴールキーパーがゴールを守るために戻る時間がないうちに、B チームは多くのシュートでプレッシャーをかけ、A チームのディフェンス A7 がゴールクリーズに立ってシュートをブロックしている。シュートの 1 つが A7 に当たり、パックは膝の高さまで宙に浮く。B チームの攻撃陣がパックをネットに入れようとクリーズを攻め始める。彼らがチャンスを得る前に、A7 がパックをキャッチし、攻撃側を避けるようにターンしてパックをスティックに落とし、ディフェンディング・ゾーンの外にショットした。これは正当なプレーか？レフェリーはどのような処置をとるべきか？

答え

正当なプレーではない。レフェリーはすぐにプレーを中断し、B チームにペナルティ・ショットを与える。Rule 63.6；Rule 67.4

状況 63.16

A チームが 2 対 1 で攻撃しているときに、バックチェックをしていたもう一人の B チームのプレーヤーがパスを止めようと飛び込んだ。その飛び込んだプレーヤーはパックを取り損ね、ゴールに滑り込み、偶発的にゴールをずらした。ゴールがずれた直後、パックがゴールラインを越え、ゴールがあったはずのペグの間に入った。これはゴールか？

答え

はい、これはゴールである。Rule 63.7「パックが通常のゴールポストの間のゴールラインを横切る前に、ディフェンディング・プレーヤーまたはゴールキーパーによって故意または偶発的にゴールポストがずらされた場合、レフェリーはゴールを与えることができる。

状況 63.17

アタッキング・プレーヤーがパックをゴールに入れようとした瞬間に、ディフェンディング・プレーヤーがゴールを前に倒した。このゴールはカウントされるか？

答え

ここには 2 つの要素がある。ゴールペグがそのままの位置にあり、パックがゴールに入った場合、ゴールはカウントされる。ゴールが傾いて、その結果ショットされたパックがゴールに入らなかった場合、レフェリーの見解では、ゴールが正常な位置にあれば入ったと思われる場合、レフェリーはゴールを与えることができる。Rule 78.4；Rule 63.7

その他の妨害

状況 63.18

ゴールキーパーは氷上にいるが、ゴールクリーズから離れている。相手プレーヤーがパックをコントロールし 、オープンネットに向かってショットする。パックがオープンネットに入ろうとしたとき、ディフェンディング・プレーヤーがゴールを動かした。レフェリーの判定は？

答え

レフェリーは、オープンネットに向かってパックをショットしたチームにゴールを与える。Rule 63.7

状況 63.19

ディフェンディング・プレーヤーが、アタッキング・プレーヤーに向かってスケーティングしているとき、ショットまたはパスをブロックするために、通り過ぎようとするパックを蹴ってそのままガラスを越えて外に出た。ディレイ・オブ・ゲームのペナルティは適用されるか？

答え

ペナルティである。

状況 63.20

自陣のゴールポストを故意にずらしたプレーヤーには、どのようなペナルティが科されるか？このペナルティは、その試合の正規のプレー時間内に全てを遂行することができない、または延長戦である。

答え

アタッキングチームに対してペナルティ・ショットが与えられる。Rule 63.6

状況 63.21

アタッキング・プレーヤーが誤ってゴールを動かした。ディフェンディング・チームはパックをコントロールしていて自ゾーンを出ようとしている。ゴールが動いたためにプレーを中断しなければならないか？

答え

いいえ。アタッキング側でないチームがパックのコントロールを失うまでプレーを続行する。その結果生じるフェイスオフは、プレーが中断された場所に最も近いゾーンのフェイスオフスポットで行われる。ただし、それが違反をしなかったチームのディフェンディング・ゾーンにある場合は、その後のフェイスオフは、ブルーラインの外側のニュートラル・ゾーンのフェイスオフスポットで行われる。Rule 63.4

状況 63.22

Aチームが 2 対 1 の状況で攻撃している。A26 が、Bチームのゴール前へ向かう A23 へふわりとしたパスを出し、A23 がシュートを放とうとしている。ポジションを外していた B4 が、パスを阻止しようと飛び込んだが届かず、その勢いのままゴールポストに激突した。これにより、ゴールネットが固定具から完全に外れてしまった。以下の各ケースにおけるレフェリーの判定は？

a) A23 がシュートを放ちパックがゴールに入ったが、シュートを放つ直前にすでにゴールネットが外れていた。なお、A23 はシュート動作に入っていた。

b) ポジションを外していた B4 がゴールに激突してネットが外れた際、A23 はまだスティックでパックを保持していた。

その他の妨害

答え
a) A23 に得点のチャンスが迫っていたと判断すれば、A23 にゴールを与えてもよい。パックが正当にゴールラインを越えたかどうか疑わしい場合、レフェリーはビデオレビューコンサルタントを使って判定を助けることができる。Rule 63.7
注意: もし B4 が無礼な態度をとるならば、アンスポーツマンライク・コンダクトのマイナー・ペナルティを科すべきである。
b) もし B4 のプレーが偶発的なものであり（その可能性は極めて低い）、A23 にゴールが外れる前に得点のチャンスが迫っていなかったと判断した場合には、その氷上ではノーゴール、ノーペナルティが宣告される。B4 の故意によるプレーで、A23 に得点のチャンスが迫っていなかったと判断された場合、Rule 63.2(4) のディレイ・オブ・ゲームによるマイナー・ペナルティを科すことができる。

状況 63.23
ニュートラル・ゾーンに両足で立っている A チームのプレーヤーが、スティックでディフェンディング・ゾーンにあるパックをガラスの上にショットした。これはディレイ・オブ・ゲームのペナルティか？
答え
はい。ルールでは「判断の基準となるのは、違反したプレーヤーがパックをシュートまたは打った時点での、そのパックの位置である。パックがディフェンディング・ゾーン内にある状態でプレーヤーがパックに接触し、その後パックがアウト・オブ・バウンズになった場合、マイナーペナルティが科される。」と記載されている。Rule63.2(3)

状況 63.24
ディフェンディング・ゾーンにいるディフェンディング・プレーヤーがパックをガラスの外に高く放ちクリアしようとした。パックはガラスを越えてプレーエリア外に出たが、パックはプレーヤーズ・ベンチに着地した。この場合でもディレイ・オブ・ゲームのペナルティになるのか？
答え
はい。ディレイ・オブ・ゲームのペナルティを科すかどうかを判断する際の決定的な要素は、パックがプレーエリアの外に出る場所である。ガラスの上端から天井に向かって仮想の面を想定した場合、パックがプレーエリア外へ出る際にその面を通過すれば、最終的にパックがどこに止まったかに関係なく、マイナーペナルティが科される。なお、パックがプレーヤーズ・ペンチ（ガラスのない）に直接打ち込まれた場合は、ペナルティは科されない Rule63.2(3)

状況 63.25
A チームがパックをガラスの上にショットしプレーエリア外に出した。このショットはディフェンディング・ブルーラインのわずか数センチメートル越えたところであった。続くフェイスオフはどこか？
答え
規則では、フェイスオフの場所は、違反を犯したチームに最もテリトリアルアドバンテージを与えない最も近い場所でなければならないとされているにもかかわらず、ニュートラル・ゾーンでストップが発生した場合には、フェイスオフはニュートラル・ゾーンで行われなければならないともされている。Rule 76.2；Rule 85.1。常識的に考えれば、違反を犯したチームにわずかなのテリトリアルアドバンテージを与えることになるとしても、フェイスオフはブルーラインの外側のスポットで行われるべき

である。この具体的な答えはルールブックには載っていない。

状況 63.26

A チームのゴールが外れ、A チームがパックをコントロールしている。それぞれの状況でホイッスルはいつ吹かれるか？

a. B チームがゴールを動かした場合

b. A チームがゴールを動かした場合

c. A チームがゴールを動かしたが、A チームがニュートラル・ゾーンに入るまでレフェリーが気づかなかった場合

d. A チームがゴールを動かしたが、A チームがアタッキング・ゾーンに入るまでレフェリーが気づかなかった場合

答え

a. A チームがパックのコントロールを失ったとき。Rule 63.4

b. A チームがパックのコントロールを直ちに得たので、ホイッスルが吹かれ、ディフェンディング・ゾーンでのフェイスオフ。Rule 63.4

c. ディフェンス側ブルーラインの外側でのフェイスオフ。Rule 63.4

d. 攻撃側ブルーラインの外側のニュートラルゾーンでのフェイスオフ。Rule 63.4

状況 63.27

青チームのディフェンス側のプレーヤーが自陣のゴールクリーズに立ってパックをキャッチし（クロスバーの上方で）、相手プレーヤーを避けるためにターンして、ゴールの後方のボードに向かってパックを投げた。ペナルティ・ショットは与えられるべきか？

答え

いいえ、与えられない。パックをキャッチして投げたとき、パックはクロスバーの上にあったので、クリーズ内にあるとは見なされない。したがって、このプレーに対してはマイナー・ペナルティだけが科される。Rule 63.2；Rule 63.6

状況 63.28

ディフェンスがディフェンディング・ゾーンからパックをクリアしようとした時にスティックが折れた。そのプレーヤーはスティックを放したが、相手プレーヤーが迫ってきて氷上にパックがあるので、グローブでパックをすくい上げ、パックをプレーヤーズ・ベンチ後方のガラスの上に放り投げた。判定は？

答え

ディレイ・オブ・ゲームのマイナー・ペナルティ。これは、手でパックをショットまたは叩く行為によってパックがプレーエリア外に出たとみなされる。Rule 63.2(3)

状況 63.29

ゴールキーパーがショットをスティックでセーブする。セービングが行われたときゴールキーパーは一方のポストからもう一方のポストに向かって動いており、パックがスティックからガラスの上に飛び出した。ゴールキーパーにディレイ・オブ・ゲームのペナルティを科すべきか？

その他の妨害

答え
ゴールキーパーは単にセーブをしていただけで、パックをガラスの上に「ショットした」のではない。Rule 63.2 は故意について述べており、このセーブがこの基準に当てはまるとは考えられない。

状況 63.30
ディフェンディング・ゾーンにいるディフェンスがパックをショットした。パックが宙を舞ったとき、ピリオド終了のブザーが鳴った。パックはガラスを越えてプレーエリア外に出た。このディフェンディング・プレーヤーにディレイ・オブ・ゲームのマイナー・ペナルティが科せられるか？
答え
時間切れ前にパックがプレーエリア（ガラスの上）から出たことが明らかな場合、ペナルティが科される。そうでなければペナルティはない。Rule 63.2

状況 63.31
ブレイクアウェイ中のプレーヤーがニュートラル・ゾーンの自陣のブルーライン上にいる。そのプレーヤーがアタッキング・ゾーンに入ったとき 、ゴールキーパーが故意にゴールを動かした。この場合の判定は?
答え
プレーを中断し、ペナルティをしなかったチームにゴールを与える。Rule 63.7

状況 63.32
ディフェンディング・チームが誤ってゴールを動かし、プレーが中断する。次に何が起こるか？
答え
ディフェンディング・チームはいかなるプレーヤーの交代も許されない（エキストラアタッカーと交代したゴールキーパーと交代する場合、負傷したプレーヤーと交代する場合、またはどちらかのチームの氷上人数に影響するペナルティが科せられた場合を除く）。ディフェンディング・ゾーンでのその後のフェイスオフについては、アタッキングチームがどちらのエンドゾーンのドットでフェイスオフを行うかを選択できる。Rule 63.8

状況 63.33
アタッキング・チームがレッドラインの自陣側からアタッキング・ゾーンにパックをショットする。ゴールキーパーがパックをフリーズさせ、プレーが中断した。次に何が起こるか？
答え
ディフェンディング・チームはいかなるプレーヤーの交代も許されない（エキストラアタッカーと交代したゴールキーパーと交代する場合、負傷したプレーヤーと交代する場合、またはどちらかのチームの氷上人数に影響するペナルティが科せられた場合を除く）。ディフェンディング・ゾーンでのその後のフェイスオフについては、アタッキング・チームがどちらのエンドゾーンのドットでフェイスオフを行うかを選択できる。Rule 63.8

その他の妨害

状況 63.34
自ゾーンにいるディフェンディング・プレーヤーがパックをキックし、それがガラスを越えてプレーエリア外に出た。ディレイ・オブ・ゲームのペナルティは適用されるか？
答え
はい。ペナルティを科す。

状況 63.35
アタッキング・プレーヤーがブレイクアウェイでゴールキーパーに押し込まれゴールが動いた。この接触に関連してパックがゴールラインを越えた。ゴールは宣告されるべきか？
答え
はい。ディフェンディング・プレーヤーが接触を引き起こしたため、ゴールを与えるべきである。Rule 63.7

状況 63.36
アタッキング・プレーヤーがブレイクアウェイでゴールキーパーに押し込まれゴールが動いた。ゴールキーパーとの接触とゴールのずれの直後、味方がパックをゴールに押し込んだ。ゴールは与えられるべきか？
答え
ノーゴールである。ゴールがずれたとき、味方は得点のチャンスが迫っていなかったので、ゴールは認められない。Rule 63.7

RULE 64　ダイビング／エンベリッシュメント

状況 64.1
A17 は頭を後ろに倒してハイスティックの反則を取ろうとした。あなたの判断では、スティックは顔面には近づいていない。あなたは腕を上げ、A17 に Rule 64 に基づくペナルティを科す。このペナルティはどのように宣告されるべきか？
a. 「A17、アンスポーツマンライク・コンダクトによるマイナー・ペナルティ」
b. 「A17、アンスポーツマンライク・コンダクト（ダイビング）によるマイナー・ペナルティ」
c.「A17、ダイビングによるマイナー・ペナルティ」
d. 「A17、エンベリッシュメントによるマイナー・ペナルティ」
e. 「A17、ダイビング/エンベリッシュメントによるマイナー・ペナルティ」
答え
「d」。これが行為に関する最も適切な記述である。注：このルールが作られた当時は、「アンスポーツマンライク・コンダクト」のサブセクションであった。現在では、それ自体が一つのルールとなっている。そのため、ダイビングやエンベリッシュメントについて言及する場合、「アンスポーツマンライク・コンダクト」という言葉はもはや口にすべきではない。

その他の妨害

状況 64.2

ブレイクアウェイ中のプレーヤーが背後からフッキングされたが、レフェリーの判定を確実にするために転倒を誇示し、明らかに大げさに倒れ込みレフェリーにペナルティをコールさせようと演技した。もしレフェリーとして、そのプレーヤーがペナルティを誇張したと考えた場合、どのような処置をとるべきか？

答え

そのプレーヤーが転倒を大げさに演じたという事実は、そのプレーヤーが「得点するための合理的なチャンスを否定された」という事実を否定すべきである。従って、元のフッキングにはマイナー・ペナルティが科され、フッキングを大げさに演じたプレーヤーにはダイビングのマイナー・ペナルティが科されるべきである。Rule 55；Rule 64

RULE 65　用具

状況 65.1

プレーが中断したとき、ゴールキーパーが用具の修理を受けるためにプレーヤーズ・ベンチに進む。バックアップは直ちにゲームに参加しなければならないか？

答え

はい。レフェリーは裁量権を行使できるが、修理によって不必要な遅延が発生してはならない。修理に時間を要する場合、レフェリーはチームにゴールキーパーを交代させることができる。

RULE 66　没収試合

該当なし

RULE 67　ハンドリング・ザ・パック

状況 67.1

ディフェンディング・ゾーンにいる A34 は、ニュートラル・ゾーンでスティックでパックをプレーしている味方に手でパックを渡したが、両者のスケートは明らかにまだディフェンディング・ゾーンにある。ハンドパスのためにプレーを中断しなければならないのか？

答え

はい。ハンドパスのためにプレーを中断しなければならない。決定要因はパックの位置であり、この場合はニュートラル・ゾーンである。Rule 79.2

状況 67.2

ゴールキーパーが氷上からパックを拾い上げ、ブロッカーハンドでサークルトップ付近にいる味方の右側に投げた。これはペナルティと見なされるのか、それともこのプレーを続けることが許されるのか？

その他の妨害

答え
これはパックをハンドリングしたゴールキーパーに対するマイナー・ペナルティと見なされる。Rule 67.3(3)

状況 67.3
レフェリーはアタッキングチームにディレイド・マイナー・ペナルティを宣告した。クリーズエリアでのスクラムの最中、レフェリーはディフェンディング・プレーヤーが手でパックを覆い、パックをクリーズエリアの外に出すのを見た。レフェリーはペナルティ・ショットを与えるか？
答え
はい、ペナルティ・ショットが与えられる。Rule 63.6；Rule 67.4

状況 67.4
A チームのゴールキーパーは、ショットの角度を削るためにゴールクリーズから出ている。ゴールキーパーがゴールを守るために戻る間もなく、A7 がゴールクリーズに立ってショットをブロックしている間に、B チームが多くのシュートでプレッシャーをかけてくる。ショットの 1 つが A7 に当たり、パックは膝の高さまで宙に浮く。B チームの攻撃陣がパックをネットに入れようとクリーズを攻め始める。彼らがチャンスを得る前に、A7 がパックをキャッチし、アタッキング・プレーヤーを避けるようにターンしてパックをスティックに落とし、ディフェンディング・ゾーンの外にシュートした。これは正当なプレーか？レフェリーはどのような処置をとるべきか？
答え
正当なプレーではない。レフェリーはすぐにプレーを中断し、B チームにペナルティ・ショットを与える。Rule 63.6；Rule 67.4

状況 67.5
エキストラアタッカーのために交代しようとしているゴールキーパーが、ゴールキーパースティックをゴール前の氷上に置いたままにしている。ゴールキーパーが氷を離れようとしたが、正当に交代する前に、パックが打たれスティックに当たり、ゴールに入らなかった。どのような判定が下されるか？
答え
ゴールキーパーはまだ氷上にいるので、ゴールを与えることはできず、マイナー・ペナルティを科すだけである。Rule 67.3(5)；Rule 67.5

状況 67.6
A チームはエキストラアタッカーのためにゴールキーパーを交代させた。B チームのウィングが空いたゴールに向かってパックをショットしたとき、A チームのディフェンスはクリーズに立っていた。A チームのディフェンスは宙に浮いたパック（腰の高さくらい）を掴んでクリーズの外に落とした。レフェリーの判定は？
答え
B チームに認定ゴールが与えられる。Rule 67.5

その他の妨害

状況 67.7

ゴールキーパーがエキストラアタッカーと交代するためにプレーヤーズ・ベンチに向かう途中、スティックをフェイスオフサークルの間のハッシュマーク付近のゴール前の氷上に残した。ゴールキーパーが氷上から離れたので、相手チームはパックをコントロールし、空のゴールに向かってショットする。パックは氷上に横たわっているゴールキーパーのスティックに当たらず、ショットされたパックはエンプティネットをわずかに外れたが、レフェリーはプレーを中断しゴールを与えるべきか？

答え

レフェリーの見解において、パックがゴールに入るのを防ぐためにスティックが置かれたのであれば、レフェリーはこの状況でゴールを与える、そうでなければ、マイナー・ペナルティを科す。Rule 67.5

状況 67.8

A チームはパワープレー中である。パックは氷上にクリアされ、A チームのゴールキーパーまで進んだ。B チームはラインチェンジの最中でプレッシャーをかけていない。A チームのゴールキーパーは明らかにプレーを止めようとしてパックを押さえた。レフェリーはホイッスルを吹き、ゴールキーパーにディレイ・オブ・ゲームのマイナー・ペナルティを科す。ゴールキーパーはすぐにレフェリーに、主な問題はパッドの紐がほどけていたことで、それを直すためにプレーを止めたかったのだと説明する。レフェリー間で協議をした結果、レフェリーはこのペナルティを取り消すことを決め、その後のフェイスオフは A チーム A のエンドゾーンで行われ、A チームのパワープレーのままプレーが再開された。これはこの状況を処理する正しい方法なのか？

答え

いいえ。ディレイ・オブ・ゲームによるマイナー・ペナルティが科されるべきであった。ほどけていたパッドストラップは、ペナルティの評価に関して考慮することはできない。Rule 67.3(2) は、「ディレイ・オブ・ゲームのペナルティは、レフェリーの見解において不必要なプレーの停止を引き起こすような方法で故意にパックを保持したゴールキーパーに科される 」と述べている。

状況 67.9

ディフェンディング・プレーヤーが自陣のゴールクリーズに横たわっている。パックはクリーズの外側にある。そのプレーヤーはパックを持ったり掴んだりして、クリーズの内側にある身体に引き寄せた。適切な判定は？

答え

ペナルティが行われたときパックはクリーズ外にあったのだから、ディレイ・オブ・ゲームによるマイナー・ペナルティを科すべきである。

状況 67.10

ディフェンディング・プレーヤーが自陣のゴールクリーズの外に横たわっている。そのプレーヤーはクリース内にあるパックを掴み、クリーズの外へと引き寄せて自分の体の下に抱え込んだ。適切な判定は？

答え

ペナルティが行われたとき、パックはクリーズ内にあるので、ペナルティ・ショットが与えられるべきである。ただし、プレーヤーが手でパックをつかんだり覆ったりしない限り、パックをクリーズの外に

その他の妨害

出しても罰せられることはない。

状況 67.11

A チームがゴールキーパーを引き揚げた。B チームがオープンネットを狙ってショットを放つ。そのショットはクリーズ内にいる A チームのディフェンスの胸に当たり、パックはディフェンスの足元に落ちる。そのプレーヤーはパックの上に膝をついた。そのプレーヤーはパックを集めるために手や腕を使ってはいないが、レフェリーがプレーを止めたときパックは足下にあった。判定は？

答え

ゴールが認められる。プレーヤーがパックをカバーするために手や腕を使用していないことは無関係である。Rule 67.5

状況 67.12

ゴール前の激しい動きの中で、A チームのディフェンスが、パックを獲りに倒れこんでいるゴールキーパーの後方のクリーズに立っていた。ショットが撃たれ、そのディフェンスはパックを手でキャッチした。そのプレーヤーはパックをコーナーに投げた。レフェリーの判定は？

答え

プレーの進行中にゴールキーパーを除くディフェンス側のプレーヤーがパックの上に倒れこんだり、パックを持ったり、パックを拾い上げたり、ゴールクリーズエリアの氷上からパックを体や手に集めたりした場合、そのプレーは直ちに止められ、ペナルティ・ショットが与えられる。Rule 67.4

状況 67.13

A6 に対してマイナー・ペナルティのシグナルが出される。他の A チームプレーヤー（A23）が、氷上にあるパックを相手のプレーから隠すか防ぐために、パックの上に手を置いた。A23 は直ちに Rule 67.2(2) に基づくマイナー・ペナルティを科せられ、5 対 3 になるのか、それともこれはパックをプレーしているプレーヤーがコントロールをした結果、ホイッスルが吹かれ、本来のマイナー・ペナルティのみが科される状況なのか？

答え

状況 63.2 との整合性を保つために、A23 がパックを所有しコントロールした時点で、ディレイド・ペナルティのホイッスルが吹かれる。追加罰は科せられない。Rule 15.1

状況 67.14

ゴールキーパーが氷上にいる状態で、ディフェンディング・プレーヤーが自陣のゴール・クリーズの内側に立っている。ゴールに向かって放たれたパックが空中に跳ね上がった際、そのプレーヤーはクロスバーより高い位置でパックを手でつかみ、ゴール裏へと投げ捨てた。この場合、ペナルティ・ショットが与えられるべきか？

答え

いいえ。クロージング・ザ・ハンド・オン・ザ・パックに対しては、マイナー・ペナルティが科されるべきである。ゴール・クリーズの高さはクロスバーまでとされている。Rule 1.7；Rule 67.2

RULE 68　不正な交代

その他の妨害

状況 68.1

あるプレーヤーが同時のペナルティを受け、そのペナルティはペナルティタイムクロックには表示されない。ペナルティをしたプレーヤーは負傷し、ドレッシングルームに戻る。ペナルティタイムの終了後、その終了後のプレーの中断前に、そのプレーヤーはベンチに戻る。そのスケーターはプレーに参加することができるのか（その場で交代することができるのか）、それとも先に負傷していたプレーヤーはプレーできないプレーヤーとみなされるのか？

答え
代わりのプレーヤーはペナルティー・ボックスから正当に出場していないので、そのプレーヤーは不適格なプレーヤーと見なされなければならない。Rule 8.1；Rule 68.1；Rule 78.5(4)

状況 68.2

A チームのプレーヤーはブレイクアウェイである。B チームのプレーヤーが不正にゲームに参加して A チームのプレーヤーを妨害した。適切なペナルティは？

答え
A チームに対してペナルティ・ショットを与える。Rule 68.3；Rule 70.7

状況 68.3

A チームのプレーヤーがペナルティ・ボックスにいて、ペナルティタイムが終わる前にペナルティタイムキーパーによって誤って放された。レフェリーによって B チームにディレイド・ペナルティが宣告されたとき、A チームのプレーヤーがアタッキング・ゾーンでパックをコントロールしていた。ペナルティのためにプレーが中断する前に、A チームは、誤ってリリースされたプレーヤーが氷上にいる間にゴールを決める。プレーが中断した時点で、そのプレーヤーが誤ってリリースされたことにレフェリーが気づいた。レフェリーはどうするか？

答え
A チームのゴールは認められない。A チームのプレーヤーはペナルティー・ボックスに戻り、未消化の時間を果たさなければならない。このプレーヤーはペナルティタイムキーパーのミスにより出場したため、A チームに追加ペナルティはない。Rule 68.5（Rule 78.5(4) も参照）；Rule 70.4（Rule 35.1 も参照）；Rule 70.9

状況 68.4

プレーの中断において、A4 と B2 はそれぞれラフィングによるマイナー・ペナルティを科される。B2 にはミスコンダクト・ペナルティも科される。両チームは 5 対 5 でプレーする。マイナー・ペナルティが終了したプレー中、タイムキーパーのミスにより B2 がペナルティ・ベンチから出場する。B2 が氷上にいる間に B チームがゴールを決めた。このゴールはカウントされるか？ B2 にはさらなるペナルティが科せられるか？

答え
B2 は不適格なプレーヤーであるため、ゴールはカウントされない。このプレーヤーはペナルティ・ボックスに戻り、ミスコンダクト遂行しなけなければならないが、それ以上のペナルティは科せられない。Rule 68.5

その他の妨害

状況 68.5

第 1 ピリオドの 4 分 00 秒、大きないさかいの後、A4 はファイティングによりゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを伴わないメジャー・ペナルティを科された。この状況で A4 は同時のペナルティに関与している。A4 は負傷のためドレッシングルームに戻る。プレーヤーはプレーヤーズ・ベンチに戻るが、プレーは中断することなくしばらく続けられ、A4 の同時のメジャー・ペナルティは結局ホイッスルが鳴ることなく終了した。コーチは第 1 ピリオドの 9 分 30 秒にそのプレーヤーを出場させ、そのプレーヤーが氷上にいる間にチームがゴールを決める。ペナルティのタイムキーパーは、A4 の関与をオンアイス・オフィシャルに伝える。中断時の最終決定は何か？

答え

ゴールを認めず、ベンチ・マイナー・ペナルティを科す。プレーヤーはプレーの中断を待ってから戻らなければならない。Rule 68.2；Rule 68.5；Rule 78.5(4)

RULE 69　ゴールキーパーへのインターフェアランス

状況 69.1

A チームのプレーヤーがクリーズ内でゴールキーパーをスクリーンしている時に、A チームが得点した。レフェリーの判定は？

答え

そのゴールは認められず 、追加ペナルティは科されない。Rule 69.1；Rule 69.3

状況 69.2

A チームのプレーヤーが B チームのゴール前で片足をゴールクリーズに入れて立っている。B チームのゴールキーパーがゴールクリーズを横切ってアタッキング・プレーヤーとの接触した。接触が行われたとき、パックはゴールに入った。これは正当なゴールか？ノーゴールなのであれば、どのようなペナルティが科せられるか？

答え

ノーゴール。ゴールキーパーがゴールクリーズ内で自分のポジションを確立する行為において、ゴールクリーズ内にいるアタッキング・プレーヤーとの接触を開始し、その結果、ゴールキーパーが通常の方法でゴールを守る能力が損なわれ、ゴールした場合、そのゴールは認められない。ノーゴールでありノーペナルティ。アタッキング・プレーヤーはゴールクリーズ内でプレーするためにゴールキーパーにポジションを与えなければならない。Rule 69.3

状況 69.3

アタッキング・プレーヤーが相手ゴールキーパーの前に立ち、パックやプレーを見る能力を損なう明らかな意図をもって、手やグローブやスティックをゴールキーパーの目や顔の直前に出してもよいか？

答え

これはスポーツマンらしくない行為として扱われ、レフェリーによって目撃された場合には、Rule 75 に基づくマイナー・ペナルティが科される。

その他の妨害

状況 69.4

A33 と B4 が B チームのゴール前で争っているとき、アタッキング・プレーヤー A33 がゴールキーパーの上に B4 を倒した瞬間にパックがゴールに入った。レフェリーの判定と、ペナルティがある場合はどのようなペナルティが科せられるか？

答え

もしディフェンディング・プレーヤーがアタッキング・プレーヤーに押されまたはペナルティをされ、ディフェンディング・プレーヤーが自陣のゴールキーパーと接触した場合、その接触はこの規則上、アタッキング・プレーヤーによって引き起こされたとみなされ、必要であればアタッキング・プレーヤーにペナルティが科せられ、ゴールが決まればそのゴールは認められない。Rule 69.1

状況 69.5

ゴールキーパーがクリーズ内でのポジションを確立するために、過剰な力を用いたり、ペナルティに値するような行動をとりアタッキング・プレーヤーと接触をした。そして、ゴールが決まった時点でアタッキング・プレーヤーがクリーズを空けた場合、氷上での判定はどうなるか？

答え

ゴールキーパーにマイナー・ペナルティが科せられ、ゴールは認められない。これは、アタッキング・プレーヤーがゴールキーパーの動きを妨害した例である。アナウンスは「ゴールキーパーへのインターフェアランスによるノーゴール（＋ゴールキーパーへのマイナー・ペナルティのアナウンス）」とすべきである。Rule 56；Rule 78.5；表 16（Rule 79 の 6C）

状況 69.6

ゴールキーパーがポジションを確保しようとアタッキング・プレーヤーと接触した。そのアタッキング・プレーヤーはゴールが決まる前に間一髪でクリーズから退出した。これは正当なプレーか？

答え

たとえアタッキング・プレーヤーが直ちにクリーズを退出したとしても、接触によりゴールキーパーのゴールを守る能力が損なわれたのでゴールは認められない。Rule 69.3

RULE 70　リービング・プレーヤーズ・ベンチ・オア・ペナルティボックス

状況 70.1

第 2 ピリオド 9 分 45 秒に A24 と B6 の間でファイトが起こった。このファイトの最中、B5 はまだフッキングのペナルティタイム 45 秒が残っているにもかかわらず、ペナルティボックスから退出した。A5 は別の争いを始めず、争いの周りを滑っているだけである。ファイトが終わったとき、どのようなペナルティが適用され、ペナルティクロックには何が表示されるか？

答え

A24 - ファイティングによるメジャーペナルテ＋ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティ、B6 - ファイティングによるメジャー・ペナルティ＋ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティ。B5 にはさらにマイナー・ペナルティ＋ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。B チームのコーチは代わりのプレーヤーをペナルティボックスに入れ、残りの 45 秒と B5 に対する追加のペナルティを遂行しなければならない。Rule 70.4。B チームは 2 分 45 秒間ショートハンドでプレーする。

その他の妨害

状況 70.2

A チームのプレーヤーがペナルティ・ボックスにいて、ペナルティタイムが終わる前にペナルティタイムキーパーによって誤って放された。レフェリーによって B チームにディレイド・ペナルティが宣告されたとき、A チームのプレーヤーがアタッキング・ゾーンでパックをコントロールしていた。ペナルティのためにプレーが中断する前に、A チームは、誤ってリリースされたプレーヤーが氷上にいる間にゴールを決める。プレーが中断した時点で、そのプレーヤーが誤ってリリースされたことにレフェリーが気づいた。レフェリーはどうするか？

答え

A チームのゴールは認められない。A チームのプレーヤーはペナルティー・ボックスに戻り、未消化の時間を果たさなければならない。このプレーヤーはペナルティタイムキーパーのミスにより出場したため、A チームに追加ペナルティはない。Rule 68.5（Rule 78.5(4) も参照）；Rule 70.4（Rule 35.1 も参照）；Rule 70.9

状況 70.3

プレーの一時中断中、相対する 2 人のプレーヤー間で争いが起こった。一方のプレーヤーはファイティングによりメジャー・ペナルティが科される。メジャー・ペナルティーが終了した後の最初のプレーの中断時に、そのプレーヤーはペナルティ・ベンチを出て直ちに別のファイトをした（そのプレーヤーはファイトを仕掛けたとはみなされない）。この場合、どのようなペナルティが適用されるのか？

答え

そのプレーヤーには、ファイティングによるメジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。Rule 70.4

状況 70.4

プレー中，A75 はパックを持って頭を下げてスケーティングしていた。B15 がステップアップして A75 の胸に肩をぶつけ、そのプレーヤーは氷上にクラッシュした。このときプレーヤーはヘルメットを失くした（このヒットは正当であり、頭部への接触はなかった）。A75 はプレーヤーズ・ベンチに向かい氷上を離れた。プレーは続行され、A75 はゲームに再び参加したが、ヘルメットは被っていなかった。レフェリーの判定はどうなるか？

a) レフェリーは A75 がヘルメットを被らずに再びゲームに参加するのを見た場合

b) レフェリーが A75 がヘルメットを被らずに再びゲームに入ったことに対してホイッスルを吹く前に、A チームがゴールを決めた場合

答え

a) オフィシャルが A75 が競技エリアに入るのを見たら、A チームがパックをコントロールした時点でプレーを止め、違反したプレーヤーにマイナー・ペナルティを科さなければならない。Rule 9.6

b) もし A75 が不正に氷上にいる間に A チームがゴールを決めた場合、そのゴールは取り消され、マイナー・ペナルティが科されるべきである。Rule 9.6；Rule 70.9

その他の妨害

状況 70.5

A12 と B6 がファイトに巻き込まれ、この状況において B6 にゲーム・ミスコンダクトを伴わないメジャー・ペナルティが科される。B6 は負傷の手当をするためにドレッシングルームに行く。B6 がプレーヤーズ・ベンチに戻ったとき、メジャー・ペナルティはまだ有効である。プレーはホイッスルを鳴らさずに続けられ、B6 が受けるべきメジャー・ペナルティは終了した。B チームのコーチは B6 をシフトに送り出す。B6 はシフトを完了し、その場で交代する。まだホイッスルは鳴っていない。B チーム B が得点した。このゴールはカウントすべきか？

答え

厳密に言えば、B6 はペナルティボックスでメジャー・ペナルティ終了後のホイッスルを待っているべきであった。B6 はシフトをプレーをする際に不適格なプレーヤーとしてプレーに参加した。このことは、次のプレー中断（B チームのゴール）においてのみオンアイスオフィシャルが報告することができ、ゴールが決まったとき B6 は氷上にいなかったので、ゴールはカウントされ、B6 にはマイナー・ペナルティが科される。このペナルティは、ペナルティボックスを早く出たことによるものとする。Rule 70.4

状況 70.6

A5 は 14 分 00 秒にペナルティを科せられた。A5 が 15 分 58 秒にペナルティボックスを早く出た（A5 自身のミス）。その後、B8 へのマイナー・ペナルティにより 17 分 00 秒にプレーが中断される。レフェリーはどうするか？

答え

A5 には元の未消化のペナルティタイム 2 秒に加え、ペナルティ・ボックスを早く出たことによるペナルティが科される。このプレーの中断時に B8 にもマイナー・ペナルティが科されているので、両者は同時のペナルティと見なされる。従って、A5 のペナルティクロックは 0:02 となり、A チームは A5 の元のペナルティタイムの残り 2 秒を消化するために、さらに 1 人のプレーヤーをペナルティボックスに入れなければならない。Rule 70.4

RULE 71　　早すぎる交代

状況 71.1

同点で迎えた試合終了間際、A チームはエキストラアタッカーのためにゴールキーパーを引き揚げることを選択した。ゴールキーパーがプレーヤーズ・ベンチに向かってスケートを始めたとき、ゴールキーパー の味方のプレーヤーが B チームのゾーンにパックをショットした。エクストラアタッカーは（ゴールキーパーがプレーヤーズベンチから 1.5 メートル以内に入る前に）早々と氷上に飛び出したが、B チームがパックをコントロールしている。どのような判定が下されるのか？

答え

A チームがパックのコントロールを取り戻すまでホイッスルを遅らせなければならない。続くフェイスオフはセンターアイスで行う（A チームのアタッキング側でプレーが止まっていた場合）。A チームのディフェンディング側でプレーが中断した場合、フェイスオフはニュートラルゾーンまたはディフェンディングゾーンに最も近いフェイスオフスポットで行われる。Rule 71.1

その他の妨害

状況 71.2

A チームは試合終了間際にゴールキーパーを引き揚げてエキストラアタッカーを補充する。ゴールキーパーがプレーヤーズ・ベンチから 1.5 メートル以上離れている間に、ゴールキーパーと交代するプレーヤーがゲームに入る。B チームがブルーライン付近でパックをコントロールし、ロングパスを試みるが、レッドラインより守備側にいる A チームのプレーヤーがこれを受け取る（ゴールキーパーは氷上から外れている）。ゴールキーパーの交代が早すぎるためにプレーは止められた。このプレーにペナルティはあるか？その後のフェイスオフはどこで行われるか？

答え

タイムペナルティはない。その後のフェイスオフは、プレーが中断した場所に最も近いフェイスオフスポットで行われる。プレーはレッドラインの後方で中断されたので、フェイスオフはセンターアイスでは行われない。Rule 71.1

状況 71.3

A チームにディレイド・ペナルティが宣告されている。B チームはゴールキーパーの交代が早すぎた。早すぎる交代に対してラインズパーソンがプレーを中断する。続くフェイスオフはどこで行われるか？

答え

ペナルティを受けたチームが A チームであるため、続くフェイスオフは A チームのゾーンにあるエンドゾーンのフェイスオフスポットのいずれかとする。ゴールキーパーの早すぎる交代は、ペナルティ後のフェイスオフルールの 3 つの例外のうちの 1 つではない。しかし、B チームはディレイド・ペナルティ宣告間の、エクストラアタッカーのアドバンテージを失う。Rule 72.1；Rule 76.2；Rule 15.5

状況 71.4

ゴールキーパーの早すぎる交代をアナウンスする必要があるか？

答え

はい。「ゴールキーパーの早すぎる交代によりプレーは止められました」とアナウンスするようアナウンサーに指示すべきである。Rule 71.2

状況 71.5

A3 がアタッキング・ゾーンでペナルティを犯した。レフェリーはディレイド・マイナー・ペナルティを宣告する。次に B チームはエキストラアタッカーに代えるためにゴールキーパーを引き揚げる。A チームがパックに触れる前に、B チームは早すぎる交代のホイッスルを吹かれた。続くフェイスオフはどこか？

答え

フェイスオフは、A チームのエンドゾーンのフェイスオフスポットのいずれかで行われる。また、レフェリーはアナウンサーを通じて、「ゴールキーパーの早すぎる交代のためプレーは止められました。」とアナウンスしなければならない。Rule 76.2；Rule 71.1；Rule 71.2

RULE 72　パックプレーの拒否

その他の妨害

状況 72.1

ディフェンスがディフェンディング・ゾーンからパックをクリアしようとした。アタッキング側ブルーラインのすぐ内側のアタッキング側ディフェンスがハイスティックでパックを空中から打ち落とし、パックはアタッキング・ゾーンのブルーラインのすぐ内側に落ちた。両チームともパックをプレーしない。その後のフェイスオフはどこで行われるか？

答え

続くフェイスオフは、ホイッスルが吹かれたときにパックがあったゾーンのエンドゾーンのフェイスオフスポットで行われる。アタッキング・チームがハイスティックで不正にパックに接触したため、正当にパックをプレーできるのはディフェンディング・チームだけであり、彼らはパックをプレーすることを放棄した。したがって、フェイスオフはエンドゾーンにとどまり、そのゾーンに最も近いフェイスオフスポットに行かなければならない。Rule 72.3；Rule 76.2；Rule 80.1

状況 72.2

A チームがアタッキング・ゾーンでパックに対してハイスティックをした。ディフェンディング・チームは後ろに下がってパックをプレーしようとしない。両チームともパックに触れようとしない。これはどのような判定か？

答え

レフェリーはプレーを止め、その結果フェイスオフを B チームのディフェンディング・ゾーンの最も近いフェイスオフスポットで命じる。Rule 72.3

状況 72.3

A チームのプレーヤーに対してスラッシングのディレイド・ペナルティが宣告されている。パックが B チームのディフェンディング・ゾーンのコーナーでルーズになっており、両チームともパックをプレーしようとしていない。レフェリーの判定は？続くフェイスオフの場所はどこか？

答え

レフェリーはプレーを止め、続くフェイスオフは A チームのディフェンディング・ゾーンで行われる。Rule 72.5；Rule 76.2

状況 72.4

A チームはショートハンドで氷上にパックを放ったところである。A24 はスラッシングによるディレイド・ペナルティのシグナルを受けた。パックは B チームのゴールラインの後方にあり、B チームと A チームのプレーヤーはパックのそばに立っているだけで、どちらもパックをプレーしようとしていない。レフェリーはどうするか？

答え

レフェリーは、両方のプレーヤーがパックをプレーしようとしなかったので、そのプレーを中断する。その後、レフェリーは A24 にスラッシングのペナルティを科し、A チームのエンドゾーンでフェイスオフを行う。氷上人数は 5 対 3 とする。Rule 72.5；Rule 76.2

その他の妨害

状況 72.5

自陣のディフェンディング・ゾーンにいるディフェンスが、手またはハイスティックでパックをニュートラル・ゾーンに叩き、両チームのプレーヤーがパックをプレーすることを拒否した。何が起こるか？続くフェイスオフはどこで行われるか？

答え

レフェリーはそのプレーを中断し、プレーが止められた場所に最も近いフェイスオフスポットで、フェイスオフを命じなければならない。Rule 72.2；Rule 72.3。その根拠は、パックをバッティングまたはハイスティックしたチームはパックをプレーすることができず、相手チームのみがプレーすることができ、相手チームがプレーを棄権した場合、ホイッスルが吹かれ、フェイスオフはその場に留まるからである。

状況 72.6

ディフェンディング・ゾーンにいるディフェンディング・プレーヤーがパックを手で、またはハイスティックで打ち下ろした。ラインズパーソンがアイシングの可能性を合図する。両チームともアイシングのためにパックを追うことを拒否した。何が起こるか？その後のフェイスオフはどこで行われるか？

答え

ディフェンディング側がパックをプレーするのを止めた場合、レフェリーはプレーを中断し、その結果フェイスオフは、パックをプレーするのを止めたチームのゴールに最も近い隣接するフェイスオフスポットで行われる。Rule 72.4；Rule 81.2。その根拠は、パックをバッティングまたはハイスティックしたチームは、その違反によりフェイスオフが自ゾーンに戻ることになるため、パックをプレーすることができず、相手チームはプレーすることができるが、棄権した場合（時間切れを狙った場合）、ホイッスルが吹かれ、フェイスオフはその場にとどまるからである。

状況 72.7

ディフェンディング・プレーヤーがパックの上に立っているか、あるいはパックを保持したままゴールの背後に立ち、動こうとしない。相手プレーヤーもフォアチェックに行かない。この場合、レフェリーはどうすべきか。

答え

パックを保持しているチームには、可能な限りパックを前方に進める義務がある。ディフェンディング・チームがパックを前方に進めようとする動きを見せない場合、レフェリーは（プレー中に）口頭で警告を発しなければならない。それでも改善が見られない場合はホイッスルを鳴らし、エンドゾーンのフェイスオフスポットでフェイスオフを行う。プレーヤーがゾーン内を動き回ったり、チームメートとの間でパスを回したりしている場合は、フォアチェックを受けていなくてもプレーの継続が認められる。

RULE 73　プレー開始の拒否

状況 73.1

第 1 ピリオド終了時のできごとにより、A チームコーチは憤慨した。コーチは第 2 ピリオドを開始するためにチームを氷上に戻すことを拒否した。レフェリーはコーチに対し、チームとともに氷上に戻るよ

その他の妨害

う命じる。コーチにはどのくらいの時間が与えられ、チームが許可された時間内に氷上に戻った場合、レフェリーはどのような措置を取るのか？

答え
チームが氷に戻りプレーを開始するよう指示されたら、5 分以内にそれを行わなければ、そのゲームは没収試合となる。この時間内にプレーに戻った場合、ディレイ・オブ・ゲームのベンチ・マイナー・ペナルティが科される。Rule 73.3

RULE 74　トゥー・メニープレーヤーズ・オン・ジ・アイス

状況 74.1
第 2 ピリオド中、チームがラインチェンジを行い、氷上から出るプレーヤーが相手側エンドゾーンにあるベンチに入り、氷上に出るプレーヤーがニュートラルゾーンから出る（一方のドアから入り、他方のドアから出る）。両プレーヤーとも氷上にいて、プレーヤーズ・ベンチから 1.5m 以内にいる。氷上に入ったプレーヤーがパックをプレーした場合、これはトゥ・メニー・プレーヤーズと見なされるか？

答え
はい。これはトゥ・メニー・プレーヤーズになり、ベンチ・マイナー・ペナルティが科される。Rule 74

状況 74.2
ゴールキーパーは「プレーの最中」で交代できるか？（つまり、プレーの進行中に氷上のゴールキーパーをバックアップゴールキーパーと交代できるか）

答え
Rule 74.1 には、「プレーヤーはプレー中いつでもプレーヤーズ・ベンチから交代することができる... 」とあるので、ゴールキーパーはその場で交代することができる。しかし、これには 3 つの例外がある：
a. ベンチにいるゴールキーパーが、負傷したゴールキーパーと交代するためにプレーの中断時に交代した場合、次のプレーの中断時まで交代することはできない。Rule 8.2
b. ペナルティ・ショットを守るためにゴールキーパーを交代させる場合、交代したゴールキーパーは次のプレー中断まで試合に出ていなければならない。Rule 24.2
Rule 82.1 最終段落のゴールキーパーの交代に関する記述は、プレーの中断中にゴールキーパーを交代させることに関するものであり、本問題で提示されたシナリオには適用されないことに注意すべきである。

状況 74.3
試合終了間際、A チームはエキストラアタッカーのためにゴールキーパーを引き揚げた。A チームのベンチ付近で、ゴールキーパーが 1.5m の制限内にいる間にゴールキーパーの代わりの選手が氷上に出た。ゴールキーパーはそのパックをキャッチし、味方のために氷上に落としてからベンチに入る。レフェリーはどのような手順に従うべきか？

その他の妨害

答え
このプレーは直ちに止められ、トゥ・メニー・プレーヤーズとしてベンチ・マイナー・ペナルティが A チームに科せられる。Rule 74.1

状況 74.4
A チームはプレー中に正当なラインチェンジを行った。A17 が氷上に出てきてベンチから離れプレーに入った。A21 はベンチに向かっているが、ベンチに入る前にパックが誤って A21 に当たった。これはペナルティか？
答え
いいえ，これはペナルティではない。Rule 74.1

状況 74.5
第 3 ピリオドの最後の 2 分間、延長戦、またはペナルティが完全に遂行するのに十分な時間がない、どのような状況でディレイ・オブ・ゲームによるペナルティ・ショットが与えられるのか？
答え
2 つの場合がある。1 つ目は故意に自陣のゴールをずらした場合。Rule 63.6。2 つ目は故意に不正な選手交代を行うこと。Rule 74.4

状況 74.6
延長戦において、ゴールキーパーをエキストラアタッカーと交代させることはできるか？
答え
できる。ゴールキーパーはエキストラアタッカーと交代することができる。Rule 74.5；Rule 84.2

状況 74.7
A チームは B チームのエンドゾーンでパックをコントロールしている。B チームはショートハンドであり、A チームはエキストラアタッカーのためにゴールキーパーを引き揚げている。B チームにディレイド・ペナルティが宣告される。ディレイドの間、A チームのプレーヤーがプレーヤーズ・ベンチから氷上に飛び出してプレーに参加した。どのようなペナルティを科すべきか？氷上の人数は？フェイスオフはどこか？
答え
B チームにディレイド・ペナルティが科せられ、A チームにトゥ・メニー・プレーヤーズのペナルティが科される。これらは同時のペナルティであり、フェイスオフは同時のペナルティでプレーが止められたゾーンの最も近いフェイスオフスポットで行われる。氷上の人数は 5 対 4 のままとする。Rule 76.2

状況 74.8
レフェリーは、トゥ・メニー・プレーヤーズとして 、A チームにディレイド・ベンチ・マイナー・ペナルティの宣告をする。ディレイドの間、6 人目のスケーターが氷上を離れ、氷上にいる人数は 5 人となった。しかし、ディレイド・ペナルティの判定が続く中、A チームは再び 6 人目のスケーターを氷上に出した。これは第 2 ピリオド中に発生した。どのようなペナルティが科せられるか？

その他の妨害

答え
Rule 17 および Rule 74 - トゥ・メニー・プレーヤーズのため、A チームに 2 つのベンチ・マイナー・ペナルティが科される。これらは 2 つの別々のできごとであるため。

状況 74.9
ラインズパーソンは、A チームのトゥ・メニー・プレーヤーズの違反を目撃した。B チームがパックをコントロールしているため、ラインズパーソンはすぐにプレーを中断することはできない。ラインズパーソンは最も近くにいるレフェリーに聞こえるように、A チームがトゥ・メニー・プレーヤーズを犯していることを口頭で伝えた。これを聞いた A チームのコーチはラインズパーソンに「それは私たちですか？トゥ・メニー・プレーヤーズなのか？」と聞く。ラインズパーソンはコーチに違反であることを伝える。コーチは、トゥ・メニー・プレーヤーズのペナルティを受けていることを知りながら、さらに 2 人のプレーヤーを氷上に送ることをした。この状況でレフェリーがすべきことは何か？
答え
残りプレー時間が十分でない場合（最後の 2 分間）、またはすでにペナルティが科され、トゥ・メニー・プレーヤーズによるベンチ・マイナー・ペナルティを全うすることができない場合、または延長戦中にこのような状況が発生した場合、B チームに対してペナルティ・ショットを与える。試合中、A チームがパックをコントロールした時点で、トゥ・メニー・プレーヤーズに対するベンチ・マイナー・ペナルティが科され、コーチによるこの行為がトゥ・メニー・プレーヤーズの判定を軽視しているとオフィシャルが判断した場合、アンスポーツマンライク・コンダクトに対するベンチ・マイナー・ペナルティも科されることがある。Rule 74.2；Rule 74.4；Rule 39.3

RULE 75　アンスポーツマンライク・コンダクト

状況 75.1
ブレイクアウェイを失敗したプレーヤーが苛立ちのあまりベンチに向かい、スティックをベンチの上に叩きつけて二つに折れさせ、シャフトとブレードがプレーに戻り、ニュートラル・ゾーンを突破してきた相手プレーヤーにぶつかり妨害となり、そのプレーヤーがパックを失う（または負傷する）原因となった。レフェリーはどうすべきか？ペナルティは科されるか？
答え
レフェリーが考慮できるルールはいくつかある。状況や結果を評価する際には、適切な判断と常識が優先されるべきいくつかの考慮事項がある：
Rule 53.2 - インターフェアランスによるマイナー・ペナルティ
Rule 53.7 - ペナルティ・ショット
Rule 53.8 - 認定ゴール
Rule 60.3 - ハイスティッキングによるダブル・マイナー・ペナルティ
Rule 75.2 - アンスポーツマンライク・コンダクトによるマイナー・ペナルティ

その他の妨害

状況 75.2

プレーヤーがトリッピングによるマイナー・ペナルティを受けており、ペナルティ開始から 30 秒後に、ペナルティを受けたプレーヤーがペナルティボックスからオフィシャルに暴言を吐いた。そのプレーヤーには、アンスポーツマンライク・コンダクトのマイナー・ペナルティが科せられる。別のプレーヤーがこの追加のマイナー・ペナルティを受けなければならないのか？

答え

ペナルティを科されたプレーヤーが、最初のペナルティを科される前または科された後のいずれかに、追加のアンスポーツマンライク・コンダクトを科された場合、追加のペナルティは未消化のペナルティクロックに加算され、連続して科される。Rule 75.2；Rule 39.2(vi)

状況 75.3

コーチが水筒を氷上に投げた。あなたはどうするか？

答え

レフェリーの見解では、水筒をオフィシャルに向けようとせず、氷上に投げた場合、アンスポーツマンライク・コンダクトによるベンチ・マイナー・ペナルティが適用される。Rule 75.3。レフェリーの見解において、物体がオフィシャルの方向に投げられたが、接触するまでには至らなかった場合、ゲーム・ミスコンダクトが適用される。Rule 39.5

状況 75.4

アタッキング・プレーヤーが相手ゴールキーパーの前に立ち、パックやプレーを見る能力を損なう明らかな意図をもって、手やグローブやスティックをゴールキーパーの目や顔の直前に出してもよいか？

答え

これはスポーツマンらしくない行為として扱われ、レフェリーによって目撃された場合には、Rule 75 に基づくマイナー・ペナルティが科される。

状況 75.5

A チームがパックをアイシングした。プレーヤーとレフェリーは続くフェイスオフのために素早く位置についた。水筒が A チームのベンチからニュートラル・ゾーンに入ってくるのが見えるが、ベンチから水筒が出てくるのを目撃したラインズパーソンは、誰が具体的に水筒を「落とした」（投げた）のか判断できない。レフェリーはどうすべきか？

答え

アンスポーツマンライク・コンダクトによるベンチ・マイナー・ペナルティを科す。Rule 53.3；Rule 75.3；Rule 32.4；（Rule 81.4、変更される可能性がある）

状況 75.6

ファイトの後、A チームのプレーヤーがペナルティ・ボックスに向かう途中、 観客に向かって卑猥なジェスチャーをした。どのようなペナルティが科せられるか？

答え

ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。Rule 75.5

その他の妨害

状況 75.7

オンアイス・オフィシャルがプレーヤーが相手プレーヤーを「舐める」のを目撃した。罰せられるとしたらどのようなものか？

答え

最低でも、このようなジェスチャーをしたプレーヤーには、アンスポーツマンライク・コンダクトとしてマイナー・ペナルティを科すべきである。Rule 75.2

状況 75.8

あるプレーヤーはオフィシャルの一人から、プレーヤーの交代を待っている間、ボードの上に足を掛けることを控えるように言われた。しかしそのプレーヤーはそれを続けている。オフィシャルは何をすればよいのか？

答え

レフェリーおよびラインズパーソンの指示に反抗し続けたプレーヤーには、アンスポーツマンライク・コンダクトとしてマイナー・ペナルティが科せられる。そのような行為が続く場合、ミスコンダクト・ペナルティまたはゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される可能性がある。Rule 75.2

SECTION 10

Game Flow



ゲームの流れ

RULE 76　　フェイスオフ

状況 76.1

ニュートラル・ゾーンにいるアタッキング・プレーヤーが手でパックをアタッキング・ゾーンに叩き込み、ディレイド・オフサイドを引き起こした。ディレイド・オフサイドの間にアタッキング・ゾーンにいる味方が故意にパックをプレーした。ハンドパスとオフサイドの 2 つのルール違反に対してホイッスルが吹かれる。続くフェイスオフはどこか？

答え

続くフェイスオフは 、反則をしたチームのディフェンディング・ゾーンにあるフェイスオフスポットの 1 つで行われる。Rule 76.2

状況 76.2

A チームのプレーヤーがパックを持ってスケーティングしており 、自陣のブルーラインを越えてニュートラル・ゾーンに入った。氷上の他の場所でファイトが発生したため、プレーを止めるホイッスルが吹かれる。各チーム 1 名のプレーヤーにファイティングによるメジャー + ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。続くフェイスオフはどこか？

答え

続くフェイスオフは、A チームのブルーラインの外側の最も近いフェイスオフドットで行われる。Rule 76.2

状況 76.3

ニュートラル・ゾーンにいるアタッキング・プレーヤーが味方にパスを出そうとした。そのパックはニュートラル・ゾーンにいるディフェンディング・プレーヤーにあたり場外に出た。パックはフェイスオフスポットとディフェンディング・ブルーラインの間でスティックに当たった。続くフェイスオフはどこか？

答え

規則では、フェイスオフの場所は、過失をしたチームにテリトリアルアドバンテージを与えない最も近い場所でなければならないと述べているにもかかわらず、ニュートラル・ゾーンでストップが起こった場合には、フェイスオフはニュートラル・ゾーンで行われなければならないとも述べている。Rule 76.2；Rule 85.1。常識的に考えれば、フェイスオフはブルーラインの外側のドットで行われるべきである。この具体的な答えはルールブックには載っていない。

状況 76.4

A3 はアタッキング・ゾーンでペナルティを犯した。レフェリーはディレイド・マイナー・ペナルティを宣告する。B チームはエキストラアタッカーとしてゴールキーパーを引き揚げた。A チームがパックに触れる前に、B チームは早すぎる交代のホイッスルを吹かれた。続くフェイスオフはどこであるか？

答え

フェイスオフは、A チームのエンドゾーンのフェイスオフスポットの一つで行われる。また、レフェリーはアナウンサーを通じて、「ゴールキーパーの早すぎる交代によりプレーが停止されました。」とアナウンスしなければならない。Rule 76.2；Rule 71.1；Rule 71.2

ゲームの流れ

状況 76.5

アイシングの判定において、バックラインズパーソンはパックが反則をしていない側のチームによってコースが変えられた（ディフレクション）のを目撃したが、フロントラインズパーソンはそのことに気づかず、アイシングをコールした。そのプレーの終了直後、アタッキング・プレーヤーがディフェンディング・プレーヤーをボードに激しく叩きつけ、レフェリーはボーディングのマイナー・ペナルティを宣告した。バックラインズパーソンがアイシングの判定を取り消し、アタッキング・プレーヤーは「ニュートラル・ゾーンでパックのコースが変わったため、アイシングは無効になったはずだ」と主張した。レフェリーはどのような対応をとるべきか？

答え

ボーディングに対するマイナー・ペナルティは引き続き科される。その後のフェイスオフは、ペナルティを科されたチームのディフェンディング・ゾーンで行われる。Rule 41.1；Rule 76.2

状況 76.6

A チームにディレイド・ペナルティが宣告されている。B チームがアタッキング・ゾーンにパックを放ち、ディレイド・オフサイドのシグナルが出されたが、パックは A チームのプレーヤーに当たってプレーの場外に逸れた。続くフェイスオフはどこで行われるか？

答え

A チームのエンドゾーンでのフェイスオフ。Rule 76.2；Rule 83.5

状況 76.7

スラッシングのディレイド・ペナルティが A チームに出されている。パックが B チームのディフェンディング・ゾーンのコーナーでルーズになり、両チームがパックをプレイすることを拒否している。レフェリーの判定は？続くフェイスオフの場所はどこか？

答え

レフェリーはプレーを止め、続くフェイスオフは A チームのディフェンディング・ゾーンで行われる。Rule 72.5；Rule 76.2

状況 76.8

A チームがアイシングをし、プレーヤーは A チームのエンドゾーンに戻りフェイスオフを行う。パックがドロップされる前に、B チームのプレーヤーにマイナー・ペナルティが科された。続くフェイスオフはどこで行われるか？

答え

続くフェイスオフは B チームのディフェンディング・ゾーンにあるフェイスオフスポットの一つで行われる。Rule 76.2

状況 76.9

A チームが氷上にパックを放ち、アイシングが宣言された。アイシングのホイッスルが吹かれた後、B89 が振り返って A50 をスラッシュし、マイナー・ペナルティとなった。続くフェイスオフはどこで行われるか？

ゲームの流れ

答え
A チームに対してアイシングのホイッスルが吹かれプレーが止まった後、B89 はペナルティを犯し、マイナー・ペナルティが科される。このペナルティにより、続くフェイスオフは B チームのエンドゾーンで行われる。Rule 76.2

状況 76.10
ディレイド・ペナルティが A チームに出されている。B チームはゴールキーパーの交代が早すぎた。早すぎる交代に対してラインズパーソンがプレーを中断する。続くフェイスオフはどこで行われるか？
答え
続くフェイスオフは、ペナルティを受けたチームである A チームのエンドゾーンのフェイスオフスポットのいずれかとする。ゴールキーパーの早すぎる交代は、ペナルティ後のフェイスオフルールの 3 つの例外のうちの 1 つではない。しかし、B チームはディレイド・ペナルティでのエクストラアタッカーのアドバンテージを失う。Rule 72.1；Rule 76.2

状況 76.11
第 3 ピリオド残り 4 分 59 秒、A チームにメジャー・ペナルティ、B チームにマイナー・ペナルティが科される。ペナルティタイムクロックは？続くフェイスオフはどこで行われるか？
答え
A チームには 3 分間のペナルティタイムが科され（メジャー・ペナルティ）、B チームにはペナルティタイムが科されない。続くフェイスオフは、A チームのディフェンディング・ゾーンにあるエンドゾーンのフェイスオフスポットのいずれかで行われる。Rule 19.3；Rule 76.2

状況 76.12
A チームにディレイド・ペナルティが示されている。B チームが A チームのエンドゾーンでパックをコントロールし、ポイントプレーヤーに戻そうとしたパスが自陣まで行き、ラインズパーソンが誤ってアイシングを宣告した。続くフェイスオフはどこで行われるか？
答え
A チームはペナルティを受けているので、続くフェイスオフは A チームのディフェンディング・ゾーンにあるフェイスオフスポットのいずれかで行われなければならない。ラインズパーソンのミスによる唯一の結果は、B チームがゴールキーパーの代わりに氷上にいるエクストラアタッカーによって得点を試みる機会を奪われたことである。Rule 76.2

状況 76.13
アタッキング・ゾーンにおいて攻撃側に対してディレイド・ペナルティが宣告される。ディフェンディング・プレーヤーがパックをガラスの上にショットした。続くフェイスオフはどこであるか？
答え
続くフェイスオフは、ガラス越しにパックをシュートしたチームのディフェンディング・ゾーンに最も近いフェイスオフスポットで行われる。ディフェンディング・チームにもディレイ・オブ・ゲームのペナルティが科される。Rule 76.2；Rule 85.1；Rule 63.2

ゲームの流れ

状況 76.14

オープニングフェイスオフの最中、パックがドロップされる前に一人のプレーヤーにマイナー・ペナルティが科せられた。続くフェイスオフはどこか？

答え

フェイスオフはセンターアイスで行われる。Rule 76.2

状況 76.15

A チームのエンドゾーンでホイッスルが鳴る。スクラムが起こり、B チームのディフェンディング・プレーヤーがフェイスオフサークルのトップよりもかなり下のゾーンに深く入ってくる。A チームのプレーヤーが B チームのディフェンディング・プレーヤーを殴り、唯一マイナー・ペナルティが科せられた。次のフェイスオフはどこか？

答え

B チームのディフェンディング・プレーヤーがフェイスオフサークルのトップを越えてゾーンに入った時点で、フェイスオフはニュートラル・ゾーンに移る。これは一方のチームにペナルティが科された後のフェイスオフの場所を決める Rule 76.2 に記載されている例外の一つである。

状況 76.16

ディフェンディング・プレーヤーがパックをディフェンディング・ゾーンの外へクリアしようとした。攻撃側ブルーラインのすぐ内側のアタッキングスケーターがハイスティックでパックを空中から叩き落とし、パックはアタッキング・ゾーンのブルーラインのすぐ内側に着地した。両チームはパックをプレーしない。その後のフェイスオフはどこで行われるか？

答え

続くフェイスオフは、ホイッスルが吹かれたときにパックがあったゾーンのエンドゾーンのフェイスオフスポットで行われる。アタッキング・チームがハイスティックで不正にパックに接触したため、正当にパックをプレーできるのはディフェンディング・チームだけであり、彼らはパックのプレーを棄権した。したがって、フェイスオフはエンドゾーンにとどまり、そのゾーンに最も近いフェイスオフスポットに行かなければならない。Rule 72.3；Rule 76.2；Rule 80.1

状況 76.17

アタッキング・ゾーンにいる A チームがマイナー・ペナルティを宣告される。続くフェイスオフは A チームのディフェンディング・ゾーンにあるフェイスオフスポットの 1 つで行われる。プレーが再開される前に、B チームのプレーヤーがマイナー・ペナルティを受けた。これによってフェイスオフの場所が変わるのか？

答え

元のプレーの中断は A チームにペナルティを科すためであり、その中断は B チームのエンドゾーンで起こった。両チームは同じプレーの中断で罰せられるので、フェイスオフは最初のプレーの停止が起こった場所（B チームのエンドゾーン）に最も近いフェイスオフスポットに移さなければならない。Rule 76.2

ゲームの流れ

状況 76.18

あるプレーヤーが自陣のディフェンディング・ゾーンからアイシングをした。その途中、パックはニュートラル・ゾーンにいるレフェリーに当たり、そのまま相手チームのゴールに入った。これはノーゴールであるが、その後のフェイスオフはどこで行われるのか？

答え

規則には特に記載されていないが、フェイスオフはパックがレフェリーに当たった場所の近くにあるニュートラル・ゾーンのフェイスオフスポットで行われるべきである。これは Rule 76.2；Rule 85.4（パックがオフィシャルに当たってアウトオブプレーになった場合のフェイスオフの場所について言及）に合致する。

状況 76.19

A チームがアタッキング・ゾーンにいる 。パックが氷から離れ、A チームのプレーヤーがスティックでパックを空中から叩き落とした。エンドゾーンにいたレフェリーはハイスティックによる反則の可能性を排除したが、 ニュートラル・ゾーンにいたレフェリーは違反のホイッスルを吹いた。続くフェイスオフはどこで行われるか？

答え

このような場合、オンアイス・オフィシャルは正しい判断を下すために協議しなければならない。パックをハイスティックするペナルティが実際に起こったと判断された場合、フェイスオフは A チームのアタッキング側の外側のニュートラル・ゾーンのフェイスオフスポットで行われなければならない。誤ってプレーが止められたと判断された場合、ホイッスルが吹かれたときにパックがあった場所に最も近いフェイスオフスポットでフェイスオフを行わなければならない。Rule 80.2；Rule 76.2

状況 76.20

ラインズパーソンがホイッスルを吹き、ディフェンディング・ゾーンでのフェイスオフの 5 秒前予告を開始する。ディフェンディングのセンターはフェイスオフドットから戻り味方と話している。5 秒が経過し、ディフェンディングのセンターはまだフェイスオフドットに立っていない。このときのラインズパーソンの処置はどのようになるか？

答え

5 秒が経過してもセンターが指定されたフェイスオフエリアにいない場合、ラインズパーソンは直ちにパックをドロップする。もしセンターが 5 秒が経過するまでに、フェイスオフドットから後退していたり、「クォーターバック」をしていたり、指示されても来ようとしなかったり、あるいは単にそこに着くのが遅かったりした場合、パックはドロップされる。センターがドロップのタイミングを計ろうとした場合、そのセンターは交代させられ、フェイスオフ・バイオレーションとみなされる。Rule 76.4

状況 76.21

各チームはエンドゾーンでのフェイスオフのために並んでおり、各チームはパックをドロップするラインズパーソンの後方にプレーヤーを配置している。パックがドロップされるのを予期して、ラインズパーソンの後方にいるアタッキング・プレーヤーはサークル内に約 1 メートル飛び込み、素早く止まり、パックがドロップされたときに後退している途中である。守備側のセンターは、正当に行われたフェイスオフを制し、自身の足元から味方選手へとパックを送った。レフェリーは何をすべきか？

ゲームの流れ

答え
適切な判断と良識をもってすれば、レフェリーは，ディフェンディング・チームが明らかにフェイスオフに勝っており、アタッキング・プレーヤーの侵入によってアドバンテージが得られていないので、プレーを止めたくないかもしれない。しかし多くの場合、フェイスオフサークルへの侵入はパックがドロップされる前に確認されるため、その場合、違反したチームのセンターは交代しなければならない。Rule 76.3；Rule 76.5；Rule 76.6

状況 76.22
チームが 2 回目のフェイスオフ・バイオレーションを犯してペナルティを科された場合、誰がそのペナルティを受けなければならないか？
答え
ディレイング・ザ・ゲームに対するベンチ・マイナー・ペナルティであるため、そのチームのゴールキーパーを除くすべてのプレーヤーがベンチ・マイナー・ペナルティを行うことができる。Rule 17.1；Rule 76.6

状況 76.23
エンドゾーンでのフェイスオフの最中 、A チームはフェイスオフ・バイオレーションで既にセンターは交代していた。A チームのウイングが侵入し、A チームは 2 回目のフェイスオフ・バイオレーションを犯したとして罰せられる。ベンチ・マイナー・ペナルティは誰が受けなければならないのか？
答え
ペナルティを犯したチームのどのプレーヤー（ゴールキーパーを除く）も、ベンチ・マイナー・ペナルティを受けることができる。Rule 17.1；Rule 76.6

状況 76.24
次の場合、オフィシャルはどのような手順に従うか ：
a) ラインチェンジの手続きがレフェリーによって完了した場合。
b) フェイスオフを行うラインズパーソンがホイッスルを吹き、必要な 5 秒間待機した。
c) ディフェンディング・チームがフェイスオフの場所に行くのが遅く、続くフェイスオフのためにオフサイドポジションにいる。
答え
ディフェンディング・プレーヤーがフェイスオフの場所に行くのが遅く、プレーヤーがオフサイドの位置にいるためにラインズパーソンがパックをドロップできない場合、レフェリーは違反したチームのコーチに警告しなければならない。それ以降のオフサイド違反は、ベンチ・マイナー・ペナルティとなる。Rule 76.6；Rule 82.2

状況 76.25
ラインズパーソンは A チームのディフェンディング・ゾーンでフェイスオフの準備をしている。ラインズパーソンはプレーヤーが整列するための 5 秒間の開始を示すホイッスルを吹く。5 秒が経過したとき、ベンチから出てきた A チームのプレーヤーがオフサイドの位置にいる。これは、このチームによるこの試合最初の違反である。レフェリーはどのような処置をとるか？

ゲームの流れ

答え
レフェリーは、遅いラインチェンジをしたチームに警告し、試合中にそれ以上違反した場合はマイナー・ペナルティを科すことを述べる。この場合、ラインズパーソンは違反チームのセンターは交代させない。Rule 76.6、5 段落

状況 76.26
A チームのディフェンディング・ゾーンでフェイスオフが行われようとしている。ラインチェンジの手順が完了し、ラインズパーソンがフェイスオフ開始のホイッスルを吹く。ラインズパーソンは、A チームが氷上に十分なスケーターがいないことに気づいた。ラインズパーソンは何をするか？
答え
ラインズパーソンはラインチェンジを担当するレフェリーに通知し、そのレフェリーは違反したチームに適切な人数のプレーヤーを氷上に配置するよう通知し、必要であれば、違反したチームのコーチに、同様の違反があった場合はディレイ・オブ・ゲームのベンチ・マイナー・ペナルティを科すことを警告しなければならない。Rule 76.7

状況 76.27
B チームのディフェンディング・ゾーンでの 5 対 5 でのフェイスオフの前に、レフェリーは B チームが氷上に 4 人しかスケーターがいないことに気付いた。レフェリーはどのような処置をとるか？もし A チームが氷上に 4 人しかスケーターがいなかったら、同じフェイスオフで何が起こるか？
答え
B チームは 5 人目のプレーヤーを氷上に出すよう指示され、もしレフェリーが故意であると判断した場合は、B チームのコーチに警告を与える。Rule 76.7。アタッキング・ゾーンでのフェイスオフにおいて、A チームのスケーターが氷上に 4 人しかいない場合、オフィシャルは通常の方法でフェイスオフを行う。Rule 76.7

状況 76.28
ピリオド残り 12 秒、ラインズパーソンは両センターを交代させる。パックをドロップする途中で、攻撃側のウイングがパックをドロップする前に動き出した。バックラインズパーソンは様子を見ていたが、攻撃側がパックをコントロールし、その後フェイスオフ・バイオレーションのホイッスルを吹いた。レフェリーはどのような処置をとるか？
答え
ディレイ・オブ・ゲーム-フェイスオフ・バイオレーションによるベンチ・マイナー・ペナルティがアタッキング・チームに科される。Rule 76.6。必要に応じて、フェイスオフ・バイオレーションの結果として時計が動き出した場合、その時間を調整する。Rule 76.8。アタッキング・チームにペナルティが科されたため、フェイスオフは違反チームのエンドゾーンにあるフェイスオフスポットのいずれかに移動しなければならない。Rule 76.2。氷上の人数が変更されたため、両チームはプレーヤーを交代することができる。Rule 82.1

ゲームの流れ

状況 76.29

ディフェンディング・ゾーンにおいてディフェンディング・チームにペナルティーのシグナルが出される。パックに触れると同時にホイッスルが鳴り、ゴールの周囲でスクラムが起こる。アタッキング側ポイントプレーヤーはエンドゾーンフェイスオフサークルのトップを越えてゾーンに入る。ペナルティはディフェンディング側にのみに与えられる。続くフェイスオフはどこで行われるか？

答え

ニュートラル・ゾーンの最も近いフェイスオフスポット。Rule 76.2

状況 76.30

エンドゾーンでゴールキーパーがパックをフリーズさせプレーが中断した 。スクラムが起こり、アタッキング側のディフェンスプレーヤーがエンドゾーンフェイスオフサークルのトップを越えてゾーンに入った。このプレーで罰せられるのはディフェンディング・チームだけである。確実なフェイスオフはどこであるか？

答え

ニュートラル・ゾーンの最も近いフェイスオフスポットである 。Rule 76.2。ホイッスルの後スクラムが起こり、アタッキング・プレーヤーがエンドゾーンフェイスオフサークルのトップを越えてアタッキング・ゾーンに入ったときはいつでも、フェイスオフは、違反をした側のアタッキング側ゾーンのブルーラインの外側、最も近いニュートラル・ゾーンのフェイスオフスポットで行われる。Rule 76.2

状況 76.31

続くフェイスオフの地点は A チームのエンドゾーンである。ラインチェンジの手続きが完了し、ラインズパーソンがフェイスオフ開始のホイッスルを吹いた。B チーム（フル出場）は氷上に 4 人のスケーターしかおらず、センターは定位置につき、フェイスオフの準備ができている。ラインズパーソンは何をするか？

答え

ラインズパーソンはフェイスオフのためにパックをドロップする。Rule 76.7

状況 76.32

Aチームに対してディレイド・ペナルティが宣告された。B チームがパックをコントロールしているときに、インテンショナル・オフサイドのホイッスルが吹かれた。フェイスオフはどこで行われるか？

答え

A チームのディフェンディング・ゾーンのフェイスオフスポット。Rule 83.6（Rule 76.2；Rule 15.5 も例外ではない）

状況 76.33

フェイスオフ・バイオレーションを犯すには，オフィシャルがパックを落とさなければならないか？

答え

パックを落とす行為はプレーヤーがフェイスオフ・バイオレーションを犯したかどうかとは関係ない。Rule 76.6

ゲームの流れ

状況 76.34

A チームと B チームのプレーヤーがゴール前でバトルしているとき、レフェリーはディフェンディング・ゾーンにいる A チームにラフィングによるディレイド・ペナルティを宣告する。その後、プレーがニュートラル・ゾーンに移動したところでホイッスルが鳴った。ここですべてのプレーヤーがゴール裏の A チームのディフェンディング・ゾーンに戻り、スクラムが起こる。フェイスオフはどこで行われるか？

答え

最初にコールされたのは A チームに対するラフィングであり（このペナルティは記録される）、 アタッキング側のディフェンスプレーヤーがハッシュマークより下のスクラムに入ったので、 フェイスオフは A チームのディフェンディング・ゾーンの外側のニュートラル・ゾーンで行われる。Rule 76.2

状況 76.35

A チームはアタッキング・ゾーン内でディレイド・マイナー・ペナルティを受ける。B チームはパックを押し上げアタッキング・ゾーンに入った。B チームのフォワードが A チームのディフェンディング・プレーヤーをゴールキーパーにぶつけ、B チームにマイナー・ペナルティが与えられた。次のフェイスオフはどこか？

答え

A チームのディフェンディング・ゾーンのエンドゾーンに最も近い場所。停止に至ったプレーにおいて双方のプレーヤーが規則違反を犯した場合 、そのゾーンに最も近いフェイスオフ地点でその後のフェイスオフを行う。Rule 76.2

状況 76.36

フェイスオフの最中、一方のセンターが手を伸ばしてパックを覆い、その手でフェイスオフを制した。ディレイ・オブ・ゲーム - フェイスオフ・バイオレーション（Rule 76.4）とクロージングハンド・オンパック（Rule 67.2）のどちらのペナルティが科されるか？

答え

適切なペナルティはディレイ・オブ・ゲーム - フェイスオフ・バイオレーションである。Rule 76.4

状況 76.37

A チームが公式記録用紙にプレーヤーを記入しなかった。A チームはこのプレーヤーが氷上にいる間にゴールを決めた。レフェリーはゴールを報告するためにオフィシャルボックスに近づき、不適格プレーヤーを知らされる。ゴールは認められず、そのプレーヤーはゲームから退場させられる。続くフェイスオフはセンターアイスにとどまるか？

答え

特に明記されていないが、Rule 76.2（B チームのエンドゾーン外のニュートラル・ゾーンでのフェイスオフ）。

状況 76.38

フェイスオフの最中、ラインズパーソンがパックをドロップし、それがセンターのスティックに空中で当たりバウンドした。ディフェンディングセンターは両手でスティックを持ったまま、フェイスオフを

ゲームの流れ

奪うために手の甲でパックを扱う。これは Rule 76.4(4) の違反か？

答え
はい。判断の目安として、その行為が通常グローブによるパスとみなされるようなものであれば、この規則が適用され、ディレイ・オブ・ゲーム - フェイスオフ・バイオレーションのマイナー・ペナルティとなる。Rule 67.2

状況 76.39
パックがレフェリーの手に当たり直接ゴールに入り、ゴールが認められなかった。続くフェイスオフはどこか？

答え
続くフェイスオフは、パックがオフィシャルに当たったゾーンの中で最も近いフェイスオフスポットで行われる。Rule 76.2

状況 76.40
アタッキング・プレーヤーが、明確なキック動作でパックを相手ゴールに蹴り入れる。このゴールは認められない。続くフェイスオフはどこか？

答え
プレーの中断はアタッキング側によって引き起こされた（不正に得点されたゴール）ので、フェイスオフはニュートラル・ゾーンの最も近いフェイスオフスポットで行われる。Rule 76.2

状況 76.41
ディフェンディングセンターがフェイスオフを行うために膝をついた。これは正当か？その判断を正当化するルールは？

答え
いいえ、これは正当ではない。Rule 76.4 の第 1 段落に「フェイスオフするプレーヤーは相手側のリンクの端に正対して立つ...」とある。

状況 76.42
両センターがフェイスオフドットの上に身を乗り出し、頭を横並びにして耳と耳を近づけた。これは許されるべきか？ラインズパーソンはどのような処置を取るべきか？これをどのように扱うかを正当化するために、ルールブックのどこを見ればよいか？

答え
これは許されるべきではない。ラインズパーソンは両方のプレーヤーに下がるように指示すべきである。片方または両方が従わない場合は、片方または両方を交代させるべきである。Rule 76.4 第 1 段落には次のように記述されている：「対面のプレーヤーは、スティックのブレードが氷上にある状態で、およそスティック 1 本分離れてリンクの相手側の端に正対して立つ。」ラインズパーソンは、センターがフェイスオフドットの中間点を越えて相手の「スペース」に侵入しないようにしなければならない。もしそうであれば、ラインズパーソンは口頭でそのスケーターに従うよう指示し、もしそうでなければ、そのプレーヤーを交代させるべきである。

ゲームの流れ

状況 76.43

両センターがフェイスオフの上に身を乗り出してヘルメットとヘルメットが接触している。これは許されるべきか？ラインズパーソンはどのような処置を取るべきか？

答え

これは許されない。ラインズパーソンは、ヘルメットとヘルメットの接触に責任があるセンターを直ちに交代させなければならない。もしラインズパーソンがどちらのプレーヤーに責任があるか区別できない場合は、両方のセンターを交代させなければならない。Rule 76.4；Rule 76.6

状況 76.44

センターがフェイスオフのために非常に低くなることを選択した（ワイドスタンス、両手はスティックの低い位置）。このセンターが公平にフェイスオフに参加していることを確認するために、ラインズパーソンは何に注意しなければならないか？

答え

ラインズパーソンは、このセンターが以下の状態であることを確認しなければならない：

1）リンクの相手側の端に正対して立っている

2）足が氷のマークから離れ、相手とスティックの長さ 1 本分ほど離れている

3）体のどの部分でも、フェイスオフドットの中間点を越えて相手の「スペース」に侵入していないこと

4）スティックのブレードがフェイスオフスポットの白い部分にあること。

Rule 76.4

状況 76.45

センターがフェイスオフに勝つために手を使った。フェイスオフを行うラインズパーソンはこれに気づき、直ちにホイッスルを吹き、ペナルティをレフェリーに示す。タイム表示が数秒が経過した。どのような処置を取らなければならないか？

答え

レフェリーは、ディレイ・オブ・ゲーム - フェイスオフ・バイオレーションのマイナー・ペナルティを科し、これはフェイスオフ失敗とみなされるため、ゲームタイムキーパーに時計をプレーの最後の中断にリセットさせる。Rule 76.4

状況 76.46

赤チームにマイナー・ペナルティを科すために、赤チームのディフェンディング・ゾーンでプレーを中断するホイッスルが吹かれる。続くフェイスオフが赤チームのエンドゾーンにあるフェイスオフスポットの一つで行われようとしている。フェイスオフの間、ラインズパーソンが緑チームのセンターを交代させたところ、このプレーヤーがラインズパーソンに個人的な暴言を吐いた。ラインズパーソンは「アンスポーツマンライク・コンダクト」のマイナー・ペナルティを報告する。続くフェイスオフはどこで行われるか？

答え

両チームが同じプレーの中断でペナルティを受けたので、続くフェイスオフは赤チームのエンドゾーンにあるフェイスオフスポットのいずれかで行う。Rule 76.2

ゲームの流れ

状況 76.47
フェイスオフの最中、ラインズパーソンが不注意でパックをバウンドさせ、フェイスオフをしているプレーヤーの一人のグローブに当たった。ラインズパーソンはどうすればよいか？
答え
もしそのようなことがあれば、ラインズパーソンはホイッスルを吹いて直ちにプレーを止め、プレーヤーをリセットし、再度フェイスオフを行い、今度は両プレーヤーにとってフェアであることを確認しなければならない。Rule 76.6

状況 76.48
A チームはマイナー・ペナルティを科される。続くフェイスオフは A チームのエンドゾーンにある 2 つのフェイスオフスポットのうち 1 つで行われる。ラインズパーソンはどちらの場所を選ぶべきか？
答え
これはラインズパーソンの選択ではない。アタッキング・チームがどちらかのフェイスオフスポットを選択できる。Rule 76.2

状況 76.49
B チームにペナルティが科せられた。A チームは、続くフェイスオフを B チームゴールキーパーの右側のフェイスオフスポットで行うことを決定する。フェイスオフが行われる前に、一方のチームがタイムアウトを要求する。タイムアウトが終了した時点で、A チームは決定を変更し、B チームのゴールキーパーの左側でフェイスオフを行うよう要求することができるか？
答え
タイムアウトが要求されたので、フェイスオフの場所を選択するプロセスは再び開始される。Rule 76.2

状況 76.50
A チームにマイナー・ペナルティが科される。続くフェイスオフは A チームのディフェンディング・ゾーンにある 2 つのフェイスオフスポットのうち 1 つで行われる。B チームは、このパワープレーの最初のフェイスオフの場所を選択することができる。プレーが再開され、30 秒後に B チームにペナルティが科せられ、続くフェイスオフは B チームのディフェンディング・ゾーンで行われる。A チームはフェイスオフの場所を選ぶことができるか？
答え
はい。ペナルティが与えられた後の最初のフェイスオフでは、フェイスオフの場所の選択はペナルティをしなかったチームに与えられる。Rule 76.2

状況 76.51
フェイスオフの間，一方のセンターが氷上に片膝をついて倒れ，パックを獲得した。これは正当なプレーか？
答え
これは認められない。センターは静止していなければならないので、氷上に片膝をついて倒れることはできない。センターを交代させ（このフェイスオフで最初の違反の場合）、フェイスオフをやり直す。

ゲームの流れ

状況 76.52

フェイスオフの最中、一方のセンターが片膝をついて倒れたが、ドローに負けた。ラインズパーソンは何らかの処置を取るべきか？

答え

そのプレーヤーはフェイスオフに負けたので、このバイレーションはプレーに影響せず、ラインズパーソンはプレーを続行させなければならない。状況 76.52

状況 76.53

フェイスオフの際、攻撃側のセンターが、守備側のセンターがスティックを置く前にスティックを置いた場合、ラインズパーソンはどうすべきか？

答え

ルールでは、アタッキング・プレーヤーは自身のスティックを後から氷上に置くという選択肢が与えられている。しかし、攻撃側のセンターが先にスティックを置くことを選んだ場合、ラインズパーソンはそれを認め、守備側のセンターがスティックを置いた直後にパックをドロップしなければならない。

RULE 77　ゲームとインターミッションの時計

状況 77.1

ピリオド後半（残り 30 秒）、ショットがガラスに当たり、プレー続行が危険な状態となった。氷上作業スタッフがガラスを交換するために氷上に入ってきた。レフェリーはどうすべきか。あるコーチが、ガラスを直すのを待ちたいと言っている。これは行うべきか？どのルールを参考にするか？

答え

これはレフェリーが決定しなければならないことである。残り 30 秒しかないため、常識的な判断としては、各チームをそれぞれのドレッシングルームに送り、インターミッションを開始し、次のピリオドの開始時に 30 秒を終了することである。レフェリーはこの判断を下す際に、中断時に有効なペナルティや、パワープレーを行うチームにとって新鮮な氷が有利かどうかなど、他の要素も考慮すべきである。Rule 77.3

RULE 78　ゴール

状況 78.1

アタッキング・プレーヤーがパックをゴールに入れようとした瞬間に、ディフェンディング・プレーヤーによってゴールが前方に倒された。このゴールは認められるのか？

答え

ここには 2 つの要素がある。ゴールペグがそのままの位置にあり、パックがゴールに入った場合、そのゴールは認められる。ゴールが傾いてショットされたパックがネットに入らなかった場合、レフェリーの見解では、ゴールが正常な位置にあれば入ったと思われる場合、レフェリーはゴールを与えることができる。Rule 78.4；Rule 63.7

ゲームの流れ

状況 78.2

ゴール前のスクラムの中で、ディフェンディング・プレーヤーが明らかにパックをキックし（明確なキックの動作を伴う）、パックが自陣のゴールに入った。このゴールはカウントされるのか？

答え

Rule 78.4「ディフェンディング・プレーヤーが何らかの方法でパックをゴールに入れた場合、ゴールは成立する。」

状況 78.3

あるプレーヤーが、時計に表示されない同時のペナルティを受けた。ペナルティを受けたプレーヤーは負傷してドレッシングルームに入る 。ペナルティタイムの終了後 、その終了後のプレーの中断前に、負傷したプレーヤーはベンチに戻る。そのプレーヤーはプレーに参加できるのか（その場で交代できるのか）、それともそのスケーターは不適格なプレーヤーとみなされるのか。ルールブックのどこに記載がありるか？

答え

交代したプレーヤーはペナルティ・ボックスから正当に出場していないので、そのスケーターは不適格なプレーヤーと見なされなければならない。Rule 8.1；Rule 68.1；Rule 78.5

状況 78.4

A チームのプレーヤーがペナルティ・ボックス内にいて、ペナルティタイム終了前にペナルティタイムキーパーによって誤って放された。レフェリーによって B チームに対するディレイド・ペナルティが宣告されたとき、A チームはアタッキング・ゾーンでパックをコントロールしていた。ペナルティのためにプレーが中断する前に、A チームはペナルティを受けたプレーヤーが氷上にいる間にゴールを決める。プレーが中断されたとき、そのプレーヤーが誤って放されたことにレフェリーは気がついた。レフェリーはどうするか？

答え

A チームのゴールは認められない。A チームのプレーヤーはペナルティ・ボックスに戻り、未消化の時間を果たさなければならない。ペナルティタイムキーパーのミスにより釈放されたプレーヤーであるため、A チームに追加ペナルティはない。Rule 70.9（Rule 78.5；Rule 70.4；Rule 35.1）

状況 78.5

アタッキング・チームがアタッキング・ゾーンで攻撃している。ゴールキーパーが不注意からゴールに倒れ込み、片方のポストのペグが氷の穴から出ているように見え、その様子がバックラインズパーソンにも見える。両レフェリーともネットが傾いて外れたことに気づいていない。ラインズパーソンが後方のレフェリーの注意を引く前に、アタッキング・プレーヤーがパックをゴールにシュートした。これは正当なゴールか？

答え

このゴールは認められない。ゴールが外れていることに気付いたバックラインズパーソンは、レフェリーの注意を引くことができなければ、プレーを止めなければならない。ラインズパーソンはパックがゴールに入る前にこれを試みるべきである。Rule 78.5

ゲームの流れ

状況 78.6

B チームにディレイド・ペナルティが示されている。A チームのディフェンスマンが自陣のブルーラインでパックを持っている。B チームのプレーヤーが A チームのディフェンスプレーヤーをスティックチェックし（パックには触れていない）、その結果パックは A チームのゴールに入った。これは良いゴールか？

答え

ノーゴール。ゴールが認められるのは、違反したチームが自陣のゴールにパックをショットした場合のみである。「... 違反したプレーヤーによるディフレクション、または違反したプレーヤーによる物理的行為は、正当なゴールとはみなされない。」Rule 78.5

状況 78.7

クリーズエリアでスクラムになっている時に、レフェリーがホイッスルを吹こうとしたとき、パックはフリーとなりゴールラインを越えた。テレビのリプレーでは、ホイッスルが鳴る前にパックがゴールラインを越えていたことが明らかに映っている。レフェリーの裁定は？このプレーはビデオレビューの対象となるか？

答え

裁定はノーゴールである。実際にホイッスルを吹くには人間的な要素が含まれるため、レフェリーは物理的にホイッスルを吹くことができる前にプレーが止まったとみなすことができる。したがって、パックがゴールに入る前にプレーが終わったとみなされたかどうかはレフェリーの判断である。これはビデオレビューコンサルタントによるレビューの基準にはならない。パックはゴールラインを越えたので、ビデオレビューコンサルタントはレフェリーに話をするよう要求する可能性が高いが、レフェリーはビデオレビューコンサルタントに対し、プレーが止まっていると判断されたのでゴールは与えられないと伝えなければならない。レフェリーはこのメッセージをチームに伝え、パブリック・アナウンサーにアナウンスさせる。Rule 31.2；Rule 37（レビューの基準として記載されていない）；Rule 78.5

状況 78.8

相手側ゴール前のアタッキング・プレーヤーが陣地争いをしていてヘルメットを失くした。ポイントからのショットが行われ、パックが氷上にいるプレーヤーのヘルメットの中に入り止まった。ホイッスルが吹かれる前に、ヘルメットのないプレーヤーが直ちにヘルメットを（中のパックと一緒に）ゴールにシュートする。このゴールはカウントされるか？

答え

ゴールはカウントされず、ヘルメットを着用せずにプレーしたプレーヤーにペナルティが科される。Rule 9.6

状況 78.9

A チームはパワープレー中である。B チームのゴール付近でのスクラムの間、A チームが得点したように見えたが、パックがゴールラインを越えたかどうかレフェリーの誰も確信が持てず、プレーは続行された。A チームに対してディレイド・ペナルティのシグナルがだされる。ディレイド・ペナルティのホイッスルが鳴り、プレーが中断し、ペナルティが科される。先ほどのプレーがゴールとみなされた場合、レフェリーの判断はどうなるか？

ゲームの流れ

答え
A チームによる明らかなゴールが確認された場合、B チームのペナルティは失効し、A チームに対するペナルティは通常の方法で科せられる。また、時計はゴールのあった時間にリセットされる。Rule 37.2

状況 78.10
A チームはオフィシャルに目撃されていないゴールを決め、B チームにマイナー・ペナルティが科せられるまでプレーは止まらない。レフェリーはどのような手順に従うか？もしビデオレビューで正当なゴールであることが証明された場合でも、B チームはマイナー・ペナルティを科せられるか？
答え
この最初のホイッスルのときに、ビデオレビューコンサルタントがプレーを確認する。もしこれがゴールであると判断された場合、時計はパックがゴールに入った時間にリセットされる。B チームは得点されたチームであるため、このプレーに対してペナルティは科されない。Rule 37.2

状況 78.11
レフェリーがコーナーにいて、同じコーナーからゴールに向かってパックが素早くパスされた。レフェリーはパックを見失い、その結果ホイッスルを吹く。プレーが止まると、レフェリーはパックがゴールの中にあることに気づく（これがレフェリーがパックを見ることができなくなった理由である）。これはビデオレビューで確認できるプレーか？
答え
はい。そして、これは他のオンアイス・オフィシャルとも話し合うべきである。このようなプレーと、レフェリーがゴールのすぐそばにいるプレーとの違いは、ゴールにいるとき、レフェリーはパックを見ることができ、プレーを止めるためにホイッスルを吹いている間に、パックがネットに入ってしまうことである。これはレビューの対象とはならない。Rule 37.3

状況 78.12
アタッキング・ゾーンにいるプレーヤーがスティックを折った。コーナーでのパックの争奪中に、このアタッキング・プレーヤーが相手側のプレーヤーのスティックを掴んで引き離し、そのスティックでプレーを始めた。このプレーヤーは味方からパスを受け、相手のスティックでゴールを決めた。このゴールは合法か？このようなことが起こらないようにするために何かできたとしたらそれは何か？
答え
ゴールを決めたプレーヤーは正当なスティックを所有していなかったので、これは正当なゴールではない。スティックを破損したプレーヤーは、プレーヤーズ・ベンチからスティックを受け取るか、氷上にいるチームメイトからスティックを手渡されるしかない。アタッキング・プレーヤーは相手のスティックを奪うか、少なくとも不正なスティックでプレーに参加したことに対して罰せられるべきだった。Rule 78.4；Rule 78.5；Rule 10.3

状況 78.13
ゴール前での接戦の後、ラインズパーソンがエンドゾーンのフェイスオフスポットでフェイスオフを行っている。パックをドロップした後、ホーンが鳴り、ビデオレビューコンサルタントがレビューの時間を増やしたがっている。どうすればよいか？

ゲームの流れ

答え
パックがドロップされたら、ゴール前でのプレーをそれ以上レビューすることはできない。接戦となったプレーの後、オフィシャルは次のフェイスオフの準備のために少し時間を取るか、レフェリーの 1 人がオフシャルボックスに進み、ビデオレビューコンサルタントと連絡を取り、すべての疑惑を取り除くことができる。Rule 37.2

状況 78.14
B チームのゴール前でスクラムが起こる。A チームのプレーヤーの 1 人がゴールを決めたかのように喜ぶが、レフェリーはこれを認めない。プレーは続けられ、B チームがゴールを決めた。レフェリーはタイムキーパーから、このプレーがレビュー中であることを知らされる。レビューの結果、ビデオレビューコンサルタントは、A チームが 10 秒前に得点していたが、A チームのフォワードの明確なキック動作の結果、パックはゴールラインを越えていた。レフェリーの判定は？
答え
A チームの明らかなゴールは不正にゴールに入ったとみなされ、ゴールは認められず、ゴールが認められたプレーは止まるべきであったので、同じプレーで B チームにゴールは与えられない。時計は A チームの不正ゴールの時間まで時計をリセットし、プレーを再開しなければならない。Rule 37.2

状況 78.15
試合終了間際、A チームが 1 点リードしているとき、B チームはエキストラアタッカーのためにゴールキーパーを引き揚げる。A チームは自陣のディフェンディング・ゾーンでパックをコントロールし、パックをニュートラル・ゾーンに高くフリップする。パックが氷上を進んでいる間、A チームのプレーヤーがペナルティを犯し、レフェリーが腕をあげてペナルティを宣告する。パックは氷を下り続け、B チームのゴールに入る。このゴールはカウントされるか？
答え
このゴールはカウントされない。Rule 78.5 には、「ディレイド・ペナルティの宣告の間、ペナルティをしたチームは、ペナルティをしなかったチームが自陣のネットにパックをショットしない限り得点できない」と書かれている。この場合、レフェリーはパックが B チームのゴールに入る可能性があると見てホイッスルを吹き、A チームにペナルティを科す。

状況 78.16
3 対 2 で試合の残り 3 分 30 秒、相手選手がゴールキーパーの前でポジションを激しく争っている。バトルが続く中、あるプレーヤーがゴールに接触し、支柱の 1 本がプラスチック製のペグの上に浮き上がった。そのため、ゴールは通常より数センチ高くなった。アタッキング側のポイントプレーヤーがブルーラインから放った強烈なスラップシュートがクロスバーに当たり、ゴールに入った。このシュートは、フレームが 2 センチほど高くなければ、おそらくゴールを外れていただろう。これはゴールなのか？
答え
フレキシブルペグの少なくとも一部がゴールポストと氷の穴の両方の内側に残っているとき、ゴールフレームは適切な位置にあるとみなされる。フレキシブルペグは曲がっていてもよいが、フレキシブルペグの少なくとも一部が氷の穴とゴールポストの中に残っていれば、ゴールフレームは適切な位置にある

ゲームの流れ

とみなされる。ゴールフレームは片方の支柱の上で多少持ち上がっていてもよいが、フレキシブルペグがまだ氷の穴とゴールポストに接触していれば、ゴールフレームはずれているとはみなされない。Rule 78.4

状況 78.17

A チームのクリーズエリアでスクラムが起こる。レフェリーはパックに集中し、パックがゴールラインを越えたのを見てゴールの合図をする。直ちに A チームのゴールキーパーは、スクラムの中でゴールキーパーインターフェアランスがあったと抗議する。レフェリーがオフィシャルボックスに向かうと、他のオフィシャルも加わり、レフェリークリーズに集まる。他の 3 人のオフィシャルは全員、ゴールキーパーが攻撃側のフォワードによって正常なポジションでのプレーを妨害されたため、このゴールはカウントされるべきではないという意見で一致する。ラインズパーソンの一人は、アタッキングフォワード B47 の行為は故意であり、ゴールキーパーインターフェアランスによるマイナー・ペナルティに値すると述べる。レフェリーはどのような処置をとるか？

答え

ゴールは認められないが、ペナルティはどちらのレフェリーも目撃していないため、このプレーにペナルティは科せられない。Rule 78.5

状況 78.18

A チームに対してディレイド・ペナルティが宣告され、ペナルティショットが要求される。B チームのゴールキーパーがプレーヤーズ・ベンチに進み、エキストラアタッカーと交代する。B チームはうっかりして氷上のパックを自陣の空いたネットにショットしてしまった。それでも B チームはペナルティショットを得るか？

答え

プレーが中断したときに与えられるゴールは 1 点のみである（Rule 37.2）。したがって、B チームが自陣のゴールにパックをショットした結果、A チームにゴールが与えられ、B チームにペナルティショットを与えるはずだった反則はマイナー・ペナルティに戻り、通常の方法で与えられる。

状況 78.19

B チームのプレーヤーがマイナー・ペナルティを受けているため、A チームがパワープレーを行っている。その状況で、A チームに対してディレイド・マイナー・ペナルティのシグナルが出された。B チームはゴールキーパーをベンチに下げ、攻撃のプレーヤーを 1 人増やした。その際、B チームは誤って自軍のゴールにパックを打ち込んでしまった。どのような処置がとられるべきか？

答え

A チームにゴールが記録される。A チームに対して予告されていたマイナー・ペナルティが科される。A チームのゴールにより、B チームのマイナー・ペナルティが解除される。

状況 78.20

第 3 ピリオド終了のブザーと同時にゴールが決まった。パックは終了前にゴールラインを越えていたが、タイムキーパーが終了前にゲームクロックを止めることができずに、レフェリーはゴールを認めた。このゴールを確定させるために、フェイスオフを行わなければならないか？

ゲームの流れ

答え
フェイスオフは必要ない。パックがゴールラインを越えた時点で、レフェリーが時間切れでないと判断した場合でも、時計は 00.00.00 であるため、フェイスオフを行う必要はない。この場合、ビデオレビューによってゴールが確認されたとしても、ビデオレビューの結果、パックがゴールラインを越えたのが残り 1 秒未満であれば、フェイスオフは必要ない。

RULE 79　　ハンドパス

状況 79.1
A チームは空中でパックを弾いてディフェンディング・ゾーンからパックをクリアしようとした。B チームのディフェンスプレーヤーはゾーン内でパックをキープしようとしたが、結局、 ニュートラル・ゾーンからアタッキング・ゾーンに手でパックを戻した。ラインズパーソンはまだゾーン内にアタッキング・プレーヤーがいるとしてディレイド・オフサイドを指示する。B チームのプレーヤーの 1 人が故意にパックをプレーした。ハンドパスとオフサイド（インテンショナル）の 2 つの理由でホイッスルが吹かれる。どちらの違反が優先され、その後のフェイスオフはどこで行われるか？
答え
インテンショナル・オフサイドの違反が優先され、その後のフェイスオフは、違反をしたチームに最も少ないテリトリアルアドバンテージを与える場所で行われなければならない。したがって、フェイスオフは B チームのディフェンディング・ゾーンにあるフェイスオフスポットの 1 つでなければならない。Rule 83.6

状況 79.2
ディフェンディング・ゾーンにいる A34 は、手を使ってパックを味方に渡した。その見方はニュートラル・ゾーンでスティックを使ってパックを扱ったが、両選手ともスケートは明らかにまだディフェンディング・ゾーン内にあった。この場合、ハンドパスとして止めるべきか？
答え
はい、ハンドパスのためにプレーを止めなければならない。決定要因はパックの位置であり、この場合はニュートラル・ゾーンである。Rule 79.2

状況 79.3
ディフェンディング・ゾーンの奥にいる A チームのプレーヤーがブルーライン近くの味方にパックをパスしようとした。そのパックは空中にそれ、明らかにニュートラル・ゾーンにいる A チームのプレーヤーが、まだ A チームのゾーンの中にあるそのパックを手で味方に打ち返した。レフェリーはどうすべきか？
答え
プレーヤーの手が接触したときのパックの位置が決定要因であるため、プレーの続行を認めるべきである。Rule 79.2

ゲームの流れ

状況 79.4

A チームのプレーヤーは自陣のディフェンディング・ゾーン内でスティックを失った。そのプレーヤーはパックを空中でニュートラル・ゾーンに向かって手で打った。パックは相手プレーヤーの体にあたり、ニュートラル・ゾーンにいる別の A チームプレーヤーのところへ行った。レフェリーは何をするか？

答え

レフェリーはプレーを中断し、続くフェイスオフは A チームのディフェンディング・ゾーンで行われる。Rule 79「ポゼッションとコントロール」の概念

状況 79.5

B チームのプレーヤーがディフェンディング・ゾーン内で手でパックを打ち、別の B チームのプレーヤーがディフェンディング・ゾーンの外側でスティックでパックを拾い上げた。これはハンドパスとしてホイッスルが吹かれるか？

答え

Rule 79.2 - ハンドパスである。そのプレーは止められなければならない。B チームのプレーヤーがプレーした場合、パックの位置が決定要因となる。

状況 79.6

アタッキング・プレーヤーが手でパックを叩き、相手側ゴールキーパーの胸に当たって跳ね返り、他のアタッキング・プレーヤーに拾われた。レフェリーは次のことを行う：

a. 違反したチームがパックをコントロールし保持しているので 、プレーの続行を認める。

b. パックがゴールキーパーに当たった時点で直ちにプレーを止める。

c. 違反したチームのプレーヤーがパックをプレーしたら直ちにプレーを止める。

d. プレーを続けさせ、ゴールが決まればそのゴールを認める。

答え

c. Rule 79.1

状況 79.7

A チームのプレーヤーがアタッキング・ゾーンでパックを手で叩いた。そのパックが（自分自身を含む）いずれかのプレーヤーのスティックや体に当たって方向を変え、味方のプレーヤーに渡った。これは適法か？

答え

いいえ。プレーは停止され、ニュートラル・ゾーンでフェイスオフが行われる。パックが何らかの物体（スティック、身体、味方、相手、レフェリーなど）に当たって方向が変わったとしても、ハンドパスの違反は無効にならない。この違反が無効となるのは、手でプレーしたプレーヤー、または相手プレーヤーがパックを確保し、完全にコントロールした場合のみであり、その時点でプレーを続行でる。

ゲームの流れ

RULE 80　　パックに対するハイスティッキング

状況 80.1

ディフェンスがディフェンディング・ゾーンからパックをクリアしようとした。アタッキング側のディフェンス側のプレーヤーがアタッキングブルーラインのすぐ内側でハイスティックでパックを空中から落とし、パックはアタッキング・ゾーンのブルーラインのすぐ内側に落ちた。両チームともパックをプレーしない。 その後のフェイスオフはどこで行われるか？

答え

続くフェイスオフは、ホイッスルが吹かれたときにパックがあったゾーンのエンドゾーンのフェイスオフスポットで行われる。アタッキング・チームがハイスティックで不正にパックに接触したため、正当にパックをプレーできるのはディフェンディング・チームだけであり、彼らはパックのプレーを放棄した。したがって、フェイスオフはエンドゾーンにとどまり、そのゾーンに最も近いフェイスオフスポットに行かなければならない。Rule 72.3；Rule 76.2；Rule 80.1

状況 80.2

B チームのプレーヤーがハイスティックでパックと接触した。パックは A チームのプレーヤーの胸でバウンドした。パックは A チームによって触られたので、他の B チームのプレーヤーはそのパックをプレーすることができるか？

答え

相手側プレーヤーまたはオフィシャルのディフレクションはパックをコントロールしたことにはならないので、そのプレーは止めなければならない。Rule 80.1

状況 80.3

プレーが A チームのエンドゾーンにあるとき、パックがゴールに放たれ空中にそれる。A49 がパックをゾーンから出そうとしてハイスティックした。まだ空中にあるときに B37 もパックをハイスティックし、パックは A チームのプレーヤーのところへ行った。コールがあるとすればどのようなものか？

答え

B37 によるパックのハイスティックはパックのコントロールとは見なされないので、A49 によるパックのハイスティックの違反に対して、A チームのプレーヤーがパックをプレーした時点でプレーは止められる。続くフェイスオフは A チームのディフェンディング・ゾーンにあるフェイスオフスポットの一つで行われる。Rule 80.1；Rule 80.2

状況 80.4

A チームはアタッキング・ゾーンにいる。パックが氷から離れ、A チームのプレーヤーがスティックでパックを落とした。エンドゾーンにいるレフェリーはハイスティックによる反則の可能性を取り除いたが、ニュートラル・ゾーンにいるレフェリーは反則のホイッスルを吹いた。続くフェイスオフはどこで行われるか？

答え

このようなことが起こった場合、オンアイス・オフィシャルは正しいフェイスオフを行うために協議しなければならない。

ゲームの流れ

状況 80.5

アタッキング・プレーヤーは肩より下だがクロスバーの高さより上でハイスティックし、味方の足に当たって相手のゴールに入った。ゴールかノーゴールか？

答え

ノーゴール。アタッキング・プレーヤーが、クロスバーの高さより高い位置でパックに接触し、直接、または プレーヤーやオフィシャルに当たってパックが相手ゴールに入った場合、そのゴールは認められない。Rule 80.3

状況 80.6

アタッキング・プレーヤーはスティックのブレードが明らかにクロスバーの上にくるようにスティックを保持している。パックがポイントからショットされ、このプレーヤーの腰の近くのスティックのシャフトに接触し、直接相手ゴールに入った。このゴールはハイスティックで接触されたとして取り消されるべきか？

答え

いいえ、これはゴール。決定要因はパックがスティックのどこに接触したかである。パックがクロスバーの高さより下でスティックと接触し、ゴールに入った場合、このゴールは認められる。Rule 80.3；Rule 37 も参照のこと。

状況 80.7

A チームのプレーヤーがクロスチェックにより B チームのゴールの前で仰向けに寝ている。氷上に横たわっているとき、そのプレーヤーは肩の上でスティックとパックを接触させ、B チームのゴールに入った。このゴールはカウントされるか、それとも認められず、フェイスオフはニュートラル・ゾーンに持ち込まれるか？

答え

肩の「通常の」高さより上でパックに接触してもゴールは決まらない。この場合、プレーヤーは氷上に横たわっていたので、接触は通常の肩の高さより上ではなかっただろう。しかし、パックがクロスバーの高さより上で接触してもゴールは決まらない。これがこの場合の判断材料となる。また、パックのスティックのどこに接触したかを判断するためにビデオレビューが必要になるかもしれない。Rule 80.3

状況 80.8

ディフェンディング・ゾーンにいるプレーヤーがパックを通常の肩の高さより上でハイスティックした。パックは自チームのゴールキーパーに当たってゴールに入った。このゴールはカウントされるか？

答え

はい、ゴールはカウントされる。ゴールキーパーに当たったからと言って、ゴールキーパーがパックをコントロールしたとは見なされない。Rule 80.3

状況 80.9

a. アタッキング・プレーヤーがクロスバーの高さより上であるが通常の肩の高さより下でパックにスティックで接触させた。パックはディフェンディング・プレーヤーに当たりゴールに入った。このゴールはカウントされるか？

ゲームの流れ

b. アタッキング・プレーヤーが、クロスバーの高さより上であるが肩の通常の高さより下でスティックで接触させた。パックは味方のプレーヤーに当たりゴールに入った。このゴールはカウントされるか？
c. アタッキング・プレーヤーが、クロスバーの高さより上であるが肩の通常の高さより下でスティックで接触させた。パックはスティックの味方の上にあり、味方がパックをショットして得点した。このゴールはカウントされるか？

答え
a. ノーゴール。アタッキング・プレーヤーがクロスバーの高さよりも高い位置でスティックでパックに接触したので、ゴールはカウントされない。
b. ノーゴール。アタッキング・プレーヤーがクロスバーの高さよりも高い位置でスティックでパックに接触したので，ゴールはカウントされない。
c. ゴール。ゴールは味方のショットの結果であり、味方がパックを空中から打ったものではない。プレーヤーがパックに接触したとき、スティックはプレーヤーの肩の高さより下にあったので、不正なハイスティックではなかった。Rule 80.3 はゲームオフィシャルに上記の判断の概要を示している。

状況 80.10
A チームがパックをゾーンに入れる。ディレイド・オフサイドのシグナルが出される。ディレイが進行している間、B チームがパックをハイスティックしてタッチした。続くフェイスオフはどこであるか？

答え
この場合 、続くフェイスオフは B チームのディフェンディング・ゾーンのフェイスオフスポットのいずれかで行われる。Rule 80.2

状況 80.11
ディフェンディング・ゾーンに入ったアタッキングウイングがパックをダンプした。パックはゴールの後方のフェンス（ダッシャー）でバウンドしてゴールの上に止まった。アタッキングセンターがスティックでパックをゴールから動かす。パックは氷上に落ち、このセンターがゴールのオープンサイドでゴールを決める。これはゴールか？

答え
パックがゴールの外でスティックと接触したときに、スティックが肩の高さより上になかったことを条件として、これはゴールとみなされる。パックがゴールにシュートされる前にパックがクロスバーの高さより上で当たっていなかったので、これはグッドゴールである。Rule 80

状況 80.12
A チームがパワープレー中で、アタッキング・ゾーンにいたとき、A チームのプレーヤーがパックをハイスティックした。パックは B チームのゴールキーパーに渡り、ゴールキーパーは直ちにパックをフリーズした。続くフェイスオフはどこで行われるか？

答え
続くフェイスオフは B チームのエンドゾーンにあるフェイスオフサークルの一つで行われる。Rule 80.1(1)

ゲームの流れ

状況 80.13

アタッキング・プレーヤーがパックを相手側ゴールにハイスティック（クロスバーの高さより上）し、ゴールが認められなかった。その後のフェイスオフはどこか？

答え

プレーの中断はアタッキング側によって引き起こされた（不正に得点されたゴール）ので、フェイスオフはニュートラル・ゾーンの最も近いフェイスオフスポットで行われる。Rule 76.2；Rule 80.4

状況 80.14

シュートアウト中のプレーヤーがパックを拾い上げ、パックを抱えながらネットに向かう。そのプレーヤーがゴールに近づいたある時点で、そのプレーヤーがショットをする前にパックが肩の高さより上に出た。どうなりるか？

答え

ショットは直ちに止められ、完了したものとみなされる（ノーゴール）。Rule 80.1

状況 80.15

A チームのプレーヤーが、肩の通常の高さより高い位置でスティックを使ってパックに触れた。パックは相手プレーヤーに当たって方向が変わり、A チームの別のプレーヤーのところへ行った。プレーの続行は認められるか？

答え

いいえ。プレーを停止し、フェイスオフを行う。スティック、身体、味方、相手、あるいはレフェリーなど、何かに当たってパックの軌道が変わったとしても、ハイ・スティッキング・ザ・パックの事実は無効にならない。この反則が無効となるのは、相手チームがパックを確保し、完全にコントロールした場合のみであり、その場合に限りプレーを続行できる。

RULE 81　　アイシング

状況 81.1

A チームがセンターレッドラインのディフェンス側から B チームのゾーンにパックをショットし、バックラインズパーソンがアイシングの可能性を示し、フロントラインズパーソンがディレイド・オフサイドのシグナルを出した。A チームのプレーヤーはゾーンをクリアしようとせず、パックを追いかけている。ラインズパーソンの目には、B チームのプレーヤーが先にパックに到達することは明らかである。ラインズパーソンはオフサイドの判定をするためにプレーを止めるのか、それともアイシングの判定をするために B チームのプレーヤーが先にフェイスオフ地点に到達することを認めるのか？

答え

記述されたシナリオでは、ラインズパーソンは、ディレイド・オフサイドのアタッキング・プレーヤーによる物理的接触がないと判断したため、アイシングコールのために B チームのプレーヤーが先にフェイスオフスポットに到達することを許可する。

注意: しかし、（オフサイドにいる）アタッキング側フォワードが先にパックに到達したり、相手と接触する可能性があるとラインズパーソンが感じた場合、ラインズパーソンはプレーを止め、オフサイドを先にコールしなければならない。Rule 81.1；Rule 83.3

ゲームの流れ

状況 81.2

パックが中央のレッドラインのディフェンディング側からショットされ、バックラインズパーソンがアイシングの可能性を合図した。パックはゴールポストに当たり、ゴールを大きく越えてゴールラインを越えた。この場合でもアイシングの可能性は有効か？

答え

アイシングの可能性はまだ有効である。パックは相手側プレーヤーのどこにも触れていないので、アイシングの可能性はまだ有効である。Rule 81.1；Rule 81.5

状況 81.3

B チームがアイシングの可能性のあるパックをショットした。パックはオフィシャルに当たってそのままいった。これはまだアイシングの可能性があるのか？

答え

はい、これはまだアイシングの可能性がある。Rule 81.1；Rule 85.4

状況 81.4

A チームに対してディレイド・ペナルティが科されようとしている状況で、B チームがアイシングを犯した。この場合、次のフェイスオフは A チームのディフェンディング・ゾーンで行われることになる。しかし、パックがドロップされる前に、B チームがマイナー・ペナルティに相当する反則を犯した。この場合、フェイスオフはどこで行われるか？

答え

特に引用すべき規則はないが、アイシング（Rule 81.2）を参考にしなければならない。両チームにペナルティが科されるため、一方のチームにペナルティが科された場合のフェイスオフの場所に関する Rule 15.5 と Rule 76.2 は適用されない。したがって、フェイスオフの場所は、プレーが停止した本来の理由、すなわち B チームによるアイシングによって決定されなければならない。フェイスオフは、B チームのディフェンディング・ゾーンにあるエンドゾーンのフェイスオフスポットのいずれかで行われるものとし、優先されるフェイスオフドットを選択し、A チームからラインズパーソンに伝えるものとする。

状況 81.5

バックラインズパーソンがアイシングの可能性のあるプレーを示した。パックがディフェンディング・ゾーンに侵入するとき、ゴールキーパーは足をクリースに入れたままスティックをパックの方に伸ばした。ゴールキーパーは、アイシングがコールされようとしていることに気づくと、スティックを引っ込める。ラインズパーソンは何をするか？

答え

ラインズパーソンはアイシングを無効とする。ラインズパーソンの見解では、ゴールキーパーがパックをプレーしているふりをしたり、パックをプレーしようとしたり、アイシングの際にパックの方向にスケートをしたりした場合、その可能性のあるアイシングはコールされず、プレーは続行される。Rule 81.3

ゲームの流れ

状況 81.6

A チームはアイシングをし、パックを追いかけた結果、プレーの中断時にファイトが発生した。両プレーヤーにそれぞれファイティングによるメジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。このプレーに他の罰則はない。ペナルティが科されたので、A チームはパックをアイシングしたにもかかわらず、ラインチェンジを行うことができるか？

答え

両チーム 1 名ずつに科されたゲーム・ミスコンダクトを伴うファイティングメジャーは、両チームのオンアイス人数には影響しない。パックをアイシングしたチーム（A チーム）は、ペナルティを受けたプレーヤーの交代を行うことのみが許される。B チームはラインチェンジを行うことができる。Rule 81.4；Rule 82.1

状況 81.7

A チームがパックをアイシングし、B チームがラインチェンジを行う。A チームのエンドゾーンでフェイスオフが行われようとしたとき、ガラスが破損していることが判明した。再開の前に長い遅延がある。長い遅延があったため、A チームはラインチェンジを行ってよいのか？

答え

いいえ。ラインチェンジが許されるのは、どちらかのチームのオンアイスの数に影響するペナルティが科されたときだけである。Rule 81.4

状況 81.8

ラインズパーソンがアイシングを宣告し、アタッキング・チームがラインチェンジを行い、フェイスオフを行う準備が整った後、アタッキング・チームがマイナー・ペナルティを犯し、 同時にディフェンディング・プレーヤーにもマイナー・ペナルティが科された。フェイスオフはどこで行われるか？

答え

続くフェイスオフはエンドゾーンのフェイスオフドットにとどまる。Rule 81.2。氷上の人数は変わらないので、アイシングをしたチームはプレーヤーを交代することができないが、ペナルティを受けたプレーヤーの交代を行うことのみが許される。Rule 81.4；Rule 82.1

状況 81.9

A チームがアイシングになりうるパックを放ち、A チームのエンドゾーンで B チームのプレーヤーにディフレクトしたが、センターレッドラインを越える前に再び A チームのプレーヤーにディフレクトした。これはアイシングか？

答え

アイシングはない。「自陣からショットされたパックが、センターレッドラインを越える前に何度か当たった場合、そのうちの少なくとも 1 つが相手プレーヤーに当たっていれば、アイシングは無効となる。」 Rule 81.5

状況 81.10

ラインズパーソンがアイシングの合図をする。パックは端から端まで滑り、エンドボードにぶつかり、ゴールの裏側に乗った。ゴールキーパーがゴールネットを叩いて（パックには決して触れない）パック

ゲームの流れ

をネットから外した。これはアイシングか？

答え
いいえ、これはアイシングではない。「ゴールキーパーがパックをゴールの裏からはずすために何らかの行動をとった場合、アイシングはコールされない。」Rule 81.5

状況 81.11
第 3 ピリオド、残り 4 分 35 秒、A チームがパックをアイシングする。アイシングプレーが完了したとき、A チームのプレーヤーにボーディングのメジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティ、B チームのプレーヤーにマイナー・ペナルティとミスコンダクト・ペナルティが科せられた。フェイスオフはどこで行われるか？ペナルティタイムはどうなるか？ A チームはプレーヤーを交代できるか？

答え
フェイスオフは A チームのエンドゾーンで行われる。第 3 ピリオドの残り 5 分を切った時点でペナルティがあったため、A チームは 3 分間、1 人少ない状態でプレーすることになる。数的不利が生じたため、A チームはプレーヤーを交代することができる。Rule 19.4；Rule 81.2；Rule 81.4

状況 81.12
残り時間 40 秒のとき，白のゴールキーパーがエクストラアタッカーを求めてプレーヤーズ・ベンチに向かう途中である。青チームが白ゴールキーパーの真横を通過する氷上にパックを放つ。ゴールキーパーはそれが通りすぎるのを見たが、そのままベンチに向かった。ラインズパーソンはどのような裁定を下すか？

答え
Rule 81.3。「ゴールキーパーがエキストラアタッカーと交代するためにプレーヤーズ・ベンチへ向かおうとしてクリーズから正当に出ていて、パックをプレーしようとはしていない場合、アイシングは本節のもとで無効とされるべきではない。」

状況 81.13
ゴール前のスクラムの中でディフェンスが手でパックを打った。これはアイシングか？

答え
はい、これはアイシングである。Rule 81.1

状況 81.14
第 3 ピリオド後半、A チームが 1 点リードしている。A チームのゴールキーパーが、エキストラアタッカーと交代するためにプレーヤーズ・ベンチに向かってスケーティングを始めた。ゴールキーパーがベンチに向かう途中、B チームがパックをアイシングする。ゴールキーパーは立ち止まり、ショットされたパックの方向に一歩踏み出した後、ゴールクリーズエリアに戻るために後ろ向きにスケートをすることを選択した。このような状況でラインズパーソンは何をすべきか？

答え
パックが放たれたときゴールキーパーは正当にゴールクリースの外にいたが、ゴールキーパーが放たれたパックに向かって動いたので、アイシングは取り消され、プレーの続行が認められるべきである。Rule 81.3

ゲームの流れ

状況 81.15

B チームにディレイド・ペナルティが宣言されている。A チームはパックをアイシングする。アイシングのホイッスルが吹かれたとき（およびペナルティーのホイッスルが吹かれたとき）、その後のフェイスオフはどこで行われるか？ A チームはアイシングのコールを受けたので、ラインチェンジができるか？

答え

続くフェイスオフは B チームのディフェンディング・ゾーンで行われる。Rule 15.5(4)；Rule 76.2；Rule 81.2。A チームは、氷上の人数に影響があるので、プレーヤーの交代を行うことができる。Rule 81.4

状況 81.16

黄色プレーヤーがディフェンディング・ゾーンからセンターレッドラインのすぐ先にいる味方にパスを出そうとした。緑色プレーヤーにパックをプレーするチャンスがあったが、意図した黄色レシーバーがスティックを持ち上げてしまい、パックはエンドゾーンまでいってしまった。裁定は？

答え

通常このアイシングプレーは、緑色プレーヤーがパックをプレーできたので放棄されるが、この場合、黄色プレーヤーがスティックを持ち上げてそのプレーヤーがパックをプレーするのを妨げたので、アイシングは黄色に対してコールされなければならない。Rule 81.1

状況 81.17

青のプレーヤーがアタッキング・ゾーンでパックを持っている。このプレーヤーはアタッキング・ゾーンのブルーラインの内側で味方にパックをパスしようとした。緑のプレーヤーがスティックに手を伸ばしてパスをブロックし、パックが氷をずっと下って青ゾーンまできた。これはアイシングか？

答え

いいえ、これはアイシングではない。Rule 81.5

状況 81.18

青チームがアイシングをした。ホイッスルが鳴った後、小競り合い（スクラム）が発生し、双方にマイナー・ペナルティが科された。両チームは 5 対 5 でプレーすることになる。アイシングとペナルティ後のフェイスオフにおいて、ディフェンディング・チームがフェイスオフ・バイオレーションを犯した。この場合、センターは交代させられるのか、それとも警告のみとなるのか？

答え

違反のをしたセンターが交代する。両チームは（ペナルティを受けた選手に代わる）選手交代を行った。警告は適用されない。Rule 76.4；Rule 81.4

状況 81.19

パックが放たれ、バックラインズパーソンがアイシングを示す。どちらのプレーヤーが先にパックを取るか決定する前に、パックはゴールライン手前の氷上に捨てられたスティックに当たった。この場合でもアイシングは認められるか？

答え
フロントラインズパーソンは、パックはゴールラインを越えようとしていなかったと裁定し、したがってアイシングを取り消し、プレーの続行を認めるべきである。Rule 81.5

状況 81.20
アイシングのコールがあった場合、ラインズパーソンはどのようにその後のフェイスオフを行う場所を決定するのか？
答え
反則をしなかったチーム（攻撃側チーム）は、アタッキング・ゾーンのどちらのフェイスオフドットを希望するかを選択し、ラインズパーソンにその旨を示さなければならない。Rule 81.2

状況 81.21
A チームがパックをアタッキング・ゾーンにシュートする。他の A チームプレーヤーがオフサイドの位置にいて 、ラインズパーソンがディレイド・オフサイドのシグナルを出す。これはアイシングの可能性のある状況でもある 。オフサイドになった A チームのプレーヤーはゾーンをクリアしようとしていない。オフサイドとアイシングのどちらをとるか？
答え
ラインズパーソンは、オフサイドまたはインテンショナル・オフサイドのためにプレーを中断するかどうかを判断するために、裁量権を行使しなければならない。しかし、プレーヤーの安全を第一に考え、可能な限り、ラインズパーソンはアイシングを完了させる。違反したチームの選手交代に影響するため、ラインズパーソンはホイッスルが鳴った直後に、その判定を最寄りのレフェリーとチームに伝えることが必須である。Rule 80；Rule 83.3

RULE 82　ラインチェンジ

状況 82.1
A チームはアイシングをし、パックを追いかけた結果、プレーの中断時にファイトが起きた。両プレーヤーにそれぞれ、ファイティングによるメジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。このプレーに他の罰則はない。ペナルティが科されたので、A チームはパックをアイシングした責任があるにもかかわらず、ラインチェンジを行うことができるか？
答え
できない。各チームの 1 人のプレーヤーに科されたファイティング・メジャーは、両チームのオンアイスの人数に影響しない。パックをアイシングしたチーム（A チーム）は、ペナルティを受けたプレーヤーの交代を行うことのみが許される。B チームはラインチェンジを行うことができる。Rule 81.4；Rule 82.1

状況 82.2
ピリオド残り 12 秒、ラインズパーソンが両センターを交代させる。パックをドロップする途中で、攻撃側のウイングがパックをドロップする前にラインを超えた。バックラインズパーソンは様子を見てい

ゲームの流れ

たが、アタッキング・チームがパックをコントロールし、その後ラインズパーソンがフェイスオフ失敗のホイッスルを吹いた。レフェリーはどのような処置をとるか？

答え
ディレイ・オブ・ゲーム - フェイスオフ・バイオレーションによるベンチ・マイナー・ペナルティがアタッキング・チームに科される。Rule 76.6。フェイスオフ失敗のために時計が動き出した場合、必要であれば、時計は調整される。Rule 76.8。アタッキング・チームにペナルティが科されたため、フェイスオフは違反チームのエンドゾーンにあるフェイスオフスポットのいずれかに移動しなければならない。Rule 76.2。氷上の戦力が変更されたため、両チームはプレーヤーを交代することができる。Rule 82.1

状況 82.3

次の場合 、オフィシャルはどのような手順を取るのか：

- レフェリーによってラインチェンジの手続きが完了したとき。
- フェイスオフを行うラインズパーソンがホイッスルを吹き、必要な 5 秒間待った。
- ディフェンディング・チームがフェイスオフの場所への移動に時間がかかり、続くフェイスオフのためにオフサイドポジションにいる場合。

答え
ディフェンディング・プレーヤーがフェイスオフの場所に行くのが遅く、プレーヤーがオフサイドの位置にいるためにラインズパーソンがパックをドロップできない場合、レフェリーは違反したチームのコーチに警告しなければならない。それ以降の違反は、そのチームのベンチ・マイナー・ペナルティとなる。Rule 76.6；Rule 82.2

状況 82.4

第 1 ピリオド 9 分 52 秒の時点で、A チームはフェイスオフに行くのが遅く（ラインズパーソンがホイッスルを吹いてから 5 秒以上経過している）、その結果オフサイドの位置にいる。レフェリーはどのような処置をとるか？

答え
ラインズパーソンが 5 秒間の警告のホイッスルを吹いてからフェイスオフの場所への移動が遅い、または続くフェイスオフのためにオフサイドの位置にいるプレーヤーは、レフェリーによってゲーム中に 1 回警告される。この警告は、違反チームのコーチにも与えられる。この場合、違反チームのセンターは、フェイスオフでは交代させない。それ以降の違反については、ディレイ・オブ・ゲームのベンチ・マイナー・ペナルティがチームに科される。Rule 82.2

状況 82.5

同じチームが第 3 ピリオド残り 1 分 52 秒に状況 82.4 と同じ違反を犯した場合、この例ではどのような処置が取られるか？

答え
レギュレーションタイムの最後の 2 分間および延長戦においては、Rule 82.2(6) および (7) は適用されない。上記の Rule 82.2(1) から (5) が適用された後、ラインズパーソンは、その後に続くフェイスオフのためにセットアップする妥当な時間をチームに与えなければならない。Rule 82.2

ゲームの流れ

状況 82.6

あるチームがパワープレーに入ろうとしており、アタッキング・ゾーン内のどのフェイスオフ位置で行うかを選択できる状況である。この決定は、相手チームが選手交代を終えるまで待つことができるか？

答え

そのプレーでペナルティを科されなかったチームは、選手交代がすべて完了するのを待ってから、希望するフェイスオフ・スポットを選択することができる（選択する権利を有する）。

状況 82.7

ゴールが守備側によって偶発的にずらされた。このプレーの中断中にコマーシャルブレイクを開始できるか？もしできる場合、ディフェンディング・チームはコマーシャルブレイクの後にラインチェンジをすることが許されるか？

答え

Rule 87.2 に従って、コマーシャルブレークは開始してはならない。ディフェンディング・チームはいかなるプレーヤーの交代も許されない。Rule 63.8

RULE 83　　オフサイド

状況 83.1

ニュートラル・ゾーンにいるアタッキング・プレーヤーが、パックをアタッキング・ゾーンへ向けてシュートしようとした。アタッキング・プレーヤーがパックを空中に打ち上げたところ、ニュートラル・ゾーンをバックしながら滑っていたディフェンディング・プレーヤーが、手を使ってそのパックを前方へ弾いた（このとき、ディフェンディング・プレーヤーは両足ともニュートラル・ゾーン内にあり、自陣のブルーラインを越えて後退する直前であった）。しかし、弾かれたパックは元のシュートの勢いを保ったまま、回転してアタッキング・ゾーン内へと入り、そこにはすでにアタッキング・プレーヤーがパックより先に進入していた。これはディレイド・オフサイドの状況にあたるか？

答え

もしラインズパーソンの判断で、最初のショットの前方への勢いがパックをブルーラインを越えさせたのであれば、ディレイド・オフサイドのシグナルを出さなければならない。しかし、ラインズパーソンが、手でパックを打つディフェンディング・プレーヤーの行為によって、パックが自陣のディフェンディング・ゾーンに入ったと判断した場合には、そのプレーはオンサイドと見なされなければならない。Rule 83.3

状況 83.2

A チームはマイナー・ペナルティによりショートハンドでプレーしている。B チームはアタッキング・ゾーンでプレスをかけている。A チームがパックをコントロールしてゾーンをクリアする。パックはリンクを一周して（どのプレーヤーにも触れずに）A チームのディフェンディング・ゾーンに入り直し、そこでコーナーに倒れていた B チームのプレーヤーに拾われ、得点のチャンスを得た。ラインズパーソンはどのような処置を取るべきか？

ゲームの流れ

答え
ラインズパーソンはオフサイドをウォッシュアウトする。Rule 83.1。 A チームのプレーヤーは正当にパックをディフェンディング・ゾーンに戻したので、オフサイドは無視されるべきである。

状況 83.3

A チームのプレーヤーがゾーンの外でパックをショットする。パックはブルーラインのすぐ先のニュートラル・ゾーンにいる A チームの味方のところへ行った。そのプレーヤーがパックを受け取った瞬間に B チームのプレーヤーのチェックを受けた。このチェックによってパックは A チームのゾーンに戻り、B チームのプレーヤーがまだアタッキング・ゾーンに残っている。アタッキング・プレーヤーはパックをプレーできるのか？

答え
いいえ、ディレイド・オフサイドの合図をしなければならない。Rule 83.2

状況 83.4

B チームのプレーヤーがディフェンディング・ゾーンにいる。このプレーヤーはディフェンディング・ゾーンからパックをクリアしようとし、そのパックは明らかにニュートラル・ゾーンにいる他の B チームのプレーヤーにぶつかったが、その B チームのプレーヤーは A チームのプレーヤーのチェックまたはヒットを受け、パックは B チームのディフェンディング・ゾーンに戻った。ラインズパーソンはどのような判定を下すか？

答え
ディレイドオ・フサイドがシグナルされる。ニュートラル・ゾーンにいるディフェンディング・プレーヤーからディフェンディング・ゾーンに戻る ディフレクション/リバウンドを引き起こすアタッキング・プレーヤーの行為（すなわちスティックチェック、ボディチェック、身体的接触）は、ディレイド・オフサイドのシグナルをラインズパーソンが出さなければならない。Rule 83.2

状況 83.5

ディフェンディング・プレーヤーがパックを持ってディフェンディング・ゾーンの外をスケーティングしている。ブルーラインを越えてニュートラル・ゾーンに入った後、そのプレーヤーは相手側のプレーヤーにボディチェックを受け、パックはアタッキング・プレーヤーがいるディフェンディング・ゾーンに戻った。これはオンサイドか？それともディレイド・オフサイドとしてシグナルされるか？

答え
ニュートラル・ゾーンにいるディフェンディング・プレーヤーのディフレクション/リバウンドを引き起こしてディフェンディング・ゾーンに戻るアタッキング・プレーヤーのいかなる行為も、ディレイド・オフサイドのシグナルが発せられることになる。Rule 83.2

状況 83.6

A チームがセンターレッドラインのディフェンス側から B チームのゾーンにパックをショットし、バックラインズパーソンがアイシングの可能性を示し、フロントラインズパーソンがディレイド・オフサイドのシグナルを出した。A チームのプレーヤーはゾーンをクリアしようとせず、パックを追いかけてい

ゲームの流れ

る。ラインズパーソンの目には、B チームのプレーヤーが先にパックに到達することは明らかである。ラインズパーソンはオフサイドの判定でプレーを止めるのか、それともアイシングの判定で B チームのプレーヤーがパックまで競り勝つことを認めるのか？

答え
記述されたシナリオでは、ラインズパーソンはディレイド・オフサイドのアタッキング・プレーヤーによる身体的接触がないと判断しているので、アイシングのために B チームのプレーヤーがパックに競り勝つことを認める。
注 1：しかしラインズパーソンが、（オフサイドにいる）アタッキングフォワードが先にパックに到達する、または相手と接触する可能性があると感じた場合、ラインズパーソンはプレーを止め、先にオフサイドをコールしなければならない。Rule 81.1；Rule 83.3

状況 83.7

A チームに対してディレイド・オフサイドのシグナルが出された。A チームのプレーヤーはゾーンをクリアする代わりに，パックを持って自陣のゾーンを出ようとしている B チームのパックキャリアにボディチェックをしようとした。ラインズパーソンは、A チームのプレーヤーがオフサイドの位置でプレーしたことを知っていたと確信している。続くフェイスオフはどこか？

答え
アタッキング・プレーヤーがディフェンディングのパックキャリアに身体的接触をしようとするときはいつでも、オフサイドの違反のためにプレーを止めなければならない。もしラインズパーソンの判断で、アタッキング・プレーヤーがオフサイドであることを知りながらゾーンをクリアせずにパックキャリアをチェックすることを選んだ場合には、インテンショナル・オフサイドが科せられることがある。Rule 83.3；Rule 83.6

状況 83.8

A チームはディレイド・オフサイドの位置にいる。このシグナルが発せられている間、オフサイドにある唯一の A チームプレーヤーがプレーヤーズ・ベンチで交代を選択する。ベンチのドアはアタッキング・ゾーンにあり、交代のプレーヤーは同じドアからゲームに参加する。ディレイド・オフサイドは有効か？

答え
交代したプレーヤーがそのゾーンに入る前に氷面から離れた場合（またはニュートラル・ゾーンに入った場合）、そのゾーンに他のアタッキング・プレーヤーがいなければ、そのゾーンはクリアとなる。交代したプレーヤーが氷面を離れる前に氷に入れば、ディレイド・オフサイドは有効である。Rule 83.3

状況 83.9

アタッキング・プレーヤーがディフェンディングエンドゾーンにパックをショットする。アタッキング・プレーヤーがパックをアタッキング・ゾーンに先行させ、ディレイド・オフサイドの状況を引き起こした。パックはゴールポストに当たりプレーの外に出た。フェイスオフの場所はどこか？

答え
フェイスオフは、ショットまたはパスの地点または起点に最も近いニュートラル・ゾーンのフェイスオフスポットで行われなければならない。Rule 83.6

ゲームの流れ

状況 83.10

攻撃側がアタッキング・ゾーンにパックを入れる。パックが進入したときアタッキング・プレーヤーがゾーン内にいたため、ラインズパーソンはディレイド・オフサイドを示す。オフサイドであったプレーヤーがゾーンを出て、ラインズパーソンが腕を下げた。元のショットはゴールに入った。ラインズパーソンの腕はパックがネットに入る前に下がっていたので、ゴールはカウントされるか？これはパックがディフェンディング・プレーヤーによってゴールにディフレクトされたという事実は、裁定に違いをもたらすか？

答え

いいえ、ゴールはカウントされない。このような状況では、直接であろうと、ゴールキーパー、プレーヤー、ボード、ガラス、用具の一部、またはオフィシャルに当たろうと、元のショットがオフサイドであったため、ゴールは成立しない。ラインズパーソンが腕を下ろした後にパックがネットに入ったことは、この判定には関係しない。Rule 83.4

状況 83.11

A チームのプレーヤーがディレイド・オフサイドの位置にいるときに、A チームがパックをアタッキング・ゾーンにダンプした。A チームのプレーヤーがゾーンを出た後、パックは B チームのプレーヤーをディフレクトしてネットに入った。どのような判定が下されるか？

答え

ノーゴール。Rule 83.4

状況 83.12

A チームのプレーヤーがセンターレッドラインのアタッキング側からアタッキング・ゾーンにパックをショットする。ラインズパーソンがディレイド・オフサイドのシグナルを送る。パックはシュートインでゴールに入った。このゴールはディレイド・オフサイドにより認められない。続くフェイスオフはどこか？

答え

シュートの起点に最も近いゾーンのフェイスオフスポットで行う。Rule 83.4

状況 83.13

A チームのプレーヤーがセンターアイスに達し、パックを高く宙に浮かせてアタッキング・ゾーンに入れる。パックがブルーラインを越えたとき、A チームのプレーヤーはすでにアタッキング・ゾーンにいた。ラインズパーソンがディレイド・オフサイドのシグナルを示す。プレーヤーがアタッキング・ゾーンを出て、ゾーンがクリアになったのでラインズパーソンは腕を下ろす。パックが下降し、B チームのプレーヤーが意図的にパックをグローブまたはスティックで空中から打ち、自陣のゴールに入った。これはゴールと判定されるか、それともノーゴールか？

答え

ゴール。アタッキング側のアクションや接触なしにディフェンディング側がショットまたはパックを自陣のネットに入れた場合、そのゴールはカウントされる。Rule 83.4

ゲームの流れ

状況 83.14

A チームはアタッキング・ゾーンにいる。A16 がパックをゴールに打つ。パックはかろうじてゴールキーパーの肩に当たって外れたが、ガラスに当たってゾーンを出た。パックはそのまま A チームのディフェンディング・ゾーンに入り、B チームのプレーヤー（先にパック待っていた）がコントロールし、ブレイクアウェイに入る準備をしている。ラインズパーソンの判断は？ラインズパーソンがオフサイドと判断した場合、その後のフェイスオフはどこで行われるか？

答え

ラインズパーソンはこのプレーをオフサイドと判断しなければならず、その後のフェイスオフは、B チームのエンドゾーンにあるフェイスオフスポットのいずれかで行われる。Rule 83.1；Rule 83.6

状況 83.15

ブルーラインのすぐ外側にいる A チームのプレーヤーがパックをパスし、そのパックが反対側のブルーラインのすぐ外側にいる B チームのプレーヤーからオフサイドにいる味方にディフレクションした。ラインズパーソンはオフサイドでプレーを止めた。続くフェイスオフはどこで行われるか？

答え

パスの起点に最も近いニュートラル・ゾーンの地点 、「... またはショットまたはパスの起点に最も近いゾーンのフェイスオフ地点（アタッキングまたはディフェンディングのプレーヤーまたはオフィシャルに当たる場合も含む）」でフェイスオフを行う。Rule 83.6

状況 83.16

B4 が自陣のエンドゾーンからパックをパスし、そのパスは A7 によってディフレクトされ、B6 に届くのが遅くなった。これにより B6 はパスを受けるときにオフサイドとなった。その結果生じるフェイスオフはどこか？

答え

パスが出されたゾーンの最も近いフェイスオフスポット。Rule 83.6

状況 83.17

A チームのディフェンディング・プレーヤーがディフェンディング・ゾーンから B チームのディフェンディング・ゾーンにパックをロブした。ディレイド・オフサイドの位置にいる A チームのウイングは、両者がパックを追いかけているときに B チームのディフェンディング・プレーヤーを激しくディフェンスしている。適切な判断をもって、ラインズパーソンは接触が起こる前、または誰かがパックに触れる前にプレーを止めた。続くフェイスオフはどこか？

答え

アタッキング・プレーヤーがパックをプレーしていなくても、Rule 83.6 では、フェイスオフはショットまたはパスの起点となったゾーンで行われると規定している。

状況 83.18

パックがアタッキング・ゾーンに入り、ラインズパーソンがディレイド・オフサイドのシグナルを出す。アタッキング・プレーヤーがフェイスオフドットのガイドラインを越えてパックを追い続けたとき、ラインズパーソンがホイッスルを吹く。そのプレーヤーはオフサイドに気づかなかったとみなされる。続くフェイスオフはどこか？

ゲームの流れ

答え
続くフェイスオフは、パスまたはショートが発生したゾーンの中で最も近いフェイスオフスポットのうち、違反をしたチームに最も少ないテリトリアルアドバンテージを与える場所で行われる（アタッキング側またはディフェンディング側のプレーヤーまたはオフィシャルにディフレクティングされた場合も同様）。Rule 83.6

状況 83.19
A チームのプレーヤーが B チームのエンドゾーンにパックをショットする。ラインズパーソンはディレイド・オフサイドのシグナルを出す。パックは B チームのプレーヤーに当たり外にでる。続くフェイスオフはどこで行われるか？
答え
続くフェイスオフは、パックがショットされたゾーンで最も近いフェイスオフスポットで行われる。Rule 83.6

状況 83.20
A チームにディレイド・ペナルティのシグナルが出されている。B チームがアタッキング・ゾーンにパックを放ち、ディレイド・オフサイドのシグナルが出されたが、A チームのプレーヤーに当たりパックは外へ出た。続くフェイスオフはどこで行われるか？
答え
A チームのエンドゾーンでのフェイスオフ。Rule 76.2；Rule 83.6

状況 83.21
A チームは空中でパックを弾いてディフェンディング・ゾーンからパックをクリアしようとした。B チームのディフェンスプレーヤーはゾーン内でパックをキープしようとしたが、結局そのパックをニュートラル・ゾーンからアタッキング・ゾーンに手で叩いて戻した。ラインズパーソンはまだアタッキング・プレーヤーがゾーン内にいるとしてディレイド・オフサイドを指示する。B チームのプレーヤーの 1 人がパックをプレーする。ハンドパスとオフサイド（インテンショナル）の 2 つの理由でホイッスルが吹かれる。どちらの違反が優先され、その後のフェイスオフはどこになるか？
答え
インテンショナル・オフサイドの違反が優先され、その後のフェイスオフは、反則をしたチームに最も少ないテリトリアルアドバンテージを与える場所で行われなければならない。従って、フェイスオフは B チームのディフェンディング・ゾーンにあるフェイスオフスポットでなければならない。

状況 83.22
ニュートラル・ゾーンにいる A41 がパックを手で叩きアタッキング・ゾーンに入りディレイド・オフサイドを引き起こした。チームメイトの A46 がゾーンに入り、B チームのディフェンスプレーヤーをかわしてパックをプレイした。判定は？続くフェイスオフはどこで行われるか？
答え
インテンショナル・オフサイドとその後のフェイスオフは、A チームのエンドゾーンのフェイスオフスポットのいずれかで行われる。Rule 83.7；Rule 76.2

ゲームの流れ

状況 83.23

A チームに対してディレイド・ペナルティが宣告されている。B チームがパックをコントロールしている間、インテンショナル・オフサイドのホイッスルが吹かれる。フェイスオフはどこで行われるか？

答え

A チームのディフェンディング・ゾーン内のフェイスオフスポット。Rule 83.7（Rule 76.2；Rule 15.5 も例外ではない）

状況 83.24

ラインズパーソンの意見では、A16 はオフサイドの状況にあることを認識している。A16 がゾーンを出ようとしてブルーラインに向かってスケーティングしているが、ゾーンを出る前に、そのプレーヤーはパックキャリア B3 に向かってスティックをスイングし、B3 のスティックに接触して、そのプレーヤーが一時的にパックのコントロールを失った（スティックとスティックの接触）。ラインズパーソンはどうするか？

答え

ラインズパーソンはホイッスルを吹いてプレーを止め、これをインテンショナル・オフサイドと判定する。インテンショナル・オフサイドとは、どちらのチームがショートハンドであるかどうかにかかわらず、プレーの中断を確保する目的で行われるオフサイドのことである。Rule 83.7

状況 83.25

A チームがゴールキーパーを引き揚げた。B チームがパックを A チームのゾーンに捨て、ディレイド・オフサイドを起こした。ディレイド・オフサイドが有効で、B チームのプレーヤーがゾーンをクリアしようとしていて、A チームにプレッシャーをかけていないとき、A チームのプレーヤーがパックをコーナーからゴールの前にパスする。パックはチームメイトの足の甲に当たり、直接 A チームのゴールに入る。パックがゴールに入ったとき、ディレイド・オフサイドはまだ有効である。判定は？

答え

これはゴールである。アタッキング・チームがディレイド・オフサイドでゴールを決めることができるのは、ディフェンディング・チームがアタッキング・チームのアクションや接触なしに自陣のゴールにパックをショットした場合だけである。Rule 83.4

状況 83.26

A チームが相手ゾーンに向かってパックを放つ。ラインズパーソンはディレイド・オフサイドのために腕を上げる。B チームのゴールキーパーがゴールの周りのパックをクリアしようとしてパックをファンブルし、パックを自陣のゴールに入れた。アタッキング・プレーヤーはまだゾーンを出ていない。このゴールはカウントされるか？

答え

ゴールである。たとえラインズパーソンがディレイド・オフサイドのためにまだ腕をあげていたとしても、パックがディフェンディングゴールに入る原因となったアタッキング側の行為がなかったため、これはグッドゴールとみなされる。Rule 83.4

ゲームの流れ

状況 83.27

A チームの守備側のプレーヤーは自陣のブルーラインの外側で体勢を立て直し、B チームのブルーラインの手前でパスをキャッチする A チームのフォワードにロングパスをする。そのプレーヤーはパックをアタッキング・ゾーンに運び、そこでラインズパーソンが、B チームのゾーンから出損ねた別の A チームのフォワードがいたとして、オフサイドのホイッスルを吹く。続くフェイスオフはどこで行われるか？

答え

フェイスオフは B チームのディフェンディング・ゾーンの外側のニュートラル・ゾーンで行われる。A チームのプレーヤーはニュートラル・ゾーンでロングパスを受けたので、このパックはブルーラインを越えて運ばれ、オフサイドの原因となったのはゾーンを出た A チームのプレーヤーであると考える。Rule 83.6(1)

状況 83.28

A チームのプレーヤーが自陣のブルーラインのすぐ内側から、ニュートラル・ゾーンのファーサイドブルーラインのオンサイドに両足で立っている味方にパスをした。そのプレーヤーはそのパスをブルーラインを超えたスティックの上で受ける。別の A チームのプレーヤーがアタッキング・ゾーンにいるためオフサイドが示される。続くフェイスオフはどこで行われるか？

答え

パックはすぐに触れているのでディレイド・オフサイドのシグナルは出なかったが、オフサイドでラインを越えて運ばれたわけでもない。従って、フェイスオフはパスの起点となったゾーンの最も近いフェイスオフスポットで行われる。Rule 83.6

状況 83.29

パックがアタッキング側のブルーラインを越えたとき、アタッキング・プレーヤーがブルーラインのすぐそばで空中にジャンプした。これはオフサイドか？

答え

ジャンプしているプレーヤーのスケートはブルーラインの先端の自陣側にあり、パックが先端を越える前に「先端の平面」まだ超えていない必要がある。Rule 83.1

状況 83.30

第 2 ピリオド中 、A20 がアタッキング・ゾーンにパックを放ち、ラインズパーソンがディレイド・オフサイドのシグナルを出した。A21 はアタッキング・ゾーンにいて、アタッキング・ゾーンに伸びているプレーヤーズ・ベンチの部分まで進み、ボードを乗り越えてベンチに入った。どの時点で A21 は氷から離れ、そのプレーヤーは「ゾーンをクリア」したと見なされるのか？

答え

A21 は、両方のスケートが氷に触れなくなり、ラインズパーソンがプレーヤーがプレー面を離れてベンチに入ったと判断した時点で、氷上から離れたものとみなされる。A21 がドアから出る場合、A21 はベンチに足を踏み入れ、後ろ足が完全に氷上から離れた時点で、氷上から離れたものとみなされる。

注: 攻撃側のプレーヤーは、アタッキング・ゾーンのボードに飛び上がり、パックが入るのを待ってから氷上に戻ってオフサイドを無効にすることはできない。これはオフサイドと判定される。Rule83.3

ゲームの流れ

状況 83.31

第 2 ピリオド中 、B22 は味方がゾーンにパックを入れる前にアタッキング・ゾーンから出ようとしていた。B22 はアタッキング・ゾーンに伸びているプレーヤーズ・ベンチの部分に向かってスケートし、パックがブルーラインを越えた瞬間にベンチに向かって空中でジャンプした。B22 は空中にいるがベンチにはいない。裁定は？

答え

B22 が氷上から離れてプレーヤーズ・ベンチに入ったとラインズパーソンが判断するまで、これはディレイド・オフサイドである。B22 が氷を離れプレーヤーズ・ベンチに入る前に他の B チームのプレーヤーがゾーンに入った場合も、ディレイド・オフサイドは有効である。Rule 83.3

状況 83.32

第 2 ピリオド中 、B チームがアタッキング・ゾーンにパックを放ちディレイド・オフサイドの状態となった。B23 はオフサイドであったが、アタッキング・ゾーンに伸びているプレーヤーズ・ベンチの部分に氷上から出た。同時に B26 がアタッキング・ゾーン内の氷上に出た。裁定は？

答え

ディレイド・オフサイドは、B チームのすべてのプレーヤーが同時にゾーンを出るまで有効である。Rule 83.3

状況 83.33

第 2 ピリオド中、B チームがアタッキング・ゾーンにパックを放ちディレイド・オフサイドの状態となった。B23 はオフサイドになったが、アタッキング・ゾーンに伸びているプレーヤーズ・ベンチの部分に氷から出た。同時に B26 がニュートラル・ゾーンの氷上に現れた。裁定は？

答え

B23 が氷を離れる前に他の B チームのプレーヤーがアタッキング・ゾーンにいなかった、または入っていなかったことを条件として、ディレイド・オフサイドは無効となる。アタッキング・プレーヤーはすべてゾーンに入る資格がある。Rule 83.3

状況 83.34

A チームがアタッキング・ゾーンにパックを放ちディレイド・オフサイドの状態となった。A31 はこのゾーンをできるだけ早くクリアしようとブルーラインに向かって突進している。A31 はブルーラインの約 1 メートル手前で空中にジャンプしてブルーライン上に着地した。A31 はどの時点でゾーンをクリアしたと見なされるか？

答え

A31 はスケートがブルーラインに接触した瞬間にアタッキング・ゾーンをクリアしたと見なされる。Rule 83.3(i)。A31 が空中にいる間に他の A チームのプレーヤーがアタッキング・ゾーンに侵入した場合は、ディレイド・オフサイドは有効である。

状況 83.35

A チームがアタッキング・ゾーンにパックを放ちディレイド・オフサイドの状態となった。A32 はできるだけ早くゾーンをクリアしようとブルーラインに向かって突進する。A32 はブルーラインの内側で足を先に滑らせた。A32 はどの時点でゾーンをクリアしたと見なされるか？

ゲームの流れ

答え
A32 はスケートがブルーラインに接触した瞬間（氷に触れなければならず、空間はここでは適用されない）にアタッキング・ゾーンをクリアしたと見なされる。Rule 83.3(1)。A32 がブルーラインにスケートで接触する前に他の A チームプレーヤーがゾーンに入った場合、ディレイド・オフサイドは有効である。

状況 83.36
A67 がニュートラル・ゾーンをパックを運んでいる。A4 はアタッキング側のブルーラインをまたいでいる。A67 がパックをキープしてブルーラインにいる B チームのプレーヤーをスケートで通り過ぎたとき、A4 はニュートラル・ゾーンにいた右足を持ち上げた。パックがブルーラインを越えて運ばれるとき、右足はブルーライン上に浮き、左足はアタッキング・ゾーンにある。ラインズパーソンの判定は？
答え
このプレーはオンサイドである。Rule 83.1

状況 83.37
A67 がニュートラル・ゾーンをパックを運んでいる。A4 はアタッキング側のブルーラインをまたいでいると考えている。A67 がパックをキープしてブルーラインにいる B チームのプレーヤーをスケートで通り過ぎたとき、A4 は両足がアタッキング・ゾーンにあることに気付いた。A4 は A67 がパックをブルーライン上に運ぶと同時に素早く右足をブルーライン上に上げた。ラインズパーソンの判定は？
答え
このプレーはオンサイドである。Rule 83.1

状況 83.38
A67 がニュートラル・ゾーンをパックを運んでいる。A4 はアタッキング・ゾーンのすぐ内側にいる（両者ともスケートしている）。A67 がアタッキングブルーラインに近づいたとき、パックはコーナーへ投げ込まれ、ラインズパーソンはディレイド・オフサイドを示した。A4 はオフサイドであることに気づき、片足を後ろに伸ばしてブルーラインの上に振り出し、パックを追いかけようとした。ラインズパーソンの判定は？
答え
ラインズパーソンはディレイド・オフサイドを続けなければならず、A4 がゾーンに入り続ければ、オフサイドのためにプレーを止めなければならない。A4 はディレイド・オフサイドを無効にするためにブルーラインにスケートで接触しなければならない。Rule 83.3

状況 83.39
プレーヤーがアタッキング・ゾーンのブルーラインの外側で味方からパスを受けた。そのプレーヤーのスケートがブルーラインを越える前に、そのプレーヤーはパックとの接触を一時的に失い、パックがラインを越える前にアタッキング・ゾーンに入った。これはオフサイドと見なされるか？
答え
これはオフサイドである。パックが後方に移動し、プレーヤーと共に前進し続けていないため、当該プレーヤーはパックをコントロールしていないとみなされる。Rule 83.1

ゲームの流れ

状況 83.40

プレーヤーがアタッキング・ゾーン内のプレーヤーズ・ベンチから氷上に出ようとしている。パックがゾーンに入るとき、そのプレーヤーは片足をボードの上に出している。これはオフサイドと見なされるか？

答え

いいえ、これはオフサイドとは見なされない。両方のスケートが氷上にあるとき、そのプレーヤーは氷上にいると見なされる。Rule 74.1

状況 83.41

プレーヤーが氷上からアタッキング・ゾーン側のプレーヤーズ・ベンチに飛び込もうとしている。そのプレーヤーが飛び出して片足をボードにかけ、片足を宙に浮かせているとき、別のプレーヤーがパックを持ってアタッキング・ゾーンにスケートで入ってきた。これはオフサイドか？

答え

他のアタッキング・プレーヤーがゾーンにいなければ、これはオフサイドではない。両方のスケートが氷面から離れたとき、そのスケーターは氷から離れたと見なされる。Rule 83.3

RULE 84　延長のオペレーション

状況 84.1

延長戦においてゴールキーパーがエキストラアタッカーのために退いた場合、ゴールキーパーはプレー中にその位置に戻ることができるのか、それとも次のプレーの中断を待たなければならないのか？

答え

ゴールキーパーはプレー中に復帰することが認められている。Rule 74；Rule 84.2

状況 84.2

第 3 ピリオド 19 分 10 秒（残り時間 50 秒）、A10 と B4 が同時のペナルティとなる。第 3 ピリオド 19 分 50 秒（残り時間 10 秒）、A17 にマイナー・ペナルティが科される。延長戦の開始時および延長中の氷上人数はどうなるか？

答え

A10 と B4 に対する同時のペナルティは、ペナルティクロックには表示されない。延長戦では、B チームは 4 人のスケーター、A チームは 3 人のスケーターで試合を開始する。A17 のペナルティが終了した後の最初のプレー中断時に、氷上の人数は 3 対 3 に調整される。Rule 19.1；Rule 84.3

状況 84.3

レギュレーションタイム残り 1 分 30 秒の時点で、以下のペナルティが科される。

A10 - マイナー・ペナルティ

A6 - マイナー・ペナルティ

A12 - ダブルマイナー・ペナルティ

B2 - マイナー・ペナルティ

延長戦の開始時の氷上の人数と、延長戦の残り 1 分 1 秒のホイッスルが鳴った後の氷上の人数は？

ゲームの流れ

答え
延長戦は 5 対 3 で開始され、残り 1 分 1 秒のホイッスルの後は 4 対 3 に調整される。（A10 または A6 のペナルティが B2 のペナルティによって相殺されたと仮定して）。Rule 84.3

状況 84.4
第 3 ピリオド終了時に、A チームのプレーヤーと B チームのプレーヤーが共にマイナー・ペナルティを受けた。延長戦開始時の氷上人数は？
答え
これらは同時のペナルティであるため、ペナルティクロックには表示されない。延長戦開始時の氷上人数は 3 対 3 とする。ペナルティ終了後の最初のホイッスルで、プレーヤーはペナルティ・ボックスから出場する。Rule 84.3

状況 84.5
シュートアウトの間、シューターがパックに触れる前にゴールキーパーがゴールクリーズから離れた場合、レフェリーは何をすべきか？ゴールキーパーが 2 度目にそのようなことをした場合はどうするか？
答え
1 回目の違反については、レフェリーはショットの続行を認め、ショットが失敗した場合は、ショットのやり直しを認める。もしゴールキーパーが 2 回目の違反を犯し、ショットが失敗した場合、ショットのやり直しを許可し、レフェリーはゴールキーパーにミスコンダクト・ペナルティを科すことができる。Rule 24.4；Rule 84.4

状況 84.6
シュートアウト 1 回目のトライの後、ゴールキーパーにミスコンダクト・ペナルティが科される。ゴールキーパーはシュートアウトを続けることができるか？レフェリーはどのような処置をとるか？
答え
はい、ゴールキーパーはシュートアウトを続けることができる。Rule 84.4 では、「延長戦が終了した時点でペナルティが終了していないプレーヤーは、シュートを打つプレーヤーとして選ばれる資格はなく、ペナルティー・ボックスまたはドレッシングルームに留まらなければならない。また、シュートアウト中にペナルティを受けたプレーヤーは、その処置が終了するまでペナルティボックスまたはドレッシングルームにいなければならない。ゴールキーパーは実際に 10 分間のミスコンダクト・ペナルティを「科される」わけではないので、ゴールキーパーはシュートアウトを続けることができる。ただし、ゴールキーパーのミスコンダクトを代行することに指定されたプレーヤーは、シュートアウトに参加する資格がなくなる（シュートアウト開始時にゴールキーパーのミスコンダクトを務めている場合も同様である）。第 27.3 も参照のこと。
注：シュートアウト中にゴールキーパーがミスコンダクトとなった場合、チームはまだシュートアウトに参加していないプレーヤーを指名してミスコンダクト・ペナルティを受けさせなければならない。これは、ペナルティーを受けたゴールキーパーのチームが、ゴールキーパーのペナルティの間、プレーヤーを失わなければならないという試合中の手続きと同じである。

ゲームの流れ

状況 84.7

ラウンドロビン（総当たり戦）または予選ラウンドの延長戦において、残り時間 1 分の時点で以下のペナルティが科された。

A3 - マイナー・ペナルティ

A17 - マイナー・ペナルティ＋ミスコンダクト・ペナルティ

A31（GK） - マイナー・ペナルティ（代行 A44）＋ミスコンダクト・ペナルティ（代行 A16）

B7 - マイナー・ペナルティ

B2 - マイナー・ペナルティ＋ミスコンダクト・ペナルティ

延長戦が終了しても同点のままであった。これらのプレーヤーのうち、シュートアウトに参加できるのは誰で、参加できないのは誰か？

答え

シュートアウトに出場可能なプレーヤーは誰もいない。Rule 84.4 (3)

状況 84.8

シュートアウトの最中、シューターがゴールキーパーに仕掛けようとして転倒し、ゴールキーパーにスライディングした。パックはゴールに入らなかったが、ゴールキーパーが負傷した。ゴールキーパーは負傷している。ゴールキーパーにウォームアップは許されるか？

答え

ウォームアップは認められない。Rule 84.4；Rule 8.2

状況 84.9

延長戦が終わり、シュートアウトの前に、ホームチームのコーチがシュートアウトのためにゴールキーパーを交代することを決めた。2 ゴールを許した後、コーチは再びゴールキーパーを交代させようとする。これは正当なプレーか？

答え

これは正当である。Rule 84.4

状況 84.10

第 3 ピリオド 19 分 10 秒（ゲームクロック残り 50 秒）、A15 と B4 がそれぞれラフィングによるマイナー・ペナルティを受けた。延長戦開始時の正しい氷上人数は？

答え

ペナルティは同時であるため、ペナルティクロック表示されず、両チームは 5 対 5 でプレーする。延長戦の開始時、両チームは 3 対 3 でプレーする。Rule 19.1；Rule 84.3

状況 84.11

レギュレーションタイム残り 1 分 40 秒、A14 がマイナー・ペナルティを科される。レギュレーションタイム終了時、A3 はスラッシングとラフィングによるダブルマイナー・ペナルティを科され、B24 はラフィングでマイナー・ペナルティ。A14 に対する最初のペナルティが終了したときの氷上人数は？延長戦開始 1 分後の最初の中断後の氷上人数は？

ゲームの流れ

答え
A14 のペナルティが終了した時点で、A14 が氷上に出場し、氷上人数は B チームが 5 人、A チームが 4 人となる。その後の中断で、A チームのペナルティがある間、氷上人数は B チームが 4 人、A チームが 3 人に調整される。Rule 84.3

状況 84.12
大会規定により、プレー人数を 3 対 3 とすることが規定されている延長戦において、プレーの中断時に各チームから 1 名のプレーヤーにペナルティが科される。このようなペナルティに関する手続きはどのようにすればよいか？
答え
このような同時のペナルティはペナルティクロックに表示されず、3 人対 3 人のスケーターでプレーする。ペナルティ終了後の最初のホイッスルで、プレーヤーはペナルティ・ボックスから出場する。Rule 84.3

状況 84.13
大会規定により 3 人対 3 人と規定されている延長戦において、A チームに対してペナルティが宣告される。B チームのゴールキーパーは、追加のアタッカーのためにプレーヤーズ・ベンチに進む。B チームは不注意でパックをパスしてしまい、自陣のゴールに入れてしまう。A チームはこのような形でゲームに勝つことができるか？
答え
はい、試合は終了し、A チームの勝利となる。Rule 84.2

状況 84.14
A8 はこの試合で、ジャージをパンツの上の尾骨のパッドの後ろに入れることについて警告を受けた。残りのゲームでは A8 はそれに従い、ペナルティを科す必要はなかった。試合はシュートアウトにもつれ込み、A8 はマイナー・ペナルティを科される危険性があることを知りながら、シュートアウトに乗るためにセンターアイスに近づく前にジャージをパンツの中にしまった。レフェリーはこの状況にどのように対処するか？
答え
レフェリーは、A8 が Rule 9.5 に違反してゲームに復帰した事実を認め、マイナー・ペナルティを科し、同選手をシュートアウトから失格とする。チームは A8 を資格のある他のシューターと交代させる。

RULE 85　アウト・オブ・バウンズ

状況 85.1
ニュートラル・ゾーンにいるアタッキング・プレーヤーが味方にパスを出そうとした。そのパックはニュートラル・ゾーンにいるディフェンディング・プレーヤーによって場外に出る。パックはフェイスオフドットと自陣のブルーラインの間でスティックにぶつかった。続くフェイスオフはどこか？

ゲームの流れ

答え
規則では、フェイスオフの場所は、違反をしたチームに最もテリトリアルアドバンテージを与えない最も近い場所でなければならないと述べているにもかかわらず、ニュートラル・ゾーンで中断が起こった場合には、ニュートラル・ゾーンでフェイスオフを行わなければならないとも述べている。Rule 76.2；Rule 85.1。常識的に考えれば、フェイスオフはブルーラインの外側のドットで行われるべきである。この具体的な答えはルールブックには載っていない。

状況 85.2
アタッキング・プレーヤーがエンドゾーンにパックを入れる。アタッキング・プレーヤーがパックをアタッキング・ゾーンに入れ、ディレイド・オフサイドの状況を引き起こした。パックはゴールポストに当たって場外に出る。フェイスオフの場所はどこか？
答え
フェイスオフは、ショットまたはパスの地点または起点に最も近いニュートラル・ゾーンのフェイスオフスポットで行われる。Rule 83.6

状況 85.3
A チームのプレーヤーがゴールに向かってパックをショットし、そのパックが B チームのゴールのクロスバーに当たって、ゴール後ろのガラスを砕いた場合、その後のフェイスオフはどこで行われるか？
答え
Rule 85.1；Rule 85.5 では、上記のシナリオではパックがショットされたゾーンでフェイスオフが行われると述べている。

状況 85.4
A チームは B チームのゾーン内でパワープレーをしている。A チームのプレーヤーがスロットからパックをショットし、パックはクロスバーに当たり、ゴールの後方のガラスに当たって割れた。パックは氷上に落ち、レフェリーがホイッスルを吹いてプレーを止める前に、2 人の選手がボディチェックでボードにぶつかり、最初に割れたのと同じガラスを粉々にした。その後のフェイスオフはどこか？
答え
オンアイス・オフィシャルがガラスの割れによってプレーを中断しようと、ガラスが粉々になったときにプレーを止めようと、元のショットが B チームのゾーンで発せられたという事実によって、フェイスオフは B チームのゾーン内で行われることになる。Rule 85.1；Rule 85.5

状況 85.5
アタッキング・ゾーンにおいてアタッキング・チームに対してディレイド・ペナルティのシグナルが出される。ディフェンディング・プレーヤーがパックをガラスを越えて場外に出した。続くフェイスオフはどこであるか？
答え
続くフェイスオフは、パックをショットしたチームのディフェンディング・ゾーンに最も近いフェイスオフスポットで行われる。ディフェンディング・チームにもディレイ・オブ・ゲームのペナルティが科される。Rule 85.1；Rule 63.2

ゲームの流れ

状況 85.6
ディフェンディング・ゾーンのプレーヤーがパックを高くフリップし、クロック掲示板にぶつかった。これはディレイ・オブ・ゲームのペナルティか？
答え
ペナルティではない。ディフェンディング・ゾーンからのアウトオブプレーのショットに関するルールは、パックを「ガラスを越えて」ショットすることを指している。Rule 63.2；Rule 85.1

状況 85.7
A チームのプレーヤーがアタッキングブルーラインの外側からアタッキング・ゾーンにパックをショットした。ショットは高くゴールの後方のガラスに当たりガラスが割れた。フェイスオフの位置はどこか？
答え
フェイスオフは、パックがショットされたゾーンで最も近いフェイスオフスポットで行われる。ここでの決定要因は、パックがニュートラル・ゾーンからショットされたということであり、したがって、フェイスオフはニュートラル・ゾーンで行われなければならない。Rule 85.1；Rule 85.5

状況 85.8
A チームはショートハンドである。A チームのプレーヤーが自陣のディフェンディング・ゾーンから相手ゾーンにパックをショットした。パックはゴール後方のガラスにぶつかり、ゴールの上に落ちた。レフェリーがホイッスルを吹いてプレーを中断した。続くフェイスオフはどこで行われるか？
答え
A チームがショットしたパックは B チームのゴールの上に落ちたので、その後のフェイスオフは、A チームのディフェンディング・ゾーンにおいて、パックがショットされた場所から最も近いフェイスオフスポットで行われる。Rule 85.1；Rule 85.5

状況 85.9
A チームのプレーヤーがパックを持ってセンターレッドラインを越えた。パックがアタッキング側のブルーラインに到達する前に、そのスケーターが放ったスラップショットはクロスバーに当たってそのまま場外に出た。続くフェイスオフの位置はどこか？
答え
フェイスオフは、パックがショットされたゾーンで最も近いフェイスオフスポットで行われる。Rule 85.1；Rule 85.5

状況 85.10
A チームのディフェンディング・ゾーンでラインズパーソンがフェイスオフのためにパックをドロップし たとき、A チームのセンターが明らかにパックを獲得し、その際にパックをガラスを越えてディフェン ディングゾーンの場外に出した。このプレーに関する裁定は？
答え
パックはフェイスオフの直接の結果として場外に出たのでペナルティはない。Rule 85.1；Rule 63.2

ゲームの流れ

状況 85.11
エンドゾーンでフェイスオフがある。攻撃側がフェイスオフに勝ったことは明らかである。しかし、パックは直接場外に出た。続くフェイスオフはどこで行われるか？
答え
フェイスオフは同じ場所で行われる。Rule 85.1

状況 85.12
パックがディフェンディング・ゾーンからディフェンディング・プレーヤーによってショットされる。そのパックはニュートラル・ゾーンにある相手チームの開いているプレーヤーズ・ベンチのドアに入った。続くフェイスオフはどこで行われるか？
答え
続くフェイスオフは、パックが開いているドアを通って相手チームのプレーヤーズ・ベンチに入った場所に最も近いニュートラル・ゾーンのフェイスオフスポットの一つで行われる。これは、パックがプレーヤーズ・ベンチのボードの上に掛かったグローブに当たった場合の解釈と同様である。Rule 85.1
注：同じことが起こり、パックがディフェンディング・プレーヤーズ・ベンチの開いているドアを通り抜けた場合、続くフェイスオフはディフェンディング・ゾーンにあるフェイスオフスポットの 1 つで行われるものとする。Rule 85.1

状況 85.13
A チームがゾーンをクリアしようとしている。A チームのディフェンスがゾーンの外にパックをショットしたが、パックはベンチドアを通って A チームのベンチに入った。フェイスオフはどこか？
答え
パックは自チームのベンチドアから入ったので、フェイスオフは A チームのディフェンディング・ゾーンにあるフェイスオフスポットのいずれかで行われる。Rule 85.1

状況 85.14
第 2 ピリオド、A チームがディフェンディング・ゾーンにいて、B チームがプレーヤーチェンジをしているのと同時に、パックをエンドゾーンからクリアしようとした。パックは開いているドアにぶつかり、氷上に跳ね返った。最も近くにいたラインズパーソンが直ちにプレーを中断した。続くフェイスオフはどこで行われるか？
答え
フェイスオフは、B チームのプレーヤーズ・ベンチに隣接するニュートラル・ゾーンの最も近いフェイスオフスポットで行われる。Rule 85.1

状況 85.15
A チームの守備側のプレーヤーが自陣のディフェンディング・ゾーンからパックを運び出し、そのプレーヤーがディフェンディングブルーラインを越えるとすぐに、そのプレーヤーはウィングの 1 人にパスをしようとした。このパスの間、B チームのプレーヤーはラインチェンジをしており、守備側のプレーヤーを交代するドアは開いている。もしパスが B チームの開いているベンチのドアに入ったら、フェイスオフはどこになるか？

ゲームの流れ

答え
フェイスオフは、B チームのプレーヤーズ・ベンチに隣接するニュートラル・ゾーンのフェイスオフスポットで行われる。Rule 85.1

状況 85.16
A チームは攻撃中で、B チームのゾーンにいる。ゴールの周囲で混乱が起き、ゴールにぶつかるが固定されたままである。パックはゴールの後ろから放たれネットの下をとおり、スロットに出てきた。このような場合、レフェリーはどうすればよいか？
答え
パックが後方または側方からゴールの下をくぐった場合、または後方または側方からネットをとおった場合、これをオンアイス・オフィシャルが目撃した場合、プレーは直ちに止められ、続くフェイスオフは、プレーが止められた場所に最も近いゾーンの最も近いフェイスオフスポットで行われる。Rule 85.2

状況 85.17
ゴール付近でのパックの奪い合いで、ゴールがわずかに前方に傾き、パックが後方からゴールに入った。レフェリーは何をすべきか？続くフェイスオフはどこか？
答え
もしこのようなことがオンアイス・オフィシャルの誰かによって目撃された場合、そのプレーは直ちに止められ、続くフェイスオフはプレーが止められた場所に最も近いゾーンのフェイスオフスポットで行われるべきである。Rule 85.2

状況 85.18
B チームがアイシングの可能性のあるパックをショットする。そのパックはレフェリーに当たった。これはまだアイシングの可能性があるのか？
答え
はい、これはまだアイシングの可能性がある。Rule 81.1；Rule 85.4

状況 85.19
アタッキング・プレーヤーがショットしたパックがゲームオフィシャルでディフレクトし、ショットしたプレーヤーのアタッキング・ゾーン内で場外に出た。その後のフェイスオフはどこで行われるか？
答え
続くフェイスオフは、パックがオフィシャルにディフレクションした場所に最も近いゾーンのフェイスオフスポットで行われる。Rule 85.4

状況 85.20
ディフェンディング・ゾーンにいるプレーヤーがパックをゾーンの外に出そうとした。そのプレーヤーがパックをショットし、パックはラインズパーソンの肩からプレーヤーズ・ベンチにディフレクションした。ラインズパーソンは守備側のブルーラインのすぐ外側のニュートラル・ゾーンに立っていた。オフィシャルの肩に当たらなくてもパックがプレーヤーズ・ベンチに入っていたことは明らかである。続くフェイスオフはどこか？

ゲームの流れ

答え
ディフェンディング・ゾーンの外側のニュートラル・ゾーンでのフェイスオフ。パックがオフィシャルにあたり場外に出た場合、続くフェイスオフは、パックがオフィシャルにあたった場所に最も近いゾーンのフェイスオフスポットで行われる。Rule 85.4

状況 85.21
B8 が自陣のエンドゾーンからパックをショットし、それがニュートラル・ゾーンにいるレフェリーに当たって場外に出た。フェイスオフはどこか？
答え
レフェリーにあたった場所に最も近いニュートラル・ゾーン。Rule 85.4

状況 85.22
ニュートラル・ゾーンからショットしたパックがアタッキング・ゾーンに入り、クロスバーに当たって場外に出た場合、フェイスオフはどこで行われるか？回答
答え
フェイスオフはニュートラル・ゾーンの最も近いフェイスオフスポットで行われる。Rule 85.1；Rule 85.5

状況 85.23
A16 はディフェンディング・ゾーンにいる。A16 は B4 のプレッシャーを受けながらパックをショットした。パックはクロスバーに直接あたって場外に出た。続くフェイスオフはどこであるか？
答え
フェイスオフは、パックがショットされたゾーンのエンドゾーンフェイスオフスポットで行われる。Rule 85.1

状況 85.24
自ゾーンにいる A チームのディフェンスが、奥のブルーラインにいる味方にロングパスをしようとした。このパスはレッドラインと奥のブルーラインの間で B チームのプレーヤーによってディフレクトし場外に出た。続くフェイスオフはどこであるか？
答え
B チームのエンドゾーンの外側のニュートラル・ゾーンのフェイスオフスポット。他の適用と矛盾しないように、選択されるフェイスオフの場所は、B チームに最小限のテリトリアルアドバンテージを与えるものでなければならない。Rule 85.1

状況 85.25
B84 が自陣のエンドゾーンからパックをショットし、それがニュートラル・ゾーンのラインズパーソンにあたって場外に出た。フェイスオフはどこか？
答え
フェイスオフはニュートラル・ゾーンのラインズパーソンにあたった最も近い場所である。Rule 85.4

ゲームの流れ

状況 85.26

あるプレーヤーが自陣のディフェンディング・ゾーンからパックをショットした。パックはニュートラル・ゾーンにいるレフェリーにぶつかり場外に出た。フェイスオフはどこで行われるか？

答え

フェイスオフはニュートラル・ゾーンの最も近いフェイスオフスポットで行う。Rule 85.4

状況 85.27

ディフェンディング・ゾーンにいる A チームのプレーヤーが、ゾーン内にある B チームの開いたプレーヤーズ・ベンチのドアにパックをショットした。フェイスオフはどこか？

答え

パックが開いたドアから相手側プレーヤーズ・ベンチに入った場合、フェイスオフは相手側プレーヤーズ・ベンチに隣接するニュートラル・ゾーンで行われる。Rule 85.1

状況 85.28

B チームはアタッキング・ゾーンにいる。B3 がポイントからパックをショットし、ゴール前の B4 がハイスティックでパックをそらしたが、このパックはクロスバーに当たって場外に出た。フェイスオフはどこで行われるか？

答え

アタッキング・チームがハイスティックでパックに接触するか、またはグローブでパックを叩き、それがゴールポストまたはクロスバーに当たってディフレクトし、場外に出た場合、その後のフェイスオフは、アタッキング・チームのアタッキング・ゾーンの最も近いフェイスオフスポットで行われる。Rule 85.5

状況 85.29

攻撃側のディフェンスが攻撃側のブルーラインのすぐ内側から相手ゴールに向かってショットを放つ。パックはゴールネットとネットの下側と外側にある透明なプラスチックの柵の間に挟まった。続くフェイスオフはどこか？

答え

フェイスオフはアタッキング・ゾーンのスポットで行われる。Rule 85.5

状況 85.30

パックがガラスの上にあるテレビカメラにぶつかり、プレーエリアの外に出なかった。パックがディフェンディング・ゾーンからショットされた場合、これはディレイ・オブ・ゲームの ペナルティになるか？

答え

パックが氷上から外に出たと判断される場合は、ディレイ・オブ・ゲームのペナルティが科される。疑わしい場合は、ペナルティは科されない。

ゲームの流れ

状況 85.31
アタッキング・プレーヤーがパックをハイスティックし、アタッキング・ゾーンでパックが場外に出た。フェイスオフはどこか？
答え
フェイスオフはニュートラル・ゾーンのフェイスオフスポットで行われる。アタッキング・チームはパックをハイスティックするという不正な行為から利益を得てはならない。Rule 80.2；Rule 85.5

状況 85.32
アタッキング・プレーヤーが手でパックを叩き、それがアタッキング・ゾーンで場外に出た。続くフェイスオフはどこで行われるか？
答え
続くフェイスオフはニュートラル・ゾーンのフェイスオフスポットで行われる。アタッキング・チームは、手でパックを叩き場外に出すという不正な行為から利益を得てはならない。Rule 79.3；Rule 85.5

状況 85.33
プレーヤーがパックをショットしているとき、氷上に横たわっているグローブの内側にパックが詰まった。プレーは止められるべきか？
答え
はい、プレーは中断し、プレーが中断した最も近いフェイスオフスポットでフェイスオフが行われる。Rule 85.2

RULE 86　試合とピリオドの開始

状況 86.1
第 2 ピリオド、第 3 ピリオド、または延長戦を開始するためのインターミッションクロックが終了したときに、そのチームが氷上にいなかった場合、そのチームにはどのようなペナルティが適用されるか？
答え
第 2 ピリオド、第 3 ピリオド、または延長戦を開始するために、インターミッションの時間が経過したときに、そのチームが氷上にいない場合、または氷上に進んでいるのが確認できない場合は、どちらか一方または両方のチームにベンチ・マイナー・ペナルティを科す。Rule 86.2

状況 86.2
インターミッションの残り時間が 30 秒になったが、ホームチームが第 2 ピリオドを開始するために氷上に出てくる気配がない。このような状況でオフィシャルができること/すべきことがあるとすれば何か？どのルールを参考にするか？
答え
このシナリオでは、オンアイス・オフィシャルは積極的に行動し、チームオフィシャルに知らせるか、あるいはチームのドレッシングルームまで行って警告を与えるべきである。しかし、それでも遅刻した場合は、Rule 86.2 によるベンチ・マイナー・ペナルティの対象となる。

ゲームの流れ

状況 86.3
試合開始時刻が 0:00 になったとき、ビジターチームは氷上におらず、氷上に進む姿も見えない。これはペナルティか？
答え
これはペナルティではない。Rule 86.2 が適用されるのは、第 2 ピリオド、第 3 ピリオド、延長戦の開始時のみである。

RULE 87　　タイムアウト

状況 87.1
フェイスオフの最中、ウイングの 1 人がフェイスオフサークルに侵入し、フェイスオフ・バイオレーションがあったとして、ラインズパーソンが違反したチームのセンターを交代させる。その後、守備側はタイムアウトを要求する。このタイムアウトは、ラインズパーソンが 2 回目のフェイスオフのホイッスルを吹く前に要求すべきか？
答え
フェイスオフ・バイオレーションの後にはタイムアウトを認めてはならない。Rule 87

状況 87.2
A チームのエンドゾーンでフェイスオフが行われようとしている。ラインズパーソンが A チームのセンターをフェイスオフ・バイオレーションとして交代させる。B チームベンチは「タイムアウト」を要求する。タイムアウトは認められるか？
答え
フェイスオフ・バイオレーションの後にはタイムアウトを認めてはならない。Rule 87.1

状況 87.3
ペナルティショットが A チームに与えられる。レフェリーはシュート中の責任についてシューターとゴールキーパーに指示した。B チームはタイムアウトを取りたいとラインズパーソンに伝えた。ラインズパーソンは何をすべきか？
答え
ラインズパーソンはタイムアウトを要求するチームに、ショットをするプレーヤーとショットを守るゴールキーパーに指示があった後はタイムアウトを認めてはならないことを伝えるべきである。Rule 87.1

状況 87.4
ペナルティショットが A チームに与えられる。レフェリーがオフィシャルボックスに行き、オフアイス・オフィシャルにペナルティショットを報告する前に、B チームのキャプテンがタイムアウトを要求した。このタイムアウト要求は認められるか？
答え
はい、レフェリーがシュートを打つプレーヤーとシュートを守るゴールキーパーに指示を与える前に要求されたので、このタイムアウト要求は認められるべきである。Rule 87.1

ゲームの流れ

状況 87.5
ペナルティショットが A チームに与えられる。レフェリーはオフィシャルボックスに行ってアナウンスする。ゴールに向かう途中、B チームのキャプテンがタイムアウトを要求する。レフェリーはタイムアウトを認めるべきか？
答え
はい、シュートを打つプレーヤーとシュートを守るゴールキーパーへの指示は与えられていない。しかし、一旦指示が与えられれば、タイムアウトは認められない。Rule 87.1

状況 87.6
シュートアウト中にチームはタイムアウトを要求できるか?
答え
シュートアウト中にタイムアウトは認められない。Rule 87.1

状況 87.7
レフェリーは A チームにペナルティショットを与えた。すべてのオフィシャルとプレーヤーがショットの位置にいるとき、B チームのコーチはタイムアウトを要求したい。コーチはこれを行うことが許されるのか?
答え
許されない。関係するプレーヤーに指示が与えられた後は、タイムアウトは認められない。Rule 87.1

状況 87.8
第 3 ピリオド後半、A チームのディフェンディング・ゾーンでのフェイスオフのとき、A チームのゴールキーパーがプレー中に動揺して退場する。A チームはゴールキーパーをバックアップに交代させる。バックアップのゴールキーパーがポジションに向かっているとき、B チームのコーチがタイムアウトを要求する。タイムキーパーが B チームにタイムアウトを通知しているとき、A チームのプレーヤーがプレーヤーズ・ベンチからパックを数個取り出し、A チームのゴールキーパーのウォーミングアップを始めた。オフィシャルはこの状況をどのように扱うのか？ A チームはその行為に対してペナルティを受けるのか？
答え
タイムアウトの間、ゴールキーパーまたは交代のゴールキーパーにパックを使ったウォームアップをさせてはならない。1 回の警告後でもこの行為が続けられた場合、レフェリーは違反したチームにディレイ・オブ・ゲームペナルティを科す。Rule 87.1

状況 87.9
ゴール後にコマーシャルブレイクを入れることは可能か？
答え
できない。Rule 87.2

ゲームの流れ

状況 87.10

3 対 3 のスケーターで延長戦が行われる試合で、残り 16 秒のとき、青チームにマイナー・ペナルティが科される。赤チームがタイムアウトを要求し、タイムアウトが認められる。タイムアウトが切れると同時に、青チームがタイムアウトを要求した。これは認められるべきか？

答え

1 回のプレー中断において認められるタイムアウトは、コマーシャルであれチームであれ 1 回のみである。Rule 87

状況 87.11

A チームがゴールを決めた。ゴールブレイクの終わりに、B チームのコーチはタイムアウトを要求する。このときにタイムアウトを要求することは許されるか。コーチはタイムアウトを利用して、コーチチャレンジを開始するかどうかを決定する時間を延長することができるか？

答え

ゴール後にタイムアウトを要求することは認められるが、ゴールブレイク後はタイムアウトによってコーチチャレンジを開始する時間を延長することはできない。Rule 38 および Rule 87

SECTION 11

Junior Ice Hockey



ジュニア・アイスホッケー

RULE 88　男子ジュニア・アイスホッケー - 年齢カテゴリ

該当なし

RULE 89　特定競技規則

該当なし

RULE 90　男子ジュニア・アイスホッケー - 特定用具規則

該当なし

SECTION 12

Miscellaneous



その他

RULE 91　その他

M 1

ゴールキーパーがプレー中にグローブを紛失した。プレーは止められるか？

答え

ゴールキーパーが直ちに負傷する危険があるとレフェリーが判断した場合には、プレーを中止しなければならない。相手チームに即座に得点のチャンスが迫っている場合、レフェリーはプレーの続行を認めることができる。このようなプレーで問題になるのは、常識的な判断である。この問題に対する具体的な答えはルールブックには記載されていない。

M 2

プレーがエンドゾーンを出るとき、ラインズパーソンはゴールが外れていることに気づいた。しかし、ラインズパーソンはなぜゴールが外れたのかわからない。ラインズパーソンはどうすればよいか？

答え

ラインズパーソンは、ネットが留め具から外れレフェリーが気づかなかった場合、ホイッスルを吹くことができる。これは、アタッキング・プレーヤーがシュートをしているときに同時にゴールが外れた場合でも、ディフェンディング・チームがパックを持ってエンドから離れるときでもない。ゴールが外れてプレーが継続しているときである。これによってレフェリーは、ゴールが外れたまま長時間プレーを続けるという恥ずかしさから解放される。ホイッスルを吹くときに、誰がパックをコントロールしているかを確認することが重要であり、ゴールがどのようにずれたかについてある程度の知識を持つことがさらに重要である。

M 3

一方的な試合で残り時間がわずか数秒となったとき、プレー中にスクラムが起こり、ラインズパーソンの 1 人が介入しようとする。試合が残り数秒しかないことがわかっているので、オンアイス・オフィシャルは誰もホイッスルを吹かない。しかし、残り 1.2 秒でタイム・キーパーが時計を止めた。オンアイス・オフィシャルはどうすればよいか？

答え

ペナルティの判定後、オンアイス・オフィシャルは、タイムキーパーにプレーが中断されなかったことを伝え、残り時間を計時して試合が終了したことを示すよう求める。これにより、さらなるをいさかい防ぐことができる。

M 4

A チームが B チームのゾーンにパックを入れる。ラインズパーソンはディレイド・オフサイドのシグナルを出す。シュートはゴールに向かい、ゴールキーパーがセーブした。A チームはこのプレーで得点できなかったが、これは公式統計ではシュートとして数えられるか？

答え

はい、シュートとしてカウントされる。ただし、パックがゴールに入った場合はゴールは認められず、ショットオンゴールは記録されない。

INTERNATIONAL ICE HOCKEY FEDERATION
Brandschenkestrasse 50, PO-Box
8027 Zurich, Switzerland

Phone +41 44 562 22 00
E-mail office@iihf.com

www.IIHF.com

IIHF – Version 1.0, June 2026